第3次ながおかヘルシープラン21
進捗状況報告書

令和8年9月

長岡市健康増進課

第3次ながおかヘルシープラン21

（令和６年度～令和17年度）

基本理念

人とひと　輝く笑顔がはぐくむ
健康なまち　ながおか

基本目標

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

- 健康づくりに取り組むことで生活の質を高め、健康寿命の延伸を目指します
- 誰もが自然と健康づくりに取り組める環境整備を行い、健康格差の縮小を図ります

基本方針

1 健康的な生活習慣の継続と健康状態の改善
（個人の行動と健康状態の改善）

2 主体的な多世代健康づくりの広がりを推進
（社会環境の質の向上）

8つの分野別に目標と具体的な取り組みを設定しました。また、個人を取り巻く環境やその質の向上に取り組むことで、自然と健康的な行動をとることができる環境づくりを目指します。

生活習慣病の発症予防
健（検）診で健康管理

生活習慣病の重症化予防
医療機関の受診や保健指導などの活用

- 栄養 食生活
- 身体活動 運動
- 休養 睡眠
- 飲酒
- 喫煙
- 歯・口腔の健康

3 ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

胎児期から高齢期まで、生涯を通じた切れ目のない健康づくりに取り組みます。

こども → 青年期 壮年期 → 高齢者

ライフステージごとのホルモンの変化など、女性の特性を踏まえた健康づくり

事業一覧

No.	事業名	実施主体	掲載ページ								
			①栄養・食生活	②身体活動・運動	③休養・睡眠	④飲酒	⑤喫煙	⑥歯・口腔の健康	⑦健康管理	社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上	誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備
1	地域コミュニティ健康づくり事業	健康増進課	4	8	13	15	16	17	21	25	33
2	薬剤師による健康サポート事業	長岡市薬剤師会	4	8	13	15	16		21	25	33
3	介護予防・日常生活支援総合事業	健康増進課、長寿はつらつ課	5	9	13			17		26	33
4	各地域のコミュニティ事業	地域政策部	5	9							34
5	骨粗しょう症予防事業	健康増進課	5	9					22		34
6	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	健康増進課	5					18	22		34
7	スポーツ栄養セミナー	栄養士会長岡支部	5	9							
8	スマート・ダイエット・キャンペーン事業	栄養士会長岡支部	5								
9	学校給食推進活動 （給食だよりの発行や栄養指導を含む）	学務課	5								34
10	食生活改善推進委員養成教室	健康増進課	6	9	13			18	22		34
11	食生活改善推進委員研修会	健康増進課	6	9	14			18	22		34
12	食育総合講座～みんなの食育塾～	健康増進課	6						22		34
13	食育講演会	健康増進課	6						22		34
14	学校給食献立商品化	健康増進課	6						22		34
15	保育（こども）園食育普及講座	健康増進課	6	10					22		35
16	児童クラブ等食育プログラム事業 （旧：児童館食育プログラム事業）	健康増進課	6								35
17	食育推進料理教室 （旧：多世代健康料理教室）	長岡市食生活改善推進委員協議会 （健康増進課）	7						23		35
18	食生活の普及	JAえちご中越組織福祉課	7							26	35
19	母子健康手帳交付	こども家庭センター	7			15	16				
20	乳幼児健診	こども家庭センター	7							26	
21	自然に健康な食事ができる環境づくり事業	長岡地域振興局健康福祉環境部	7								35
22	地域活動事業	地域政策部		10					23	26	35
23	地域交流スポーツ大会	スポーツ振興課		10							
24	ユニバーサルスポーツ普及推進事業 （旧：コミュニティスポーツ活動推進事業）	スポーツ振興課		10							
25	生涯スポーツ推進事業	（公財）長岡市スポーツ協会		10							
26	心身障害者スポーツ教室	福祉課		10						26	36
27	体力テスト	学校教育課		10							
28	学校教育（運動）	学校教育課		11							
29	ふれあいスポーツアシスタント事業	学校教育課		11							
30	児童会館・児童クラブ （旧：児童館・児童クラブ）	子ども政策課		11							
31	各種大会開催事業	（公財）長岡市スポーツ協会		11						26	36
32	スポーツ教室・クラブ運営事業	（公財）長岡市スポーツ協会		11						27	36
33	指導者・団体育成事業	（公財）長岡市スポーツ協会		11							36
34	専門指導者派遣事業	（公財）長岡市スポーツ協会		11							36
35	健康増進活動	JAえちご中越組織福祉課		12						27	36
36	単位クラブ活動	長岡市わくわく連合会		12						27	
37	ユニバーサルスポーツ推進事業 （旧：健康維持スポーツ大会）	長岡市わくわく連合会		12						27	
38	パラスポーツ体験会	福祉課		12						27	36
39	こころの健康づくり講演会	健康増進課			14					27	36
40	こころの健康相談会	健康増進課			14	15				28	37
41	精神保健福祉相談	長岡地域振興局健康福祉環境部			14					28	37
42	受動喫煙防止対策	健康増進課					16				37

No.	事業名	実施主体	掲載ページ								
			①栄養・食生活	②身体活動・運動	③休養・睡眠	④飲酒	⑤喫煙	⑥歯・口腔の健康	⑦健康管理	社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上	誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備
43	たばこ対策推進事業	長岡地域振興局健康福祉環境部					16				37
44	妊婦歯科健診	こども家庭センター						18			
45	乳幼児歯科健診	こども家庭センター						18			
46	フッ素塗布事業（2歳児歯科健診含む）	こども家庭センター						18			
47	乳児相談時の歯科保健相談	こども家庭センター						18			
48	園児への歯科保健指導	保育課						18			
49	保護者への啓発	保育課						18			37
50	歯科健診・歯科受診勧奨	保育課						18			
51	公立保育園・幼稚園のフッ化物洗口の実施	保育課						19			
52	歯科健診・治療勧奨	学務課						19			
53	小学校・中学校でのフッ化物洗口の実施	学務課						19			
54	保護者への啓発	学務課						19			
55	歯間部の清掃指導	学務課						19			
56	教科等における健康教育	学務課						19			
57	学校歯科医との連携	学務課						19			
58	歯周病検診事業	健康増進課						19			
59	後期高齢者歯科健診事業	健康増進課						19			
60	ながおかウェルネス事業	健康増進課						20	23		37
61	在宅要介護者等歯科保健推進事業	長岡地域振興局健康福祉環境部						20			
62	口腔ケア研修会	長岡地域振興局健康福祉環境部						20			
63	フッ化物洗口実施状況調査・指導	長岡地域振興局健康福祉環境部						20			
64	かむちゃん事業	南部地域事務所						20			
65	CKD・糖尿病性腎症重症化予防対策事業 （旧：CKD・糖尿病性腎症等栄養指導事業）	健康増進課							23		38
66	特定保健指導事業	健康増進課							23		
67	生活習慣病予防事業	健康増進課							23		38
68	あなたの健康相談	健康増進課							23	28	38
69	健康診査事業	健康増進課							24		
70	訪問指導事業	健康増進課							24		
71	オンライン保健指導	健康増進課							24		38
72	糖尿病を知るつどい	長岡市医師会							24		
73	糖尿病献立集による情報提供	栄養士会長岡支部							24		
74	生活習慣病予防のための食に関する情報提供	栄養士会長岡支部							24		
75	地域職域連携推進協議会	長岡地域振興局健康福祉環境部							24		38
76	家庭教育活動事業	子ども政策課								28	38
77	ブックスタート	こども家庭センター								28	39
78	長岡市ファミリー・サポート・センター会員養成講習会	子ども政策課								28	39
79	子育ての駅運営事業	子ども政策課								29	39
80	保育付き事業の実施	子ども政策課								29	39
81	パパママサークル	こども家庭センター								29	40
82	延長保育、一時保育、休日保育、病児・病後児保育	保育課								29	40
83	保育園地域子育て支援センター	保育課								29	40
84	ゲートキーパー研修	健康増進課								29	40

No.	事業名	実施主体	掲載ページ								
			①栄養・食生活	②身体活動・運動	③休養・睡眠	④飲酒	⑤喫煙	⑥歯・口腔の健康	⑦健康管理	社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上	誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備
85	窓口・電話による健康相談	健康増進課								30	40
86	健康づくりの周知	健康増進課								30	40
87	総合相談援助事業	長岡市社会福祉協議会								30	40
88	社会福祉協力校指定事業	長岡市社会福祉協議会								30	
89	子育て支援地区活動	母子保健推進員協議会 （こども家庭センター）								30	40
90	PTA 活動	長岡市出雲崎町小中学校PTA 連合会 （子ども政策課）								30	40
91	子どもの虐待防止ネット・にいがた学習会・講座	こども家庭センター								30	40
92	無料育児相談	長岡助産師会								30	40
93	相談事業	市民協働センター								30	41
94	ままのまカフェへの助産師派遣事業	長岡助産師会								31	41
95	ウィルながおか相談事業	人権・男女共同参画課 （男女平等推進センター）								31	
96	生涯学習推進・相談事業	文化振興課								31	
97	民生委員活動	福祉総務課								31	
98	ニート等の若者の就労支援事業	人材・働き方政策課								31	
99	教育支援教室・支援スペース	学校教育課								31	
100	教育相談・訪問相談	学校教育課								31	
101	子ども・青少年相談活動(子ども・青少年相談センター)	学校教育課								31	
102	児童虐待防止ネットワークの構築 (要保護児童対策地域協議会)	こども家庭センター								32	
103	サマーキャンプ	子ども政策課								32	
104	母子保健推進員の家庭訪問	こども家庭センター								32	
105	子育てガイドの配布	こども家庭センター								32	
106	幼稚園子育て支援事業	長岡市私立幼稚園・認定こども園協会								32	
107	高年齢者就業機会確保事業	（公社）長岡市シルバー人材センター								32	
108	バリアフリーのまちづくり（新潟県福祉のまちづくり条例）	福祉総務課									41
109	基本計画の推進	環境事業課									41
110	ごみの有料化によるごみ改革事業	環境事業課									41
111	リサイクル協力店の市民への紹介	環境事業課									41
112	市政だより・環境情報誌による啓発	環境事業課、環境政策課									41
113	堆肥化容器購入への助成	環境事業課									41
114	ながおか地消地産推進店「ばくばくさんのお店」の展開	農水産政策課									41
115	長岡市交通バリアフリー基本構想推進事業	交通政策室（都市政策課）									41
116	雪道計画推進事業	道路管理課									42
117	通学路歩道等消雪施設整備事業	道路管理課									42
118	（小学校における）環境教育	学校教育課									42
119	環境学習・啓発推進事業	学校教育課									42
120	熱中！感動！夢づくり教育推進	学校教育課									42
121	学校保健推進活動	学務課									42
122	地域の伝承料理や健康課題を取り上げた情報提供	栄養士会長岡支部									42

1　健康的な生活習慣の継続と健康状態の改善

(1) 栄養・食生活

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
適正体重を維持している人の増加	適正体重を維持している人の割合（19歳以上男性）	67.1%	66.9%	66.9%	変化なし	↑	健康増進課
	適正体重を維持している人の割合（19歳以上女性）	67.0%	66.9%	66.7%	変化なし	↑	
	BMI25以上（肥満）の人の割合（19歳以上男性）	27.6%	27.7%	28.0%	変化なし	↓	
	BMI25以上（肥満）の人の割合（19歳以上女性）	20.8%	20.0%	20.0%	変化なし	↓	
バランスの良い食事を摂っている人の増加	主食・主菜・副菜のそろった食事を１日２回以上食べている人の割合	64.9%	－	－	－	80%	健康増進課
野菜摂取量の増加	野菜を１日に２回以上食べる児童・生徒の割合	84.7%	－	－	－	↑	健康増進課
	野菜を１日に２回以上食べる成人の割合	75.5%	－	－	－	↑	
食塩摂取量の減少	1日の食塩摂取量	8.9g（R1）	8.8g	－	－	7g	健康増進課
児童・生徒における肥満傾向児の減少	肥満度20%以上の児童の割合（小学校）	9.9%	8.7%	8.8%	変化なし	↓	学務課
	肥満度20%以上の生徒の割合（中学校）	8.6%	9.5%	9.6%	変化なし	↓	
	７時までに起きるこどもの割合（３歳児）	80.8%	84.0%	84.9%	変化なし	↑	こども家庭センター
	21時までに寝るこどもの割合（３歳児）	46.9%	47.3%	46.4%	変化なし	↑	
若年女性やせの減少	BMI18.5未満の女性の割合（20～39歳）	24.1%	23.7%	20.9%	改善	↓	健康増進課
低栄養傾向の高齢者の減少	BMI18.5未満の高齢者（75歳以上男性）の割合	6.0%	5.9%	5.5%	変化なし	↓	健康増進課
	BMI18.5未満の高齢者（75歳以上女性）の割合	10.7%	11.5%	12.2%	変化なし	↓	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【栄養講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・生活習慣病やフレイルを予防するための食事など、栄養や食べるコツについて学ぶ	【栄養講座】 実施回数：６回 参加延人数：110人	・地区の健康課題について、コミュニティセンター職員と共有し、地域の実情に合わせた講座を実施できた。講座をとおして、住民と地区の健康課題を共有し、生活習慣病やフレイルを予防するための食事について理解を深めることができた。 ・栄養講座実施回数が41地区中６回の開催と少数である。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	薬局内で糖尿病予備軍・糖尿病患者、高血圧症患者への食事内容アドバイス。食事内容の見直し、塩分摂取を減らす取組み ・健康イベントにおいて食事内容見直しアドバイス	・薬局内で糖尿病予備軍・糖尿病患者、高血圧症患者への食事内容アドバイス。食事内容の見直し、塩分摂取を減らす取組み ・健康イベントにおいて野菜摂取量の増加へのアドバイス、血糖値スパイクを抑える食べ方のアドバイス・高齢者の低栄養への対応アドバイス	・薬局内で糖尿病予備軍・糖尿病患者、高血圧症患者への食事内容アドバイス。食事内容の見直し、塩分摂取を減らす取組み ・健康イベントにおいて野菜摂取量の増加へのアドバイス、血糖値スパイクを抑える食べ方のアドバイス・高齢者の低栄養への対応アドバイス	個々の薬局の実施状況については把握できていない。 健康イベントにおいては、食品の塩分、糖質に着目したワンポイントアドバイスやクイズにより、啓発。参加者のアンケートからも理解が進んだと思われる。	新潟県薬剤師会企画のにいがた健康応援プロジェクトに、当会の各薬局が参加。テーマ「食生活」バランスのよい食生活を呼びかけよう：９月１日～10月31日の重点期間に来局者に向けて、ポスター、パンフレットを用いて啓発。また、健康イベントにておいても同様の内容を紹介、啓発する。 健康イベントにおいて野菜摂取量の増加へのアドバイス、血糖値スパイクを抑える食べ方のアドバイス・高齢者の低栄養への対応アドバイス	長岡市薬剤師会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度実施計画	実施主体
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【栄養改善講座】 ・高齢者の食生活に関する講話や実技指導を行い、介護予防の具体的方法を普及啓発する。 ・地域からの依頼に基づき、単発的に実施する。 【栄養教室】 ・特定健康診査の結果や問診項目等で把握された低栄養のハイリスク者を対象に教室を開催し、個別性に応じた具体的な助言や支援を行うことで、確実な生活改善を促し、要介護状態やそれにつながるフレイル（虚弱）状態を未然に予防する。 ・また、低栄養に関する知識の普及啓発の場として、一般の方を対象とした教室も実施する。	【栄養改善講座】 ・回数：９回 ・参加延人数：191人 【栄養教室】 ・回数：９回（３教室） ・参加実人数：57人 ・参加延人数：157人	主に単発的に実施しているため、習慣化に結びついているのか効果判定が困難。引き続きツールを活用し、具体的な実技指導と事後の調査が必要である。 運動や認知症に比べて本項目への意識は低いため、今後も複合的な介護予防教室等での普及啓発が必要である。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	①口腔機能向上、栄養改善等の複合プログラムを実施。 ②理学療法士等の専門職の個別アセスメントによるケア、運動機能向上を中心とした短期間の集団プログラムを実施。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95	（評価） 専門職等による指導を実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷。 セルフケアの定着。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146	長寿はつらつ課
4	各地域のコミュニティ事業	子どもを持つ若い母親を対象とした講座を開催し、子育てやしつけ、生活習慣などを学習すると共に、子育てからのストレスを解消し、地域の中に溶け込んでいけるようサポートしていく。	①離乳食講座 ②歯磨き講習	①栄養士による指導 ②歯磨き指導、おやつの選び方指導	母推とも連携しながら参加者募集を進めているが、さらに関心を持ってもらう周知方法が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
5	骨粗しょう症予防事業	骨粗しょう症予防に関する動機付けを行い、市民自ら健康管理を実践できるよう支援する。また、骨粗しょう症による骨折を予防し、健康寿命の延伸を図るもの	・骨粗しょう症予防講座 ・簡易骨密度測定コーナー ・地区フレイル予防講座、相談等での簡易骨密度測定	令和７年度参加者数：2,447人 (1)骨粗しょう症予防講座 ・実施回数27回、参加者数383人 (2)簡易骨密度測定コーナー ・測定者数2,064人	測定結果と併せ指導を受けることで、健康意識を高め、行動変容への動機づけに効果がある。アンケートにより、骨密度を数値化して見た後、栄養・運動指導講座を受けることで、生活習慣改善の動機づけに繋がっている。	これまで取り組みに参加したことのない人や、子育て・働き盛り世代に参加してもらえるよう、コミセンや各種イベント、子育ての駅等、地域に出向いて積極的に実施していく。	健康増進課
6	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	重症化予防等の後期高齢者に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）を両輪として保健事業を実施し、健康の保持増進とQOLの向上を図る。	低栄養ハイリスク者やかかりつけ医から保健指導の紹介があった高齢者に対し、管理栄養士等が個別の栄養相談を行うもの。	栄養相談事業 参加者数：53人（実）	相談を希望しない者へのアプローチが課題	低栄養ハイリスク者やかかりつけ医から保健指導の紹介があった高齢者に対し、管理栄養士等が個別の栄養相談を行う。来所相談に加え、リスクが高いと思われる方についてアウトリーチ支援を行う。	健康増進課
7	スポーツ栄養セミナー	栄養学の知識をもって、各スポーツ選手の競技内容や年齢、目的に応じて栄養管理や食事のアドバイスや指導等を行う。（栄養指導セミナーや相談会の講師・選手やチームサポート）	栄養・食事を通して各競技に適した健康的な身体を造り、パフォーマンス・競技成績の向上を図る。	平成27年度より栄養士会会員がスポーツ栄養専門の事業所起業したため、スポーツ栄養セミナー部会活動は終了。			栄養士会長岡支部
8	スマート・ダイエット・キャンペーン事業	次世代を担う高校生に対して《賢い食べ方≫教育事業に取り組んでいる。JA委託「高校生ふれあいスクール」長岡地区実施予定	調理実習を通して実践的栄養指導を行っている。	スマートダイエットキャンペーンは数年前に終了。 「高校生お米ふれあいスクール」は新潟県栄養士会栄養ケアステーションへ担当移行済み。			栄養士会長岡支部
9	学校給食推進活動（給食だよりの発行や栄養指導を含む）	学校給食を管理運営し、健康教育（給食だよりの発行や栄養指導含む）を家庭や地域と連携を図りながら実施する。	・給食だよりの発行とよりでの健康指導情報の発信 ・通常授業と連携した食の指導の実施 ・給食試食会の実施 ・食育講演会の実施	・給食だよりの発行・健康指導情報の発信： 各学校ごとに全家庭に配付（８月を除く毎月１回、市内共通特別号年１回の計12回実施）した。 ・食の指導の実施： 全市内学校で各学校の計画に基づき実施した。 ・給食試食会の実施： 保護者対象：49校 学校後援会：１校 ・食育講演会の実施： 児童生徒対象：４校 保護者対象：２校	・給食だよりの発行・健康指導情報の発信： 減塩の取組み（「ながおか減塩うまみランチ」）や関連した健康指導情報を児童生徒、保護者に周知する機会となった。 ・食の指導の実施： 各学校の児童生徒の健康・生活リズムを把握し、現状に沿った内容を検討し実施することができた。 ・給食試食会の実施： 試食会を通じて保護者等へ地産地消、減塩について周知する機会となった。 ・食育講演会の実施： 講演会等を実施する学校が少なかったが、実施した学校では各学校のテーマにそった内容で講演会を実施し、食育の普及啓発につながった。	・給食だよりの発行・健康指導情報の発信： ８月を除く毎月１回、市内共通特別号年１回の計12回実施する。 ・食指導の実施： 各学校の食育指導計画による。 ・給食試食会の実施： 各学校の年間計画による。 ・食育講演会の実施： 各学校の年間計画による。	学務課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度実施計画	実施主体
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・栄養の基礎知識 ・調理の基本 ・食育推進と食生活改善推進委員について ・生活習慣病と健康管理 ・口腔衛生等 講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。	健康増進課
12	食育総合講座～みんなの食育塾～	市民が食への興味関心を深め、健全な食生活を実践するため、食に関わる団体や個人と連携して市民向け講座を開催する。	テーマに沿って講座開催（親子、伝承料理、生活習慣病予防、男性、高校生、動画配信） 講話及び調理実習等の体験を行う。	・親子（５コース）：50組（大人 57人、子供56人） ・伝承料理（２コース）：33名 ・生活習慣病予防（２コース）：24名 ・認知症予防（１コース）：18名 ・動画配信（１講座）：申込者468人（拝聴717回） ・高校・大学生向け（１講座）：113人	リピーターも多いが、青壮年期の新たな層の参加もみられた。動画配信講座は幅広い市民の皆様から視聴いただくことができた。 一方で、疾病予防講座は参加希望者が伸び悩み、広報活動を工夫することが課題である。	働き世代や青壮年期が多く参加できる講座を計画したり、高校生向けを充実させるなどし、新たな層を多く取り込めるよう計画していく。	健康増進課
13	食育講演会	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及を図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施するもの	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及を図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施	食生活改善推進委員協議会第２回全体研修会に併せて開催 日時：11月20日（木） 会場：リリックホールシアター 参加者：180人 講師：土屋　智帆氏（お米ライター） 「お米をもっと食べよう！」	アンケートでは、男性参加率が昨年度の１%から今年度は約10%へと大きく増加した。講演テーマが日常に身近な「お米」であったことが関心を集め、吸水方法や炊き方など実生活で役立つ内容が評価された。	R8年度も食生活改善推進員協議会の第２回研修会と併せた形で実施予定 予定日時：11月13日（金） 講師：武蔵大学　種村菜奈枝教授 テーマ：（仮）食品のリスクを正しく理解し、健康被害を防ぐ	健康増進課
14	学校給食献立商品化	市民へ減塩と野菜摂取を啓発するため、学校給食献立「ながおか減塩うまみランチ」を商品化し、市内スーパーマーケット等と連携し、販売するもの	スーパーマーケットと協働した惣菜販売 スーパーマルイ：６月１カ月間 割烹たいしん：通年	販売店舗 ①スーパーマルイ（市内７店舗） ＜６月販売個数＞ ・鶏肉の香味焼き：2,216個 ・ひじきとコーンのサラダ：419個 ・かみかみみそ汁：193個 （長岡市内の販売実績） ②割烹たいしん ・庁舎販売 さいわいプラザ　780食 アオーレ　137食 ・弁当　436食 ・社員食堂　554食	協働により減塩体験の場を創出し、市民の関心の高さを確認できた。 一方、参画企業の拡大や継続的検証、広報強化が課題である。	若い世代への周知方法として、乳幼児健診や学校等の給食だよりを活用する。 また、商工会等と連携し、企業への事業PRを行う。	健康増進課
15	保育（こども）園食育普及講座	園児や保護者を対象に、食に関する講話や運動、簡単な調理体験等を行う (1)保護者向け食育講座 (2)親子食育体験講座 (3)３回講座	【講座内容】 （1）保護者を対象に、乳幼児期の食事やおやつの取り方、共食等についての講話 （2）朝ごはんの大切さや食事のマナー、おやつの講話と簡単な調理体験を親子一緒に行う （3）園児に対し、食事のバランスや朝ごはんについての講話	(1)保護者向け食育講座 ・２園実施　36人（保護者31人、職員５人） ・内容：幼児期の食事で大切なこと (2)親子食育体験講座 ・５園実施　193人（児童91人、保護者80人、職員22人） ・内容：朝ごはんの大切さ、食事のマナー、おやつ等の講話と簡単な調理体験（シャカシャカおにぎりづくり、出汁試飲など） (3)３回講座 ・10園実施　延べ1,559人 ・内容 ①まごわやさしい ②き・あか・みどりの食べ物　元気なうんち・うんちおたすけ運動 ③早寝早起き朝ごはん　元気いっぱい全身運動	事後アンケート結果より、受講後の家庭での変化として「食べ物や食べることについての会話が増えた」「食事のバランスを気をつけるようになった」「野菜を食べる量・頻度が増えた」の回答が多く、講座による具体的な成果を把握することができた。 課題としては、アンケートの回答率が低いことが挙げられる。回答すると追加情報が得られるなど、インセンティブを考慮した方法を検討していきたい。 また、パクパクノートのやり取りが負担、または使い方が不明確だった保護者が少数見られたため、記載内容や説明方法について改善を検討したい。	R7年度と同等の内容で実施。 親子講座、保護者向け講座では引き続き、保護者の食の悩みに寄り添ったテーマになるよう、計画していく。	健康増進課
16	児童クラブ等食育プログラム事業	子ども自身が「食」に関心を持ち、「食」を正しく選択できるようにすることを目的に、児童館（児童クラブ）に来ている子どもたちを対象に、「食」にかかわる講話および調理実習を行う。	・講話のみか講話と体験で、食を学び、子ども自身の健康づくりにつながるような講座の実施	・実施児童館数：12か所 〈内訳〉 ・講話と実習：２か所 ・講話のみ：10か所 ・参加児童数：370人 ・実施内容　黄赤緑のバランス、マナー、朝食、野菜、みそ玉作り、おにぎりづくりなど	R7年度から児童クラブ運営の民営化により、職員の入れ替わりがあったため、周知が行き渡らず、申込が減少した。 一方で、実施した施設では、講話やワーク、クイズを組み合わせ、子どもたちの食への関心を深めることができた。	委託企業と連携し、各児童クラブへ事業説明の機会を設けて周知する。 実施の際は、子どもの現状を把握し、施設ごとに内容を検討する。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度実施計画	実施主体
17	食育推進料理教室	調理実習や講習を通し、食生活面からの健康づくりを推進するため、市から事業委託を受け、市内全域で実施。全市共通するテーマに基づき、地域の実情にあった食生活の相談・助言を行い、健康づくりに関する知識の普及を図る。	食推を対象とした研修の実施 テーマに沿った講話と調理実習	実施地区数：49地区 参加者数：622人 テーマ「ナトカリバランスで高血圧予防」 ～ちょいしお、もりもりやさいで健康になろう～	市内全地区で実施することができ、地域において「減塩の工夫」を推進する機会を確保することができた。参加者からは、「塩分不使用の出汁パックがあり、減塩でも手軽に出汁が取れることを知れてよかった」「日ごろの味付けが濃かったことに気付いた」「薄味にすることで出汁の旨味や野菜そのものの味を感じることができた」などの好意的な意見が寄せられ、事業に対する満足度も高く、食に関する知識の普及や健康意識の向上につながった。 一方で、実施する食推委員からは、参加者の確保に苦慮しているとの声が聞かれており、広報手段の工夫や新たな参加者層の開拓が課題となっている。	＜R8年度予定＞ テーマ「減塩、思ったよりも簡単だった！塩クイズ＆体験で学ぶ減塩のコツ」 内容 ・塩に関するクイズ ・ソルセイブで塩味チェック体験 ・調理実習 　献立：焼き稲荷・野菜たっぷりみそ汁・蒸し器のいらない茶碗蒸し 　実施地区数：48地区	長岡市食生活改善推進委員協議会（健康増進課）
18	食生活の普及	家族や自分自身の健康を維持する為や正しい食習慣を身につける機会、情報交換の場とする。 【リーダー研修会】 ながおか地域女性部にて実施。栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問より講師をいただき、旬の地場産野菜を使った料理や米粉を使った料理をテーマに実施。各地区から選出されたリーダーより研修会の参加、その後自地区にて健康料理教室の伝達講習会を実施いただく。（６月10月年２回実施） 【食育の日料理教室】 地域住民・市民の交流の場として、なじら～て東店併設「市民交流施設イーネ」で、食農・食育に沿った料理教室を開催。月１回「食育の日料理教室」を開催。	事業概要同様	【食生活リーダー研修会】 食生活リーダー研修会：２回開催（６月・10月） 各地区伝達講習会実績：18会場182名 【食育の日料理教室】 実績：12回129名	【リーダー研修会】 （評価） 栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問を講師に迎え、参加者の興味を引く企画を行うことにより、参加者および支部から好評をいただいている。 （課題） 女性部の高齢化により講習会を実施しない地区が増えている。 【食育の日料理教室】 旬の食材を使い、手軽に家庭でできる料理を提案することから、主婦層より人気となった。リピーターも多く、地域住民同士が「食」を通して関りを持つことを実現した。 （課題） メンバーが固定化してきているので、新しい方が参加しやすいきっかけ作りや広報活動に取り組んでいきたい。	継続	JAえちご中越組織福祉課
19	母子健康手帳交付	妊娠の届出をした妊婦に母子健康手帳を交付し、安心・安全な妊娠・出産のため、妊婦健診受診票14回分と産婦健診受診票を交付するとともに、母子保健サービスの紹介や保健指導・相談を行う。	母子健康手帳を活用して、母子の健康管理を行う大切さを伝えている。定期的な健診受診を勧め、貧血や妊娠高血圧症候群等の予防を図っている。	妊娠届出数：1,222人 母子手帳交付数：1,241冊	妊娠届出時は妊婦と直接会って面談が出来る機会であるため、妊婦健診の必要性をお伝えし、安心して妊娠期を過ごせるよう指導していく。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
20	乳幼児健診	４か月児健診、10か月児健診、１歳６か月児健診、３歳児健診を実施。乳幼児の健全な発育の確認と保護者への育児相談等を目的に行っている。	幼児健診で生活リズムや食事について、パンフレット等を用いて相談・指導を行い規則正しい生活習慣の意識付けを図っている。	４か月児健診受診者数(率)： 1,264人(99.6%) 10か月児健診受診者数(率)： 1,210人(97.0%) １歳６か月児健診受診者数(率)： 1,305人(96.7%) ３歳児健診受診者数(率)： 1,553人(97.9%)	健診で乳幼児の健康状態を確認し、保護者に健康管理の大切さや、乳幼児期から生活リズムを整えることの大切さについて伝えている。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
21	自然に健康な食事ができる環境づくり事業	健康への関心度に関わらず、誰もが健康になれることを目指し、中食を軸に食環境づくりを推進する。県が登録したスーパーマーケット等と協働し、健康に配慮した中食の提供や啓発活動を実施する。 （１）「けんこうtime推進店」、「からだがよろこぶデリ」の普及啓発 （２）「けんこうtime推進店」の登録促進	「栄養バランスがとれている」、「野菜が多く含まれてる」、「適塩」等の健康に配慮した中食をいつでも身近な店舗で購入できるよう、スーパーマーケット等と連携し、自然に健康な食事ができる環境づくりを推進する。また、望ましい食生活を無理なく手軽に実践できるよう、惣菜等を利用したバランスのよい食事の組み合わせなどについて普及啓発を図る。	・９～11月の「からだがよろこぶデリ」キャンペーン期間を中心に、特に子育て世帯に向けた取組周知を強化し、子育て支援センターでのチラシ配布（計360枚）や各種イベント等を活用して取組の普及啓発を図った。	・「からだがよろこぶデリ」のメインターゲットである子育て世帯に向けて、対面で周知できる機会が少ない。	・９～11月の「からだがよろこぶデリ」キャンペーンに合わせて取組の周知を図る。 ・他事業と連携を図り、子育て世帯への普及啓発を図る。	長岡地域振興局健康福祉環境部

(2) 身体活動・運動

【目標・指標】

目標	指標	策定時 (R4実績)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	前年度 比較	市目標値 (R14)	担当 部署
日常生活における歩数の増加	１日の平均歩数（20～64歳）	5,700歩 (R3)	5,832歩	6,539歩	改善	8,000歩	健康増進課
	１日の平均歩数（65歳以上）	6,000歩 (R3)	5,814歩	5,873歩	変化なし	8,000歩	
運動習慣者の増加	運動習慣がある人の割合(19～39歳男性)	30.5% (R3)	36.4%	32.0%	悪化	40%	健康増進課
	運動習慣がある人の割合(19～39歳女性)	15.4% (R3)	19.5%	19.6%	変化なし	25%	
	運動習慣がある人の割合(40～64歳男性)	29.2% (R3)	33.2%	33.8%	変化なし	39%	
	運動習慣がある人の割合(40～64歳女性)	27.3% (R3)	30.2%	30.9%	変化なし	37%	
	運動習慣がある人の割合(75歳以上男性)	57.0%	58.0%	59.1%	改善	67%	
	運動習慣がある人の割合(75歳以上女性)	52.0%	53.9%	55.8%	改善	62%	
	地域スポーツ教室・クラブ数	745	692	705	改善	↑	スポーツ振興課
運動やスポーツを習慣的に行っているこどもの増加	身体を動かすことが好きな児童の割合（小学生）	88.9% (R3)	不明	86.2%	－	↑	学校教育課
	身体を動かすことが好きな生徒の割合（中学生）	80.4% (R3)	不明	80.4%	－	↑	
	児童・生徒の体力（小学５年生男女の合計点）	119.92点	不明	112.56点	－	↑	
	児童・生徒の体力（中学２年生男女の合計点）	92.19点	不明	91.39点	－	↑	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【コミセンDE運動講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・ウォーキング指導や筋トレ、体ほぐしなど地区の希望に合わせて運動講座を実施	【コミセンDE運動講座】 実施回数：29回 参加延人数：475人	・地区の健康課題について、コミュニティセンター職員と共有し、地域の実情に合わせた講座を実施できた。講座をとおして、運動の種類によるそれぞれの効果や運動習慣の重要性を伝えることができた。 ・参加者が固定化しており、特に青壮年期世代の参加者が少ない現状がある。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や講座の実施日を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	ロコモ予防プロジェクト	・薬剤師会ホームページにて、ロコモ予防体操「ロコもかしこもサビないで」を紹介 ・健康イベントにてロコモ啓発・ロコモ体操実施	・薬剤師会ホームページにて、ロコモ予防体操「ロコもかしこもサビないで」を紹介。動画も掲載している。 ・令和７年度は、健康イベントにて、ロコモ啓発は実施できなかったが、適度な運動が骨を丈夫にする啓発はできた。	薬剤師会ホームページにて、ロコモ予防体操「ロコもかしこもサビないで」を紹介。動画も掲載しているが、一定数の動画視聴がある。	新潟県薬剤師会企画のにいがた健康応援プロジェクトに、当会の各薬局が参加。テーマ「運動」ちょい足し運動の習慣化を呼びかけよう：10月１日～11月30日の重点期間に来局者に向けて、ポスター、パンフレットを用いて啓発。また、健康イベントにておいても同様の内容を紹介、啓発する。 薬剤師会ホームページにて、ロコモ予防体操「ロコもかしこもサビないで」を紹介。動画も掲載。	長岡市薬剤師会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【運動機能向上事業】 運動習慣の定着を図り、転倒骨折予防の取り組みができるように普及啓発を行う。	【運動機能向上事業】 ・はつらつ教室 実施回数：10回 参加延人数：242人 ・運動機能向上講座(単発) 実施回数：78回 参加延人数：1,096人 ・つきイチひろば 実施回数：24回 参加延人数：491人 ・フェニックススポーツクラブ 実施回数：317回 参加延人数：2,771人	・継続教室では、教室実施前後で体力測定値等が改善され、事業効果をあげている。さらに、教室終了後は自主サークルとして活動し、運動の継続につながっている。また、各講座等では、運動の実践などをとおして、運動機能の向上につながっている。 ・講座や教室では終了後も取り組みを継続できるよう、家庭でも行える運動指導を行うとともに、活動継続のためにサークル化または既存のサークル・はつらつ広場等へつなげることが不可欠である。また、参加者が伸び悩む事業や、参加者が固定されつつある事業もあるため、周知方法や内容など事業全体の見直しが必要である。	・引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 ③筋力向上トレーニング事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	①定期的な運動専門スタッフによる指導等、複合プログラムを実施。 ②専門職による運動機能向上を中心とした短期間の集団プログラムを実施。 ③高齢者専用の運動器具を使用した短期間のトレーニングを実施。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95 ③　36	（評価） 運動専門スタッフや専門職による指導を実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷。 セルフケアの定着。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146 ③　86	長寿はつらつ課
4	各地域のコミュニティ事業	・子どもを持つ若い母親を対象とした講座を開催し、子育てやしつけ、生活習慣などを学習すると共に、子育てからのストレスを解消し、地域の中に溶け込んでいけるようサポートしていく。	①親子フィットネス ②ベビーマッサージ	体操やストレッチなどを通した親子のスキンシップ、参加者同士の交流。	母推とも連携しながら参加者募集を進めているが、さらに関心を持ってもらう周知方法が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
5	骨粗しょう症予防事業	骨粗しょう症予防に関する動機付けを行い、市民自ら健康管理を実践できるよう支援する。また、骨粗しょう症による骨折を予防し、健康寿命の延伸を図るもの	・骨粗しょう症予防講座 ・簡易骨密度測定コーナー ・地区フレイル予防講座、相談等での簡易骨密度測定	令和７年度参加者数：2,447人 (1)骨粗しょう症予防講座 ・実施回数27回、参加者数383人 (2)簡易骨密度測定コーナー ・測定者数2,064人	測定結果と併せ指導を受けることで、健康意識を高め、行動変容への動機づけに効果がある。アンケートにより、骨密度を数値化して見た後、栄養・運動指導講座を受けることで、生活習慣改善の動機づけに繋がっている。	これまで取り組みに参加したことのない人や、子育て・働き盛り世代に参加してもらえるよう、コミセンや各種イベント、子育ての駅等、地域に出向いて積極的に実施していく。	健康増進課
7	スポーツ栄養セミナー	栄養学の知識をもって、各スポーツ選手の競技内容や年齢、目的に応じて栄養管理や食事のアドバイスや指導等を行う。（栄養指導セミナーや相談会の講師・選手やチームサポート）	栄養・食事を通して各競技に適した健康的な身体を造り、パフォーマンス・競技成績の向上を図る。	平成27年度より栄養士会会員がスポーツ栄養専門の事業所起業したため、スポーツ栄養セミナー部会活動は終了。			栄養士会長岡支部
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・生活習慣病と健康管理講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
15	保育（こども）園食育普及講座	園児や保護者を対象に、食に関する講話や運動、簡単な調理体験等を行う (1)保護者向け食育講座 (2)親子食育体験講座 (3)３回講座	【講座内容】 (3) ３回講座において、園児を対象にうんちおたすけ体操、元気いっぱい全身運動を実施	(1)保護者向け食育講座 ・２園実施　36人（保護者31人、職員５人） ・内容：幼児期の食事で大切なこと (2)親子食育体験講座 ・５園実施　193人（児童91人、保護者80人、職員22人） ・内容：朝ごはんの大切さ、食事のマナー、おやつ等の講話と簡単な調理体験（シャカシャカおにぎりづくり、出汁試飲など） (3)３回講座 ・10園実施　延べ1,559人 ・内容 ①まごわやさしい ②き・あか・みどりの食べ物 元気なうんち・うんちおたすけ運動 ③早寝早起き朝ごはん 元気いっぱい全身運動	事後アンケート結果より、受講後の家庭での変化として「食べ物や食べることについての会話が増えた」「食事のバランスを気をつけるようになった」「野菜を食べる量・頻度が増えた」の回答が多く、講座による具体的な成果を把握することができた。 課題としては、アンケートの回答率が低いことが挙げられる。回答すると追加情報が得られるなど、インセンティブを考慮した方法を検討していきたい。 また、パクパクノートのやり取りが負担、または使い方が不明確だった保護者が少数見られたため、記載内容や説明方法について改善を検討したい。	R7年度と同等の内容で実施。 親子講座、保護者向け講座では引き続き、保護者の食の悩みに寄り添ったテーマになるよう、計画していく。	健康増進課
22	地域活動事業	・子どもから高齢者まで、からだを動かすことの楽しさ、体力の向上を目指しながら、仲間を作りあげていくことにより、日常のストレスに対処し、健やかな生活習慣を身につけていく。	①各種スポーツ体験会 ②ウォーキング大会 ③健康講座	①モルック、インドアペタンク、ボッチャ、カーリンコン、パークゴルフ等 ②まちなか散策、公園、堤防沿いなどのウォーキングを実施。 ③笑いヨガ、スクエアステップ、足腰元気運動、健康測定等	継続的に運動するきっかけづくりにつながっている。若い世代の参加を促す周知方法が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
23	地域交流スポーツ大会	【目的】地域（小学校区）住民によるスポーツ活動の活性化、地域の一体感の醸成及び地域のスポーツ愛好者の交流促進。 【内容】地域のスポーツ活動を推進する長岡市スポーツ推進委員連盟と共同開催。グラウンド・ゴルフ、卓球、バドミントン等の種目に各地域で編成したチームで出場する。	事業概要のとおり	計８種目（ソフトバレーボール及びバドミントンは中止）を開催し、延べ1,152人の市民が参加した。	【評価】 ほぼ例年並みの市民から参加いただき、スポーツに親しむ機会を提供できた。 【課題】 参加チームの固定化、競技性の過剰な高まり等	令和７年度とほぼ同様	スポーツ振興課
24	ユニバーサルスポーツ普及推進事業	【目的】運動の得意不得意、障害の有無等に関わらずだれでも参加できるスポーツであるユニバーサルスポーツの普及及び当該スポーツ推進を図る。 【内容】ユニバーサルスポーツの普及推進を目的として実施するイベントや教室等に係る経費の補助を行い、３万円を上限に補助金を支出する。 【対象】コミュニティセンター等 【実施期間】通年	事業概要のとおり	コミュニティ推進協議会など13団体から申請があり、ニュースポーツや地域の親善スポーツ大会などが行われた。	【評価】 ユニバーサルスポーツの普及推進し、スポーツに関わる市民を増やすという市の方針と目的が乖離が生じた。 【課題】 コミセンに対してでなく、対象団体拡大が必要である。	・ユニバーサルスポーツを取り入れたイベントを実施する団体への支援 ・「ながおかスポーツ・レクリエーションフェスタ」への体験コーナー設置 ・高等総合支援学校への指導者派遣 ・市内小・中学校を対象としたユニバーサルスポーツ体験授業	スポーツ振興課
25	生涯スポーツ推進事業	体を動かす機会を提供し、運動能力・体力の向上を目指すとともに、スポーツ好きの元気な子どもを増やすため、小学校の体育館を会場にジュニアスポーツクラブを実施したり、スポーツ少年団の活動支援を行う。	体を動かす機会を提供し、運動能力・体力の向上を目指すとともに、スポーツ好きの元気な子どもを増やすため、小学校の体育館を会場にジュニアスポーツクラブを実施したり、スポーツ少年団の活動支援を行う。	【放課後こどもスポーツクラブ】 主催型　28クラブ 2,845人参加、共催事業 ８クラブ 【スポーツ少年団】 69団　1,288人登録	放課後こどもスポーツクラブは活動の場として定着。スポーツ好きな元気な子どもたちの育成に取り組んでいる。 スポーツ少年団は特に団体種目の統廃合が進み、登録団数が減少。少年団登録をしなくても活動の場が広がっているため、登録者数が減少している。	今後も体を動かす機会を提供し、運動能力、体力の向上を目指すとともに、スポーツ好きの元気な子どもを増やすため、小学校の体育館などを活用したスポーツクラブを実施し、理念に基づいた活動を行うスポーツ少年団緒活動支援を行う。	（公財）長岡市スポーツ協会
26	心身障害者スポーツ教室	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的にスポーツ教室を開催する。 【内容】 テニススクール 【対象者】 障害児・者とその家族 【実施回数】 ５回	心身障害児・者の身体機能の維持・向上を図るため、障害児・者とその家族を対象にテニス教室を開催。	長岡市テニス協会に指導員を依頼。全５回を実施した。	ラケット操作や移動動作など全身を使った運動を行うことで、参加者の身体機能の向上が図られた。	R8年度も全５回実施予定。	福祉課
27	体力テスト	各学校において体力テストの結果を分析し、自校の課題を明らかにし、改善及び向上に向けて創意工夫を凝らしながら、「体育」「保健体育」の授業をはじめとするすべての教育活動で取り組む。	「１学校１取組」の実施により、各校が児童生徒の実態に応じた計画的・継続的な取組の工夫を行っている。	「１学校１取組」の実施により、各校が児童生徒の実態に応じた計画的・継続的な取組の工夫を行った。	当市の児童・生徒は、男女ともに高い体力水準を維持している。中でも持久力については、県平均を上回る結果となっている。	継続実施	学校教育課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
28	学校教育（運動）	主体的に運動する態度と体力の向上を目指した授業展開に努めている。教師の支援を工夫することにより、ルールの改善や仲間との協働が進み、生涯にわたって運動に親しもうとする資質・能力を育てる。	各校による授業改善の取組を行っている。	各校による授業改善の取組を行った。	児童生徒の運動機会を増やすため、遊びの要素やゲーム性をもたせる等の工夫をし、運動に親しみながら基礎体力の向上を目指す。	継続実施	学校教育課
29	ふれあいスポーツアシスタント事業	児童のスポーツへの興味・関心を高め、技能定着や体力向上を目指し、体育授業の活性化を図るため、小学校の体育授業に公益財団法人長岡市スポーツ協会のスポーツ指導員等を派遣する。	陸上運動、器械運動、表現運動、ボール運動、コオーディネーショントレーニング等の希望する種目に対して講師派遣を行う。	小学校単位での希望に応じて、スポーツ指導員を派遣した。 ・派遣校数　小学校16校　派遣数60回	小学校の体育授業に、専門的な知識や経験をもつ講師を派遣することにより、児童に授業では経験できない様々な動きや運動を体験させたり、運動への興味関心を高めたりすることができている。	継続実施	学校教育課
30	児童会館・児童クラブ	児童会館は、児童の健康増進と豊かな情操の形成のため、地域における青少年健全育成活動の拠点施設として、遊びの場を提供する。 児童クラブは、保護者の就労などで子どもの見守りができない家庭の小学生を対象に、放課後の安全・安心な居場所としての生活の場を提供する。	左記のとおり	児童会館数　42館 年間利用者数　62,047人 児童クラブ数　62クラブ 年間利用者数　488,042人	・令和７年度から市内全ての公設の児童会館・児童クラブの運営を民間事業者へ業務委託し、民間事業者のノウハウを活用しながら、安定した運営体制を確保し、安全・安心なサービスの拡充を行った。 ・利用者の利便性の向上のため、これまで児童クラブの設置がなかった地域への児童クラブの新設のほか、児童の入退館システム及び延長利用料金のキャッシュレス決済の導入を行った。	・新たな体制での運営を軌道に乗せていき、民間事業者のノウハウを活用しながら、児童が安全・安心に過ごすことができる環境づくりに努めていく。 ・引き続き、学校・家庭・その他関係機関等との連携を図りながら、一層の充実を図る。	子ども政策課
31	各種大会開催事業	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	【市民スポーツ祭】 27種6,980人参加 【まつりスポーツ大会】 ７種2,108人参加	市民スポーツ祭は参加条件を再度確認し、市民が広く参加できるよう工夫した。 まつりスポーツ大会は、会場の都合で実施できない種目もあったが、おおむね例年通りの参加があった。	市が実施する地域交流大会との関係を整理しながらより市民が参加しやすい大会となるよう要項の見直しを行いながら実施する。	（公財）長岡市スポーツ協会
32	スポーツ教室・クラブ運営事業	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	【主要体育施設】 大人向け17教室1,142人参加、小学生向け３教室91人参加、親子向け５教室491人参加、コオーディネーション５教室114人参加 【コミセン等】 大人向け６教室192人参加、親子向け１教室13人参加	主要体育館での大人向け教室は定着しているが、新規参加者が増加していない。 親子での運動遊びやより身近なコミセンを会場としたスポーツ教室は参加者が増加している。	コミセンや支所地域など身近な場所でのスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、新規教室、新規会場の開催を含めて検討・実施する。 既存の教室においては新規参加者を増やすよう広報方法など検討する。	（公財）長岡市スポーツ協会
33	指導者・団体育成事業	ジュニアスポーツ活動を支える指導者の養成並びに資質向上を図るため、指導者向け講習会を実施する。	ジュニアスポーツ活動を支える指導者の養成並びに資質向上を図るため、指導者向け講習会を実施する。	【指導者講習会】 ４回214人参加 【種目別クリニック】 ３回65人参加	参加者からは非常に好評だが、新たに受講する指導者が少ない傾向になる。 特にハラスメント関係の講習については粘り強く実施する必要があるが、参加者を増やすための工夫が必要である。	定住自立圏スポーツ振興事業でありながら、圏域内で同様の講習がみられる。調整をしながら、また内容を見直しながら開催する。	（公財）長岡市スポーツ協会
34	専門指導者派遣事業	運動・スポーツの普及と浸透を図るため、学校、地域、職域が行う運動・スポーツ活動や行事等に指導者を派遣する。	運動・スポーツの普及と浸透を図るため、学校、地域、職域が行う運動・スポーツ活動や行事等に指導者を派遣する。	指導者派遣　83回	学校でのPTA活動や子ども会活動での派遣は定着してきている。 職域を対象とした教室開催型の派遣は非常に好評である。 また、職場内においての健康増進事業としての派遣が微増している。	子ども向け、親子向けの指導者派遣だけでなく、働き盛り世代に向けた企業向け派遣も継続して力を入れ、運動・スポーツの普及、浸透を図る。	（公財）長岡市スポーツ協会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
35	健康増進活動	運動を通じてコミュニケーションを図る。 【運動会・スポーツ大会】 JA支店と地域が連携して、健康づくりのスポーツの取り組みを実施。健康づくりと仲間づくりをすすめる。 【健康教室】 少人数・グループでの開催を可能にし、手軽に参加できる健康講話や軽運動を実施し、健康についての関心を深める。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JA組合員・役職員をはじめとする、地域住民の健康づくりに対する関心を高め健康の源となる「食」において新潟の農畜産物の豊かさをPRし、「すべての人に健康と福祉を」（SDGsゴール３）に貢献するため取組みを実施。12月～１月（冬季）を実施期間とし、継続30日間の健康チャレンジに挑戦。	事業概要同様	【運動会・スポーツ大会】 ながおか地域実績：22会場650名 【健康教室】 ながおか地域実績：３会場55名 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JAえちご中越管内実績（参加者）：ハガキ45枚	【運動会・スポーツ大会】 スポーツを通じ地域住民との結びつきの維持・強化を図ることができた。 （課題） 新規の取組みもなく、開催地区の固定化や参加住民の高齢化により取組自体の終了など今後参加者の大幅な減少が予想される。 【健康教室】 コミュニティセンターを通じ、高齢者を中心に長岡中央綜合病院の理学療法士が健康管理について講話や軽運動を行った。コミュニティセンター・JA・病院の連携により、高齢者の健康意識をより高めることができた。 （課題） 毎年同じようなテーマとなり、目新しさがない。 参加後の満足感を上げるようなテーマをご提案したい。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 令和６～７年度は女性部を中心に地域住民への呼びかけを行った。各自で決めた健康テーマを連続30日間チャレンジすることで、健康に対する意識づけをすることができた。 （課題） 女性部を中心に参加を呼びかけたので、参加者のほとんどが60代～70代の女性となってしまった。性別世代関係なく地域住民へ幅広く参加していただくためにもJA広報誌の活用など検討が必要。	継続	JAえちご中越組織福祉課
36	単位クラブ活動	老人クラブ会員の健康増進と単位クラブの相互交流を目的に各種スポーツ大会を開催し、運動習慣の動機づけを図る	輪投げ大会、グラウンドゴルフ大会、ペタンク大会、ゲートボール大会を長岡市わくわく連合会の各支部で実施している。	長岡市わくわく連合会の各支部にて「輪投げ大会」「グラウンドゴルフ大会」「ゲートボール大会」「ペタンク大会」を実施した。特にグラウンドゴルフ大会は各地区で人気があり、各支部の予選を経て10月16日ニュータウン運動公園の多目的芝生広場とサッカー場を使い122人参加の大会となった。	各単位クラブのメンバー・会長の高齢化が進み、若い新規会員の入会も進まず活動が消極的になりがちである。 高齢者の「認知症予防」「孤独・孤立の防止」としてユニバーサルスポーツは役だつ。老人会活性化の為、町内会との連携が重要と考え、取り組みをお願いしている。	昨年と活動内容は同じ。わくわく連合会の10支部はそれぞれ	長岡市わくわく連合会
37	ユニバーサルスポーツ推進事業	長岡市わくわく連合会の各支部間の交流が無いため、ユニバーサルスポーツの輪投げ大会を実施し、軽度の運動を実施すると共に交流を図る。 長岡支部では冬期間の高齢者の運動不足を解消する為、ユニバーサルスポーツ大会を実施。	長岡市わくわく連合会の各支部が一堂に体育館に会し、輪投げの軽運動で得点を競い合う中で各支部の相互交流を図る。各支部では予選会や練習会を実施し軽スポーツの普及に貢献する。 長岡支部のユニバーサルスポーツ大会の種目はペタンク・スカットボール・輪投げの３種目を行い各種目で得点を競い合う。	支部対抗輪投げ大会は11月７日10支部から予選会を経て選ばれた150名の選手と役員33名の参加。今年度優勝は与板支部。昨年度は川口支部 長岡支部のユニバーサル大会は令和８年２月17日選手・役員含め約180人参加。真冬の大会としては盛況だった。各地区で冬季にもかかわらず定期的に大会に備え練習していた。	会員の少ない与板支部が優勝したことで各支部の励みとなり、輪投げの練習で団結力向上・軽スポーツ普及に繋がった。 長岡支部のユニバーサルスポーツ大会はこの大会を目標に各地域で練習することで「冬期間の運動不足解消」「認知症予防」「孤独・孤立の防止」に繋がり価値があった。冬の大会は安全面から賛否両論あるが会員要望も高く好評。	支部対抗輪投げ大会は11月20日実施予定。マンネリ化しないよう内容を工夫する。個人賞も設定。 ユニバーサルスポーツ大会は令和９年２月26日実施予定。冬季は高齢者の安全面で反対の声もあるが、安全を考慮し大会を実施する。	長岡市わくわく連合会
38	パラスポーツ体験会	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的に、障害の有無に関わらず楽しめるパラスポーツの体験会を開催する。 【内容】 ボッチャ体験会 【対象者】 制限なし 【実施回数】 ３回	心身障害児・者の身体機能の維持・向上を図るため、パラスポーツの体験会及びボッチャの体験会を開催。	公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託。年２回実施した。	ボールを投げる・方向を調整するなどの動作を通じて、参加者にとって無理なく身体機能を活用できる運動の機会となった。	R8年度も公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託。年２回実施予定。	福祉課

(3) 休養・睡眠

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
睡眠で休養がとれている人の増加	睡眠で休養がとれている人の割合（19～39歳）	78.8%（R3）	78.4%	80.5%	改善	80%	健康増進課
	睡眠で休養がとれている人の割合（40～64歳）	73.6%（R3）	72.7%	75.1%	改善	80%	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【こころ元気アップ講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・心地良い生活を送るために、ストレスとうまく付き合い、こころがホッとするコツを学ぶ。簡単なストレッチやリラックス体操なども組み合わせることができる。	【こころ元気アップ講座】 実施回数：12回 参加延人数：178人	・こころの健康づくりに関する講座の実施について、内容が難しいと感じている住民もおり、こころの健康づくり講座を実施している地区が限られている。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。 ・こころの健康づくりに関する講座の内容を増やし、住民がこころの健康づくりに関心を持てるようにする。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	学校における「くすり教育」の中で、自然治癒力が弱い時に薬の力を借りる、という説明とともに、適度な休養が大切であることを指導	自然治癒力アップには、「健全な食生活、適度な運動、適度な休養」の３つのバランスが大切であるとアドバイス	学校における「くすり教育」の中で、自然治癒力アップには、「健全な食生活、適度な運動、適度な休養」の３つのバランスが大切であるとアドバイスを実施した。	学校薬剤師による「くすり教育」が実施できた学校のおいてはアドバイスができた。 児童・生徒、働き世代の保護者に対しても睡眠・適度な休養の大切さを今後も伝えるべきである。	多世代に向けて、薬局においても自然治癒力アップのために、睡眠・適度な休養の重要性を啓発したい。	長岡市薬剤師会
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【うつ予防講座】 うつ予防（高齢期の心の健康）などに関する講話や実技指導を行い、介護予防の具体的方法を普及啓発する。地域からの依頼に基づき、単発的に実施する。	【うつ予防講座】 実施回数：７回 参加延人数：146人	主に単発的に実施しているため、習慣化に結びついているのか効果判定が困難。引き続きツールを活用し、具体的な実技指導と事後の調査が必要である。 運動や認知症に比べて本項目への意識は低いため、今後も複合的な介護予防教室等での普及啓発が必要である。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 ③筋力向上トレーニング事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	生活機能改善を目的としたサービスを実施。日常生活の活動を高め、生活の質の向上を目指す。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95 ③　36	（評価） 多様な担い手による活動や運動など生活機能改善を目的とした事業を実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷。 セルフケアの定着。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146 ③　86	長寿はつらつ課
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・市の健康づくりと心の健康づくり講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。 ＜全体研修会内容＞ 第１回 テーマ：今、食育活動に求められることと食推さんへの期待 講師：新潟医療福祉大学　鈴木一恵教授 第２回 テーマ：（仮）食品のリスクを正しく理解し、健康被害を防ぐ 講師：武蔵大学　種村菜奈枝教授	健康増進課
39	こころの健康づくり講演会	ストレス、うつ病に関する正しい知識の普及啓発を図るために講演会を開催する。	こころの健康づくり講演会	11月11日（火）開催 ※自殺対策連携会議と合同開催 講演会テーマ「自死で家族を亡くした経験から伝えたいこと」 シンポジウムテーマ「こころのSOSを見つける～働く人のメンタルヘルス～」 参加者：200人（市民129人・会議出席者71人）	男性の職域層の自殺が多い背景から、職域層を重点とした、いのち支える長岡市自殺対策連携会議と合同開催とした。 参加者より、自死遺族の講演は多くの参加者に響く内容であり、今後も自殺予防の大切さを伝えてほしいとの声があった。こころの健康に関する正しい知識の普及啓発、こころの不調や自殺への理解促進を図るため、今後も市民に対し広く啓発する。	事業継続 R7年度に引き続き、職域層をターゲットとした内容とする。	健康増進課
40	こころの健康相談会	こころの悩みやアルコール問題を抱えた人、自死などの遺族を対象に相談会を開催する。＊臨床心理士、精神保健福祉士の専門相談会	こころの相談会 アルコール相談会 こころのとまり木相談会	こころの相談会 実施回数　17回　利用者数　22人 こころのとまり木相談会 実施回数　12回　利用者数　21人 アルコール相談会 実施回数　３回　利用者数　７人	相談会のみで終わらず、地区担当保健師や関係機関へつなぐなど、関係が切れないような支援を行うことができた。 働いている方でも参加しやすいよう、土曜・平日夜間の開催を継続して行っていく。	こころの相談会 実施予定　32回（土曜３回・夜間３回） こころのとまり木相談会 実施予定　12回（土曜３回・夜間３回） アルコール相談会 実施予定　６回	健康増進課
41	精神保健福祉相談	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 困難事例等の相談に精神科医師が対応 ２随時相談 精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 困難事例等の相談に精神科医が対応 ２随時相談 精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	１定例相談会 実績/計画　３回６件/３回 ２随時相談 来所または電話による相談に随時対応した。 ３こころの相談ダイヤル 平日昼間316件 ４訪問指導 市町及び病院等関係機関と連携しながら実施。	市町及び病院等関係機関と連携しながら、当事者や家族の相談に応じ支援した。今後も継続する。	１定例相談会 年３回 ２随時相談 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	長岡地域振興局健康福祉環境部

（4）飲酒

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の減少	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合（20～39歳男性）	9.7%	8.7%	9.1%	変化なし	8%	健康増進課
	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合（20～39歳女性）	14.7%	18.6%	17.3%	改善	6%	
	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒している人の割合（40～64歳男性）	18.4%（R3）	18.2%	19.7%	悪化	13%	
	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒している人の割合（40～64歳女性）	16.1%（R3）	19.4%	22.3%	悪化	6%	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【ヘルシー飲酒のすすめ】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・お酒との上手な付き合い方についての講座。おつまみレシピの伝授やアルコール習慣チェックで依存度等が分かる。	【ヘルシー飲酒のすすめ】 実施回数：３回 参加延人数：35人	・コミュニティーセンター職員と地区の健康課題を共有する際、地区の飲酒状況について説明し、適正飲酒の周知の大切さを伝えていく必要がある。 ・ヘルシー飲酒のすすめ講座の実施回数が、41地区中３回と少数である。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。 ・ヘルシー飲酒のすすめ講座の実施に限らず、地域健康カルテの問診の結果（リスク有の人の割合）で「毎日飲酒」の割合が高い地区では、他の内容の地区講座の実施時に、毎日飲酒することによる健康への影響等を随時情報提供していく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	妊娠中の飲酒を避けるよう啓発・指導	薬局窓口でも啓発 地域での出前講座での啓発	薬局窓口での啓発実施状況を把握できていない。 地域でのくすりのセミナー・出前講座での啓発した。	評価できるほどの実施ができていない。	妊娠中の飲酒について、妊娠中の薬の使い方も含めたアドバイスの中で、アルコールが胎児へ及ぼす影響について指導・飲酒をしないよう啓発したい。 市民対象に「アルコール・喫煙が健康に与える影響」について情報発信できる薬剤師を育てるための研修会を開催	長岡市薬剤師会
19	母子健康手帳交付	妊娠の届出をした妊婦に母子健康手帳を交付し、安心・安全な妊娠・出産のため、妊婦健診受診票14回分と産婦健診受診票を交付するとともに、母子保健サービスの紹介や保健指導・相談を行う。	妊娠届出書に妊婦本人の飲酒状況を尋ねる項目があり、記載内容をもとに飲酒に伴う母子への影響等、健康管理の大切さを伝えている。	妊娠届出数：1,222人 母子手帳交付数：1,241冊 飲酒をしている妊婦の割合：0.2%	妊娠届出時は妊婦と直接会って面談が出来る機会であるため、飲酒の影響についてお伝えし、安心して妊娠期を過ごせるよう指導していく。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
40	こころの健康相談会	こころの悩みやアルコール問題を抱えた人の相談会を開催する。＊精神保健福祉士の専門相談会	アルコール相談会	アルコール相談会 実施回数　３回 利用者数　７人	相談会では、アルコール問題のある本人への声のかけ方や気持ちの伝え方などの助言が行われた。 相談者からは、「対応の仕方が分かってよかった」「実践してみる」などの前向きな意見が多くあった。対応の仕方がわかったことで、不安等の軽減につながったと考えられる。	アルコール相談会 実施予定　６回	健康増進課

(5) 喫煙

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
喫煙率の減少	喫煙している人の割合（20～39歳男性）	15.9%	11.5%	11.2%	変化なし	11%	健康増進課
	喫煙している人の割合（20～39歳女性）	7.1%	9.2%	8.4%	変化なし	5%	
	喫煙している人の割合（40～64歳男性）	28.8%（R3）	26.1%	24.9%	改善	20%	
	喫煙している人の割合（40～64歳女性）	8.7%（R3）	9.1%	7.9%	改善	6%	
妊娠中の喫煙をなくす	妊婦の喫煙者の割合（喫煙率）	1.6%	0.9%	0.8%	変化なし	0%	こども家庭センター
望まない受動喫煙の機会を有する人の減少	禁煙・分煙登録施設数	443施設	―	―	―	↑	健康増進課

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【たばこと健康の講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・たばこを吸う人・吸わない人のどちらにも向けた、たばこの知識や体への影響について学ぶ講座	【たばこと健康の講座】 実施回数：０回	・R7年度は実績なし。 ・喫煙者・非喫煙者の双方にも向けた内容とはなっているが、講座に参加される方の多くは健康意識が高く、たばこについての講座に関心がない方が多いため、実施が難しい現状がある。	・たばこの講座の実施に限らず、喫煙率が高い地区では、他の地区講座の実施時に、喫煙による健康への影響等を随時情報提供していく。 ・対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施していく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	妊娠中の喫煙を避けるように。また受動喫煙を避けるようアドバイス 企業への禁煙に関する講座へ講師派遣	・妊娠中の対象者への啓発 ・企業において喫煙者・非喫煙者への喫煙の影響に関すること、禁煙することでのメンタルヘルスに関する講座への講師派遣	・妊娠中の対象者への啓発 ・企業において喫煙者・非喫煙者への喫煙の影響に関すること、禁煙することでのメンタルヘルスに関する講座への講師派遣	企業において喫煙者・非喫煙者への喫煙の影響に関すること、禁煙することでのメンタルヘルスに関する講座への講師派遣ができた。	新潟県薬剤師会企画のにいがた健康応援プロジェクトに、当会の各薬局が参加。テーマたばこの身体への影響を知ってもらおう（たばこ）：６月１日～７月31日の重点期間に来局者に向けて、ポスター、パンフレットを用いて啓発。 また、健康イベントにておいて、受動喫煙防止対策や、加熱式タバコの危険性にかんする啓発を行う。	長岡市薬剤師会
19	母子健康手帳交付	妊娠の届出をした妊婦に母子健康手帳を交付し、安心・安全な妊娠・出産のため、妊婦健診受診票14回分と産婦健診受診票を交付するとともに、母子保健サービスの紹介や保健指導・相談を行う。	妊娠届出書に妊婦本人や家族の喫煙状況を尋ねる項目があり、記載内容をもとに喫煙に伴う母子への影響等、健康管理の大切さを伝えている。	妊娠届出数：1,222人 母子手帳交付数：1,241冊 喫煙している妊婦の割合：0.8% 喫煙している同居家族がいる割合：25.7%	妊娠届出時は妊婦と直接会って面談が出来る機会であるため、禁煙の必要性や影響をお伝えし、安心して妊娠期を過ごせるよう指導していく。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
42	受動喫煙防止対策	【目的】 市政だより、ポスター掲示、健康教育等により、受動喫煙の害について住民へ啓発していくもの。 望まない受動喫煙の防止を図るため平成30年7月25日に「健康増進法の一部を改正する法律」が交付された。改正法の周知を図るとともに、法律を尊守した対策を講じる。 【内容】 １　禁煙週間の啓発 ２　市有施設における受動喫煙防止対策 ３　受動喫煙防止対策講座 ４　禁煙外来の周知	【市有施設における受動喫煙防止対策】 ・法律に遵守した対応 【受動喫煙防止対策講座】 ・生活習慣病に影響を与えるたばこの害について学ぶ。	【市有施設における受動喫煙防止対策】 ・市有施設の受動喫煙防止対策について長岡市ホームページへ掲載 ・市民の声を受けて、関係機関との協議 【受動喫煙防止対策講座】 ・実施回数：０回 ・まちなか健康講座の動脈硬化予防講義内にて喫煙の害について説明。	・R7年度は受動喫煙防止対策講座の単独実施なし。喫煙者の講座参加は限られる傾向にあり、啓発の機会を確保するのが難しい状況にある。 ・屋外での喫煙について法律では「望まない受動喫煙を生じさせることがないよう周囲の状況に配慮しなければならない」と定められているが、罰則などの規制がないため屋外での受動喫煙を防止することが困難である。	・単独講座の実施に限らず、他の健康講座との連携などを通じて、喫煙の有害性について啓発する機会を設けていく。	健康増進課
43	たばこ対策推進事業	喫煙・受動喫煙の健康への影響について普及啓発を行う。また、望まない受動喫煙の防止を図るため、改正健康増進法の周知や適切な対応を行う。	受動喫煙による健康影響の予防のため、必要な知識および改正健康増進法の内容などの普及啓発等に取組み、喫煙による健康被害のない環境づくりを推進する。	①既存特定飲食施設からの喫煙可能室（店）に関する届出（新規・変更・廃止）を受け付ける。 ・新規：１件 ②たばこ対策に関する相談・通報、指導・助言対応等を実施 ・相談：12件 ・通報：４件 ③改正健康増進法等の周知（新規営業許可取得者・継続者への法内容説明リーフレット配布、世界禁煙デー、禁煙週間等の周知・普及啓発等を当部ホームページ、当部X等により実施） ④「飲食店における受動喫煙対策キャンペーン」に係る調査の実施 ・改正健康増進法の施行後５年を経過したことを契機に、飲食店における改正健康増進法の施行状況を把握するため、状況調査を世界禁煙デーに合わせて実施した。	①②は申請や問い合わせについて適切な対応ができた。 ③は世界禁煙デー、禁煙週間に合わせた当部ホームページ及び当部Xによる普及啓発を計画に沿って実施した。 ④は管内の喫煙可能室を設置する飲食店10施設に対して調査を行い、うち７施設の状況を把握することができた。 課題： 第二種施設の屋外における受動喫煙に関する相談が寄せられる場合があるが、健康増進法の規制対象外であることから、法令に基づく対応が困難な事例がある。	・喫煙可能室（店）届出および相談・通報対応は改正健康増進法に基づき随時対応する。 ・引き続きホームページ等を活用した改正健康増進法の周知を継続する。	長岡地域振興局健康福祉環境部

（6）歯・口腔

【目標・指標】

目標	指標		策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
う蝕の予防	一人平均むし歯数	３歳	0.23本	0.15本	0.10本	改善	0.15本	こども家庭センター
		12歳	0.20本	0.18本	0.12本	改善	0.15本	学務課
	う蝕のない人の割合	３歳	91.6%	94.6%	96.3%	改善	95%	こども家庭センター
		12歳	88.4%	90.0%	92.3%	改善	95%	学務課
	フッ素塗布事業実施率（３歳）		60.7%	55.2%	55.9%	変化なし	70%	こども家庭センター
	未処置歯を有する人の割合（30、40、50、60、70、75、80歳）		26.5%	24.2%	23.5%	変化なし	↓	健康増進課
歯周病の予防	歯周病罹患率		58.3%	64.0%	61.9%	改善	↓	健康増進課
	健診受診者の歯肉炎の勧奨対象者の割合	小学校	13.0%	11.2%	13.4%	悪化	10%	学務課
		中学校	18.3%	17.2%	15.7%	改善	15%	
	歯周疾患検診受診率（30、40、50、60、70歳）		14.9%	13.3%	14.6%	改善	20%	健康増進課
	後期高齢者歯科健診受診率（75、80歳）		20.5%	20.2%	19.7%	変化なし	23%	
口腔機能の維持	なんでも噛んで食べることができる人の割合		79.1%	77.6%	79.3%	改善	80%	健康増進課
	半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合		29.3%	28.1%	27.5%	変化なし	↓	
	お茶や汁物等でむせることがある人の割合		19.0%	19.2%	18.9%	変化なし	↓	
	80歳で現在歯が20本以上の人の割合		64.6%	70.1%	66.1%	悪化	↑	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【歯っぴー講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・歯周病やむし歯予防のために、歯ブラシの選び方や歯の磨き方を学ぶ。	【歯っぴー講座】 実施回数：３回 参加延人数：52人	・食べるための仕組みを咀嚼チェックガムを使用して説明したことで、唾液の働き、舌の動き、噛む力（咬筋や側頭筋）について具体的に学ぶことができた。 ・地域の歯・口腔の健康状態を把握・分析し、必要な地域に実施していく必要がある。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。	健康増進課
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【口腔機能向上講座】 口腔機能の向上に関する講話や実技指導を行い、介護予防の具体的方法を普及啓発する。地域からの依頼に基づき、単発的に実施する。	【口腔機能向上講座】 実施回数：７回 参加延人数：85人	主に単発的に実施しているため、習慣化に結びついているのか効果判定が困難。引き続きツールを活用し、具体的な実技指導と事後の調査が必要である。 運動や認知症に比べて本項目への意識は低いため、今後も複合的な介護予防教室等での普及啓発が必要である。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	①口腔機能向上、栄養改善等の複合プログラムを実施。 ②専門職の個別アセスメントによるケア、運動機能向上を中心とした短期間の集団プログラムを実施。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95	（評価） 専門職等による指導を実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷。 セルフケアの定着。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146	長寿はつらつ課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
6	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	重症化予防等の後期高齢者に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）を両輪として保健事業を実施し、健康の保持増進とQOLの向上を図る。	オーラルフレイル・口腔機能低下防止のための健康教育、健康相談を実施する。	フレイル予防・相談事業 講座回数：162回 参加者数：2,276人 栄養相談事業 参加者数：53人（実）	圏域に配置した保健指導員の認知度が高まり、継続的に活動が出来ている。「質問票」を活用し、９割方の健康状態を把握できた。 また、低栄養のハイリスク者を対象とした栄養相談事業の中で歯科衛生士による口腔チェックや指導を行うことが出来た。	引き続き、オーラルフレイル・口腔機能低下防止のための健康教育、健康相談を実施する。	健康増進課
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・生活習慣病と健康管理 ・口腔衛生等 講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。	健康増進課
44	妊婦歯科健診	妊婦の歯科・口腔内の健康の維持・増進を図り、生まれてくる子どもや家族の歯科保健に対する意識を高めるために、妊娠中に１回、妊婦の歯周疾患検診を実施する。	妊娠届出時に妊婦歯科健診受診券を交付。	妊婦歯科検診受診票交付数：1,199人/枚 受診者数：645人 受診率：53.8%	妊婦歯科健診受診率は50%代でほぼ横ばいで推移している。今後も妊娠中の歯、口腔の健康管理、歯科健診受診の必要性について周知・啓発をしていく。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
45	乳幼児歯科健診	１歳６か月児・２歳児・３歳児へ歯科健診と保健指導を実施。	１歳６か月児・３歳児健診時に健診の一部として歯科健診を実施。２歳児は歯科健診受診券を郵送し、市内の歯科医院で健診を実施する。	歯科健診受診者数(率) １歳６か月児：1,306人(96.7%) ２歳児：993人(70.8%) ３歳児：1557人(98.1%)	１歳６か月児、３歳児の歯科健診は、集団健診で実施しているため、受診率が高いが、２歳歯科健診は個別健診であるため、他の歯科健診に比べて受診率が低くなっているため、受診者が増えるよう周知が必要。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
46	フッ素塗布事業（2歳児歯科健診含む）	１歳６か月・３歳児健診受診者全員にフッ素塗布の受診券を交付し、市内医療機関にてフッ素塗布を実施。また、２歳児は全員に個別歯科健診受診券とフッ素塗布券を交付。	１歳６か月・２歳・３歳の時期に交付されたフッ素塗布券を市内の歯科医院に持っていき、フッ素塗布を受ける。	フッ素塗布実施者数(率) １歳６か月児：840人(62.2%) ２歳児：993人(70.8%) ３歳児：887人(55.9%)	１歳６か月児・３歳児は健診は集団実施だが、フッ素塗布は個別であるため、健診に比べて受診率が低くなっている。今後は、フッ素塗布を多くの方が受けられるよう周知が必要。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
47	乳児相談時の歯科保健相談	歯が生え始める時期である乳児期から、口腔ケアについて保健指導を実施。	赤ちゃん相談時に歯科に関する保健指導を行う。	会場によって集団での指導もしくは個別での保健指導を実施している。	相談会や健診ごとに、その時期の月齢に合わせて歯科相談に対応することが出来ている。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
48	園児への歯科保健指導	園児が自分の健康に関心を持ち、よい生活習慣や態度がわかり行動する。 各園で、むし歯予防の歯科保健指導（食生活、生活習慣、歯磨きの仕方）を行う。	「歯みがきの仕方」等の健康教育を行う。 各園に教材提供を行う。	依頼のあった13園にて「歯みがきの仕方」についての健康教育を実施。 おおむね「歯の健康習慣」に合わせ、６月に実施している。	親しみやすい歌とダンスやクイズ形式で園児が参加できる部分を取り入れることでより分かりやすく伝えることができた。その結果、園児が楽しく、集中して学んでいる様子が見られた。 また、職員へのアンケートを実施し、意見や感想をもとに今後の指導方法の検討を行った。 指導を継続していくことが必要である。	引き続き園の職員と協力して、園児を惹きつけられるような歯科保健指導などの健康教育を行う。また、園の職員から提出されるアンケートを参考に指導の方法を検討する。 健康教育実施の依頼がない園でも継続した指導の実施に向け、周知・依頼をする。	保育課
49	保護者への啓発	保護者の歯科保健についての意識を高める。 保護者に配布するおたより等を利用し、保護者にむし歯予防に関する知識を提供する。	ほけんだよりの発行	「歯の健康習慣」に合わせ、６月に発行している。 例年発行しているが、作成時の状況や周知したい情報を適宜変更して発行した。	歯の健康に関する基本的な知識や乳幼児に欠かせない仕上げ磨きの注意事項などを明るい色使いやイラストを用いて掲載し、保護者の方によりわかりやすく伝えることができた。 保護者意識をより高めることが必要である。	R8年度は全国的に乳幼児の事故発生件数が多い「歯磨き中の事故」や保護者の注目するポイントである「虫歯ができるメカニズムと予防策」を中心にほけんだよりを作成することで、継続して保護者に周知を行い、家庭内でのむし歯予防の意識を高める。	保育課
50	歯科健診・歯科受診勧奨	定期的な歯科健診で口腔内の異常の早期発見をし、早期治療につなげる。 ・年２回（春・秋）の歯科健診を実施し、要受診者の保護者に受診勧奨をする。 ・各園で要受診者の受診状況を把握し、未受診者の保護者へ受診勧奨を行う。 ・定期的に健診を行い、健康状況や家庭の状況について把握する。	健診器具・消耗品の配布 歯科健診実施に関する周知	各園が定期的な歯科健診を実施することができるように、健診器具や消耗品を各園に配布した。 また、各園の健診結果を報告してもらうことで、歯の健康状態についての把握した。	各公立園では例年どおり年に２回（春・秋）歯科健診を行った。 健診器具や消耗品も滞りなく各園に配布を行った。	各園で継続した健診を行い、早期発見、早期治療を行うことができるように各園へ周知を行っていく。 健診にて要受診となった園児の保護者には積極的に受診勧奨を行い、早期治療につなげていくことで保護者の歯に関する健康意識を高めていく。	保育課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
51	公立保育園・幼稚園のフッ化物洗口の実施	永久歯が生え始める大事な時期に、園で集団でフッ化物洗口を実施することで、健康格差をなくし、定期的・継続的にむし歯予防をする。 園児や保護者、保育士の歯科保健の意識を高める。 園で４・５歳児を対象に集団でフッ化物洗口を定期的・継続的に実施する。 フッ化物洗口を実施してる園へは、安全で適切に実施できるように指導、支援する。	フッ化物洗口の実施に関する消耗品の提供 薬剤の購入及び配布 出納簿の管理や指導・支援	公立園全園で６月よりフッ化物洗口を実施した。（希望者のみ実施）公立保育園では全29園で614人、公立幼稚園で４人が行った。	園児数が減少していることもあり、令和６年度と比べると減少傾向にはあるが公立園の４・５歳児の多く（約95%）が実施した。 フッ化物洗口を実施する目的を保護者や園児に理解してもらうことで今後も継続的に多くの園児が実施していく必要がある。	引き続き多くの園児がフッ化物洗口を実施することで、園児のむし歯予防に努める。 保護者に案内する際は、実施方法の説明のみに留めず、フッ化物洗口の実施目的や利点が伝わりやすいように周知を行う。	保育課
52	歯科健診・治療勧奨	学童期・思春期のむし歯や歯肉炎、歯列や咬合、顎関節の異常に対する早期発見、早期治療を推進するために、各校で春・秋の年２回の健診を実施する。 健診後、専門医への受診が必要な児童生徒・保護者には受診勧奨を行い、養護教諭が個別指導を行うなど、治療や予防処置、指導を受けてもらうようにする。	各校で春・秋の年２回の健診を実施し、必要な児童生徒・保護者に対して受診勧奨を行う。	各校で受診勧奨を行った。	定期歯科健診で治療勧奨された児童生徒の受診率は横ばい傾向である。	各校で健診後の受診勧奨や必要に応じた個別指導を行う。 令和８年度より秋季歯科健診は廃止し、年１回の定期歯科健診になった。	学務課
53	小学校・中学校でのフッ化物洗口の実施	歯の質を強くし、むし歯を予防するために週１回のフッ化物洗口を希望する児童生徒に実施する。 未実施校については、意向調査を行い、フッ化物洗口に対する保護者の理解と学校の実施準備が整ったところから開始する。	週１回のフッ化物洗口を希望する児童生徒に実施。 未実施校については意向調査とともに学校への訪問を通し、令和８年度からの実施に向けての確認を行う。	フッ化物洗口実施状況 小学校　52校（100%） 中学校　25校（92.6%） 支援学校　１校（100%）	未実施校２校が環境を整え、令和８年度に開始することとした。 今後も安全性の確保、適切な方法での実施、特定の職員に業務が集中しないよう配意して実施できるようにする。	各校の実施計画による。（中学校２校が10月から開始し、市立学校全てが実施となる。）	学務課
54	保護者への啓発	学校と家庭が連携して児童生徒のむし歯や歯周病予防に努め、よく噛んで食べるなどの望ましい食習慣の定着に向けた働きかけをする。 むし歯等の実態や歯科保健に関する指導内容の周知、情報提供を保護者に行い、歯と口の健康づくりについて、家庭で実践できるように啓発を図る。	各校において、保護者への啓発を図る。	・保健だより等による広報活動 （小98.2%、中100%） ・デンタルフロス使用の推奨 （小66.1%、中64.5%） ・フッ化物配合歯磨剤使用の推奨 （小35.7%、中41.9%） ・講演会・講習会 （小7.1%、中6.5%） ※県歯科疾患の現状と歯科保健対策より市内に設置の学校について（市立学校以外も含む）		食育（給食）と関連して進める。	学務課
55	歯間部の清掃指導	むし歯の予防、歯肉炎の改善にはデンタルフロスの使用が効果的である。デンタルフロスによる歯間部清掃の習慣を成人期につなげるためには、学童・思春期の指導が有効ととらえ、各学校において、ブラッシング指導の際に、デンタルフロスの使い方の指導を行う。	各校において、歯科保健教育を行う。	デンタルフロスを用いた歯の磨き方の指導 （小78.6%、中48.4%） ※県歯科疾患の現状と歯科保健対策より市内に設置の学校について（市立学校以外も含む）	むし歯の保有率は減少傾向にあるが、歯肉炎（GO、G）の指摘は横ばい傾向であることから、口腔清掃指導の充実が必要である。学校において口腔衛生に関する指導がさらに推進できるようにする。	各校の学校保健計画に基づき、教育活動全体を通じて計画的、組織的に健康教育を実施する。（指導のための歯垢染め出し液、フロス等、消耗品の配布）	学務課
56	教科等における健康教育	生涯にわたり自分の健康の保持増進に努める基礎とするために、児童生徒の発達段階や実態に応じて、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動全体を通じて、様々な機会を捉え、計画的、組織的に実施する。	各校において、学校保健計画を作成し、教育活動全体を通じて計画的、組織的に健康教育を実施する。	各校において実施		各校の学校保健計画に基づき、教育活動全体を通じて計画的、組織的に健康教育を実施する。	学務課
57	学校歯科医との連携	児童生徒に対して、歯科健診後の事後措置はじめ、保健教育において専門的知見を歯科保健教育に活用し効果的な指導を実践するために、学校歯科医や歯科衛生士と連携を図り、保健管理、保健教育を推進する。	歯科健診後の事後措置や歯科保健教育において、学校歯科医との連携を図る。	各校において連携を図った。		各校で歯科健診後の事後措置や歯科保健教育について、学校歯科医との連携を図る。 派遣される歯科衛生士と協力して歯科指導を実施する。	学務課
58	歯周病検診事業	【目的】歯周病の予防及び早期治療に結びつけることにより、歯の喪失を予防し、生涯にわたる健康の維持と食べる楽しみを享受すること。 【対象者】20・30・40・50・60・70歳(令和７年度から20歳を追加) 【料金】無料 【内容】問診、口腔内診査、歯科保健指導 ※長岡歯科医師会等と業務委託契約を締結し、市が指定する歯科医院で個別に検診を行う。	【目的】歯周病の予防及び早期治療に結びつけることにより、歯の喪失を予防し、生涯にわたる健康の維持と食べる楽しみを享受すること。 【対象者】20・30・40・50・60・70歳（令和７年度から20歳を追加） 【料金】無料 【内容】問診、口腔内診査、歯科保健指導 ※長岡歯科医師会等と業務委託契約を締結し、市が指定する歯科医院で個別に検診を行う。	○受診状況（前年度比） ※20歳を追加した数 対象者数：17,463人（+1,468人） 受診者数：2,421人（+292人） 受診率：13.9%（+0.6%） ○対象者に個別通知で検診票を送付した。 ○長岡歯科医師会等の協力のもと、歯科医院に事業周知のポスターを掲示し、受診を呼びかけた。	検診結果有所見者のほとんどが治療に結びつくので、かかりつけ医をつくり、その後の歯科管理の一助となっている。 若い世代の受診率向上のための対策を保健所・郡市歯科医師会等と歯科保健会議等で検討していく。	令和７年度と同じ内容で継続実施する。	健康増進課
59	後期高齢者歯科健診事業	【目的】高齢者の口腔機能低下の予防を図り、低栄養や誤嚥性肺炎の予防につなげる。実施にあたっては、歯周病検診を基本とし、高齢者の特性を踏まえた口腔機能評価を付加して行う。 【対象者】75・80歳 【料金】無料 【内容】問診、口腔内診査、口腔機能評価、歯科保健指導 ※長岡歯科医師会等と業務委託契約を締結し、市が指定する歯科医院で個別に健診を行う。	【目的】高齢者の口腔機能低下の予防を図り、低栄養や誤嚥性肺炎の予防につなげる。実施にあたっては、歯周病検診を基本とし、高齢者の特性を踏まえた口腔機能評価を付加して行う。 【対象者】75・80歳 【料金】無料 【内容】問診、口腔内診査、口腔機能評価、歯科保健指導 ※長岡歯科医師会等と業務委託契約を締結し、市が指定する歯科医院で個別に健診を行う。	○受診状況(前年度比) 対象者数：6,457人(△385人) 受診者数：1,273人(△107人) 受診率：19.7%(△0.5%) ○対象者に個別通知で検診票を送付した。 ○長岡歯科医師会等の協力のもと、歯科医院に事業周知のポスターを掲示し、受診を呼びかけた。	検診結果有所見者のほとんどが治療に結びつくので、かかりつけ医をつくり、その後の歯科管理の一助となっている。 歯周病検診に比べて受診率が高い。有所見者が治療に結びつきやすく、かかりつけ医をつくることで継続的な受診にもつながるため、今後も受診率向上のため受診勧奨を実施していく。	令和７年度と同じ内容で継続実施する。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
60	ながおかウェルネス事業	【目的】 市民の健康づくりを支援するため、民間のノウハウを取り入れた健康づくりの取組を行うとともに、取組が継続出来る仕組みをソフト・ハード両面から構築するもの 【内容】 １　健康アプリを活用した健康ポイント（インセンティブ）事業 ２ 青壮年期向け健康増進推進事業 ・健康づくりイベント（歯科保健に関する講演会、薬と健康のイベント） ・青壮年期向け健康づくり啓発 ・まちなか健康講座 ３ 健康づくりの啓発と基盤整備 ・高齢者eスポーツ体験事業	【歯と食の健口ひろば】 【内容】 １ 講演会：アオーレ長岡交流ホールAにて、歯周病に関する講演会を実施 ２ 歯に関するブース：ナカドマにて、長岡歯科医師会が歯に関するクイズコーナーや歯の健康相談を実施 ３ 食育ブース：ホワイエにて、健康増進課食育担当がシャカシャカおにぎりを作るブースを設置 【対象者】 市民 【実施期間】 ６月	歯と食の健口ひろば（講演会） 実施回数：１回 参加者実人数：68人	イベント周知方法の１つとして健康アプリ（WoLN）での配信と、アオーレ長岡、長岡市市民体育館での健診時にイベントチラシを配布したが、参加者数は伸び悩んだ。参加者アンケートでは、20～50歳代が33%を占めていたため、青壮年期にも啓発する機会になったと考える。また、講演内容について、82%の方が「満足した」と回答しており、89%の方が「また参加したいと思った」との回答であるため、講演会の内容については満足度が高い結果となった。 地区の講座や健診会場でイベントチラシ配布をした際に、市民から、アオーレ長岡は駐車場が有料であり参加しにくいとの声が聞かれたため、イベント会場の見直しが必要だと感じた。	R8年度は、講演会ではなく親子イベントとして開催し、栄養講座と運動講座を組み合わせて実施予定	健康増進課
61	在宅要介護者等歯科保健推進事業	①訪問歯科健診 要介護者及び障がい児者で歯科通院が困難な方に対して、無料で訪問歯科健診を実施する。 ②口腔ケア実地研修 高齢者施設等の職員に対し、適切な口腔ケア技術研修を実施する。	訪問歯科健診、口腔ケア実地研修	県歯科医師会に委託して実施した。	在宅の要介護者等の口腔機能の向上、要介護状態の悪化防止及び生活の質の向上につながる機会となった。	県歯科医師会に委託して実施予定	長岡地域振興局健康福祉環境部
62	口腔ケア研修会	「在宅要介護者等歯科保健推進事業」の普及啓発及び介護関係職員等の資質向上を図る目的で研修会を実施する。	口腔ケア研修会	R7.10.29オンライン開催 ※三条及び柏崎地域振興局との合同開催。参加アカウント数84。	要介護者等の口腔機能の向上及び介護関係職員・歯科専門職の連携促進につながる研修会となった。	R8秋頃にオンライン開催予定 ※三条及び柏崎地域振興局との合同開催	長岡地域振興局健康福祉環境部
63	フッ化物洗口実施状況調査・指導	フッ化物応用等の実施にかかる専門的、技術的支援及びフッ化物洗口実施状況調査等を行う。	フッ化物洗口	９園に実施 ※３年で全対象施設を一巡する形での実施	対象施設においてフッ化物洗口が適正に実施できるよう、状況把握・指導・助言を行った。	12園に実施予定	長岡地域振興局健康福祉環境部
64	かむちゃん事業	「噛むことから良い生活習慣を身につける」ことを目標とし、標語やキャラクターを活用して噛むことの大切さを伝える。	虫歯予防や噛むことの重要性を保育園・学校・母子保健事業の中でPRし普及啓発に取り組むもの	保育園・こども園、学校において８のつく日にキャラクターの提示や噛み応えのある給食メニューやおやつの提供をしている。	８のつく日＝ウエルカムデーを通して、献立説明や子どもたちによく噛むことの保健指導などを行っており、子どもたちにウエルカムデーが定着してきている。	継続	南部地域事務所

（7）生活習慣病の発症予防・重症化予防（健診・がん対策）

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
特定健康診査等の実施率の向上	特定健康診査受診率（19～39歳）	9.2%	9.4%	9.1%	変化なし	↑	健康増進課
	特定健康診査受診率（40～74歳）	42.9%	44.7%（R5）	45.5%（R6）	変化なし	60%	
	後期高齢者健康診査受診率（65～74歳の一部と75歳以上）	30.1%	32.8%	33.3%	変化なし	↑	
がん検診受診率の向上	胃がん検診受診率（40歳以上）	5.1%	4.9%	4.6%	変化なし	↑	健康増進課
	大腸がん検診受診率（40歳以上）	11.8%	12.3%	12.1%	変化なし	↑	
	子宮頸がん検診受診率（20歳以上）	4.5%	4.9%	4.9%	変化なし	↑	
	乳がん検診受診率（40歳以上）	6.5%	6.9%	7.1%	変化なし	↑	
	肺がん検診受診率 胸部エックス線検査（40歳以上）	11.9%	11.9%	11.5%	変化なし	↑	
がんの年齢調整死亡率の減少	がんのSMR（男性）	100.9	101.3	101.3	変化なし	↓	健康増進課
	がんのSMR（女性）	102.5	101.9	101.9	変化なし	↓	

（7）生活習慣病の発症予防・重症化予防（重症化対策・保健指導）

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
特定保健指導の実施率の向上	特定保健指導利用率（40～74歳）	32.2%	36.4%	38.9%	改善	60%	健康増進課
脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少	脳血管疾患のSMR(男性)	135.8	126.2	126.2	変化なし	↓	
	脳血管疾患のSMR(女性)	133.7	142.0	142.0	変化なし	↓	
心疾患の年齢調整死亡率の減少	虚血性心疾患のSMR(男性)	96.9	97.7	97.7	変化なし	↓	
	虚血性心疾患のSMR(女性)	89.6	89.3	89.3	変化なし	↓	
高血圧の改善	収縮期血圧140mmHg以上、または拡張期血圧90mmHg以上の人の割合の減少	26.4%	26.6%	25.8%	変化なし	↓	
脂質高値の人の減少	脂質代謝異常（保健指導値及び受診勧奨値）の人の割合の減少（国保）	65.9%	62.3%	62.4%	変化なし	↓	
メタボ該当者・予備群の減少	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の人数	29.3%	28.3%	28.8%	変化なし	↓	
		4,187人	4,572人	4,220人			
糖尿病性腎症の減少	糖尿病腎症の年間新規透析導入患者数（更生医療）	56人	39人	60人	悪化	↓	
	更生医療の腎機能障害による人工透析患者数	595人	572人	558人	改善	↓	
血糖コントロール不良者の減少	HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）8.0以上の割合（国保）	1.0%	0.96%	0.96%	変化なし	↓	
糖尿病有病者の増加の抑制	糖尿病有病者の推計値（国保）	14.1%	14.3%	13.6%	変化なし	↓	
慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡率の減少	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡率（人口10万人当たり）	8.7（R3）	17.3（R5）	15.6（R6）	改善	↓	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【生活習慣病予防講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・高血圧や糖尿病、がんなど生活習慣病や健康全般のことについて学ぶ。	【生活習慣病予防講座】 実施回数：28回 参加延人数：399人	・地区の健康課題について、コミュニティセンター職員と共有し、地域の実情に合わせた講座を実施できた。講座をとおして、住民と健康課題を共有し、生活習慣病予防のための食習慣や運動習慣について理解を深めることができた。 ・医師を招いた講座を実施した際は、住民の関心度が高く多くの住民が参加した。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	・糖尿病発症予防への食事内容見直しアドバイスと、発症後は定期的な専門医の受診と薬物治療継続への指導・アドバイス ・健康イベントや薬局でのがん検診への受診勧奨	はたらき世代への声かけ、糖尿病発症予防への食事内容見直しアドバイス実施。	各薬局にて糖尿病予備軍の方への食事内容見直しアドバイスや、発症後の定期的な専門医の受診と薬物療法継続への指導・アドバイスを実施。 健康イベントにてはたらき世代への声かけ、糖尿病発症予防への食事内容見直しアドバイス実施。	各薬局での成果は把握できていない。健康イベントでの啓発では、事後アンケートにて食事内容の見直しなどのアドバイスが、来局者に伝わったと考えられる。	今年度は高血圧対策を重点課題として、新潟県薬剤師会企画の「「みんなで測ろう！高血圧啓発プロジェクト」または、「健康ハートの日プロジェクト」に当会所属の各薬局も参加し、血圧測定の重要性を市民に発信する。	長岡市薬剤師会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
5	骨粗しょう症予防事業	骨粗しょう症予防に関する動機付けを行い、市民自ら健康管理を実践できるよう支援する。また、骨粗しょう症による骨折を予防し、健康寿命の延伸を図るもの	・骨粗しょう症予防講座 ・簡易骨密度測定コーナー ・地区フレイル予防講座、相談等での簡易骨密度測定	令和７年度参加者数：2,447人 (1)骨粗しょう症予防講座 ・実施回数27回、参加者数383人 (2)簡易骨密度測定コーナー ・測定者数2,064人	測定結果と併せ指導を受けることで、健康意識を高め、行動変容への動機づけに効果がある。アンケートにより、骨密度を数値化して見た後、栄養・運動指導講座を受けることで、生活習慣改善の動機づけに繋がっている。	これまで取り組みに参加したことのない人や、子育て・働き盛り世代に参加してもらえるよう、コミセンや各種イベント、子育ての駅等、地域に出向いて積極的に実施していく。	健康増進課
6	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	重症化予防等の後期高齢者に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）を両輪として保健事業を実施し、健康の保持増進とQOLの向上を図る。	・血糖・血圧高値、腎機能低下の者や健康状態不明者にアウトリーチ支援を行い、必要な保健指導を行うとともに医療・福祉等必要なサービスに接続する。 ・通いの場等に出向き、フレイルや重症化予防の取組の重要性の普及啓発、健康教育・健康相談を実施する。	○健康状態不明者訪問 対象者：604人 訪問数：594人 ○健診異常値放置者受診勧奨訪問 対象者：48人 訪問数：48人 ○フレイル予防・相談事業 講座回数：162回 参加者数：2,276人	ハイリスクアプローチは、95%以上の介入支援ができた。ポピュレーションアプローチは、圏域毎に地区の特性に合わせてフレイル予防の講座・健康相談を行うことができた。「質問票」を活用し、９割方の健康状態を把握できた。健康リスクが高い方については地域包括支援センターなど必要な支援機関につなげることができた。	引き続き、ハイリスク者へのアウトリーチ支援と、フレイルや重症化予防の取組の重要性の普及啓発、健康教育・健康相談を実施する。事業実施５年目となるため、事業の評価・見直しを行う。	健康増進課
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・栄養の基礎知識 ・調理の基本 ・食育推進と食生活改善推進委員について ・生活習慣病と健康管理 ・口腔衛生等 講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。	健康増進課
12	食育総合講座～みんなの食育塾～	市民が食への興味関心を深め、健全な食生活を実践するため、食に関わる団体や個人と連携して市民向け講座を開催する。	テーマに沿って講座開催（親子、伝承料理、生活習慣病予防、男性、高校生、動画配信） 講話及び調理実習等の体験を行う。	・親子（５コース）：50組（大人57人、子供56人） ・伝承料理（２コース）：33名 ・生活習慣病予防（２コース）：24名 ・認知症予防（１コース）：18名 ・動画配信（１講座）：申込者468人（拝聴717回） ・高校・大学生向け（１講座）：113人	リピーターも多いが、青壮年期の新たな層の参加もみられた。動画配信講座は幅広い市民の皆様から視聴いただくことができた。 一方で、疾病予防講座は参加希望者が伸び悩み、広報活動を工夫することが課題である。	働き世代や青壮年期が多く参加できる講座を計画したり、高校生向けを充実させるなどし、新たな層を多く取り込めるよう計画していく。	健康増進課
13	食育講演会	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及をを図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施するもの	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及をを図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施	食生活改善推進委員協議会第２回全体研修会に併せて開催 日時：11月20日（木） 会場：リリックホールシアター 参加者：180人 講師：土屋　智帆氏（お米ライター） 「お米をもっと食べよう！」	アンケートでは、男性参加率が昨年度の１%から今年度は約10%へと大きく増加した。講演テーマが日常に身近な「お米」であったことが関心を集め、吸水方法や炊き方など実生活で役立つ内容が評価された。	R8年度も食生活改善推進員協議会の第２回研修会と併せた形で実施予定 予定日時：11月13日（金） 講師：武蔵大学　種村菜奈枝教授 テーマ：（仮）食品のリスクを正しく理解し、健康被害を防ぐ	健康増進課
14	学校給食献立商品化	市民へ減塩と野菜摂取を啓発するため、学校給食献立「ながおか減塩うまみランチ」を商品化し、市内スーパーマーケット等と連携し、販売するもの	スーパーマーケットと協働した惣菜販売 スーパーマルイ：６月１カ月間 割烹たいしん：通年	販売店舗 ①スーパーマルイ（市内７店舗） ＜６月販売個数＞ ・鶏肉の香味焼き：2,216個 ・ひじきとコーンのサラダ：419個 ・かみかみみそ汁：193個 （長岡市内の販売実績） ②割烹たいしん ・庁舎販売 さいわいプラザ　780食 アオーレ　137食 ・弁当　436食 ・社員食堂　554食	協働により減塩体験の場を創出し、市民の関心の高さを確認できた。 一方、参画企業の拡大や継続的検証、広報強化が課題である。	若い世代への周知方法として、乳幼児健診や学校等の給食だよりを活用する。 また、商工会等と連携し、企業への事業PRを行う。	健康増進課
15	保育（こども）園食育普及講座	園児や保護者を対象に、食に関する講話や運動、簡単な調理体験等を行う (1)保護者向け食育講座 (2)親子食育体験講座 (3)３回講座	【講座内容】 （1）保護者を対象に、乳幼児期の食事やおやつの取り方、共食等についての講話 （2）朝ごはんの大切さや食事のマナー、おやつの講話と簡単な調理体験を親子一緒に行う （3）園児に対し、食事のバランスや朝ごはんについての講話	(1)保護者向け食育講座 ・２園実施　36人（保護者31人、職員５人） ・内容：幼児期の食事で大切なこと (2)親子食育体験講座 ・５園実施　193人（児童91人、保護者80人、職員22人） ・内容：朝ごはんの大切さ、食事のマナー、おやつ等の講話と簡単な調理体験（シャカシャカおにぎりづくり、出汁試飲など） (3)３回講座 ・10園実施　延べ1,559人 ・内容 ①まごわやさしい ②き・あか・みどりの食べ物　元気なうんち・うんちおたすけ運動 ③早寝早起き朝ごはん　元気いっぱい全身運動	事後アンケート結果より、受講後の家庭での変化として「食べ物や食べることについての会話が増えた」「食事のバランスを気をつけるようになった」「野菜を食べる量・頻度が増えた」の回答が多く、講座による具体的な成果を把握することができた。 課題としては、アンケートの回答率が低いことが挙げられる。回答すると追加情報が得られるなど、インセンティブを考慮した方法を検討していきたい。 また、パクパクノートのやり取りが負担、または使い方が不明確だった保護者が少数見られたため、記載内容や説明方法について改善を検討したい。	R7年度と同等の内容で実施。 親子講座、保護者向け講座では引き続き、保護者の食の悩みに寄り添ったテーマになるよう、計画していく。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
17	食育推進料理教室	調理実習や講習を通し、食生活面からの健康づくりを推進するため、市から事業委託を受け、市内全域で実施。全市共通するテーマに基づき、地域の実情にあった食生活の相談・助言を行い、健康づくりに関する知識の普及を図る。	食推を対象とした研修の実施 テーマに沿った講話と調理実習	実施地区数：49地区 参加者数：622人 テーマ「ナトカリバランスで高血圧予防」 ～ちょいしお、もりもりやさいで健康になろう～	市内全地区で実施することができ、地域において「減塩の工夫」を推進する機会を確保することができた。参加者からは、「塩分不使用の出汁パックがあり、減塩でも手軽に出汁が取れることを知れてよかった」「日ごろの味付けが濃かったことに気付いた」「薄味にすることで出汁の旨味や野菜そのものの味を感じることができた」などの好意的な意見が寄せられ、事業に対する満足度も高く、食に関する知識の普及や健康意識の向上につながった。 一方で、実施する食推委員からは、参加者の確保に苦慮しているとの声が聞かれており、広報手段の工夫や新たな参加者層の開拓が課題となっている。	＜R8年度予定＞ テーマ「減塩、思ったよりも簡単だった！塩クイズ＆体験で学ぶ減塩のコツ」 内容 ・塩に関するクイズ ・ソルセイブで塩味チェック体験 ・調理実習 　献立：焼き稲荷・野菜たっぷりみそ汁・蒸し器のいらない茶碗蒸し 実施地区数：48地区	長岡市食生活改善推進委員協議会（健康増進課）
22	地域活動事業	・子どもから高齢者まで、からだを動かすことの楽しさ、体力の向上を目指しながら、仲間を作りあげていくことにより、日常のストレスに対処し、健やかな生活習慣を身につけていく。	①健康相談会 ②糖尿病予防講座 ③料理教室 ④認知症予防講座	保健師、医師、食推など専門家等による指導を受けた。	生活習慣病予防の意識付けができた。若い世代や男性の参加を促す工夫が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
60	ながおかウェルネス事業	【目的】 　市民の健康づくりを支援するため、民間のノウハウを取り入れた健康づくりの取組を行うとともに、取組が継続出来る仕組みをソフト・ハード両面から構築するもの 【内容】 １　健康アプリを活用した健康ポイント（インセンティブ）事業 ２ 青壮年期向け健康増進推進事業 　・健康づくりイベント（歯科保健に関する講演会、薬と健康のイベント） 　・青壮年期向け健康づくり啓発 　・まちなか健康講座 ３ 健康づくりの啓発と基盤整備 　・高齢者eスポーツ体験事業	【ながおかウェルネスチャレンジ】 ・健康アプリを活用した健康ポイント事業	登録者数：2,569人 ・食事記録をすることで、栄養素やカロリーが表示され、記録データからAIによる栄養アドバイスを受けることができる。 ・マイナポータルと連携することで、医療保険情報の取得が可能。健康診断の結果などとライフログデータと併せて一体的に管理することができる。	・健康アプリを活用し、身体や健康に関する情報を見える化し、一体的に管理することで健康意識の向上につながった。 ・マイナポータル連携により取得した医療保険情報から健康診断の未来予測シミュレーションが可能となり、生活習慣の改善のきかっけとなった。 ・登録者数の伸び悩み、アクティブ率の向上が課題となっている。	・本事業を引き続き継続して実施する。 ・健診受診率及び各種健診の実施率向上を目的として、健診受診ポイントを引き上げるとともに、健診会場においてアプリのインストール支援を実施する。 ・指導会等において、アプリと連動した体組成計を活用し、アプリの利用促進及び健康づくりの習慣化を図る。	健康増進課
65	CKD・糖尿病性腎症重症化予防対策事業	ＣＫＤ・糖尿病性腎症の重症化予防が必要な者が、疾患について正しく理解し、疾病管理のための食事や生活習慣等についての理解を深め、自己管理の質を高めるための集団指導、個別保健指導を行う	【ＣＫＤ・糖尿病性腎症健康セミナー】 糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者への３回コースの集団指導 【糖尿病予防教室】 特定健診受診者で糖尿病型の者への３回コースの集団指導	【ＣＫＤ・糖尿病性腎症健康セミナー】 　対象者数829人、参加実人数36人 【糖尿病予防教室】 　対象者数710人、参加実人数47人	・参加者の行動目標の継続率は、83%と目標の80%を達成した。 ・集団指導の各回定員に対し、参加が少ない状況。指導内容、実施回数等を見直し、参加しやすい体制に改善していく。 ・主治医から、事業参加について勧めていただくよう、引き続き協力依頼を行う必要がある。 ・医師会等関係機関との協議を経て、「長岡市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」をR8年３月に改定。	「長岡市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」改定に基づき事業対象者を抽出し、保健指導参加勧奨を行い医療専門職による健康教育（集団指導）を行うほか、主治医による指示書に基づき個別保健指導を行う。	健康増進課
66	特定保健指導事業	【目的・内容】 特定健康診査で、メタボリックシンドローム該当者または予備軍に対し、支援レベルに合わせた保健指導を行い、自ら生活習慣を見直すことによりメタボリックシンドロームのリスク低減または改善を図る。 【対象】 40～74歳の特定健康診査受診者のうち、メタボリックシンドローム予備軍や該当者で、糖尿病・高血圧症・脂質異常症の内服治療を受けていない方 【実施機関】 通年	・特定保健指導指導会 ・健診時特定保健指導分割実施 ・特定保健指導利用勧奨事業(訪問、電話等) ・オンライン保健指導 ・健診機関等委託による特定保健指導業務	令和７年度実績（R8.3.31時点） ・特定保健指導利用勧奨率 64.0% ・特定保健指導初回面接実施率 38.9%	利用率は前年度より向上したものの、特に働き盛り世代の参加率が低い状況がみられる。健診当日の分割実施は日中の電話や訪問で繋がりにくい方への支援に繋がるため利用率向上に寄与しているが、継続的な支援に繋がりにくいという課題がある。	健診当日からの早期介入（分割実施）を継続するとともに、電話・訪問・オンライン等の周知や勧奨方法を強化する。 特に働き盛り世代へのアプローチとして、オンライン保健指導の活用を推進し、利用率向上を図る。	健康増進課
67	生活習慣病予防事業	生活習慣病のリスクの高い人に対し、かかりつけ医がイエローカードを発行し、市の指導会につなげ、生活改善を図る。	生活改善プログラム ・栄養士や保健師による栄養指導、運動指導員による運動指導 ・１か月間で計２回（初回、１か月後）の面接を実施	生活習慣病予防指導会 ・実施回数：75回 ・参加者 　実 90人、延 148人 ・27医療機関から紹介あり	・対象者に応じた個別指導と行動計画により、生活習慣の改善や受診行動の促進につながっている。 ・継続率(指導会３回目まで参加)が約3割と低く、回数見直し等による改善が必要である。 ・訪問による周知により事業は定着しつつあるが、健診結果前の書類送付を求める声もあり、訪問以外の周知方法の検討が必要である。	引き続き、医療機関と連携し指導会参加者を増やすことで、生活習慣病予防及び重症化予防を図る。	健康増進課
68	あなたの健康相談	【目的】 　市民の生活習慣の改善等の健康に関する相談に応じ、保健指導を実施することで、個人・家族の健康増進を図る。 【内容】 　個別に心身の健康及び栄養や食事に関する相談に応じ、必要な指導助言を行う。 【対象者】 　一般市民 【実施期間】 　通年	あなたの健康相談会	令和７年度実績 ・実施回数：105回 ・相談延人数：475人 ・39歳以下：202人 ・40-64歳：42人 ・65歳以上：231人 ・75歳以上(再掲)：125人	・健康に関する助言・指導を行うことで、参会者の健康に関する悩みや不安の軽減、健康意識の向上につながった。 ・高齢者の参加者数が増加していることから、生活習慣病に加えてフレイル予防等、高齢者の特性に合わせた助言・指導を行っていく。	・健診日程により参加者に偏りがあるため、健診結果通知後など、参加者が増えると見込まれる月の相談会日数や定員について検討が必要。 ・市民に広く周知し参加につなげるため、今後も広報媒体等を活用し、継続的な周知に取り組む。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
69	健康診査事業	【特定健康診査（19～39歳）】 19～39歳を対象に、生活習慣病の予防やメタボリックシンドローム予備軍・該当者の早期発見を目的として健康診査を実施する。 【特定健康診査（40～74歳）】 40～74歳の市国保加入者を対象に、生活習慣病の予防やメタボリックシンドローム予備軍・該当者の早期発見を目的として健康診査を実施する。 【後期高齢者健康診査】 75歳以上及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、疾病の早期発見・早期治療を目的として健康診査を実施する。	【特定健康診査（19～39歳）】 19～39歳を対象に、生活習慣病の予防やメタボリックシンドローム予備軍・該当者の早期発見を目的として健康診査を実施する。 【特定健康診査（40～74歳）】 40～74歳の市国保加入者を対象に、生活習慣病の予防やメタボリックシンドローム予備軍・該当者の早期発見を目的として健康診査を実施する。 【後期高齢者健康診査】 75歳以上及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、疾病の早期発見・早期治療を目的として健康診査を実施する。	○受診状況(前年度比) 【特定健康診査（19～39歳）】 対象者数：13,631人（△497人） 受診者数：1,242人（△80人） 受診率：9.1%（△0.3%） 【特定健康診査（40～74歳）】※R6年度実績 対象者数：31,888人(△1,857人) 受診者数：14,522人(△577人) 受診率：45.5%(+0.8%) 【後期高齢者健康診査】 対象者数：45,799人(+1,404人) 受診者数：15,250人(+674人) 受診率：33.3%(+0.5%) ○受診しやすい環境の整備（土曜日実施、女性限定日の設定、保育サービスの提供） ○未受診者へ個別に勧奨通知を送付し、受診を促した。 ○市公式LINEで周知を行い、受診を呼びかけた。	メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者を早期発見することにより、特定保健指導該当者を抽出し保健指導につなぐことができた。また生活習慣病や疾病の早期発見に成果をあげた。 今後も継続して受診勧奨の実施や受診しやすい環境を整備し、受診率を向上させる必要がある。	令和７年度と同じ内容で継続実施する。	健康増進課
70	訪問指導事業	【目的】 生活習慣等の改善が必要な者に対し、訪問指導を実施するもの 【内容・対象】 健診受診後の異常値放置者、治療中断者、糖尿病性腎症重症化予防対象者等に生活習慣改善、重症化予防のための訪問指導を行う。 【実施期間】 通年	・異常値放置者受診勧奨事業 ・治療中断者受診勧奨事業 ・糖尿病性腎症重症化予防プログラム ・健診緊急訪問	令和７年度訪問実施数 延936件	生活の場において、より個人にあった指導を行うことで、生活習慣の見直しや改善、受診行動に繋がり、疾病の予防や重症化を防ぐ成果をあげた。	・特定健診等の結果に基づき、ハイリスク者に対し訪問指導を実施し、生活習慣病の発症、重症化予防に努めていく。 ・医療受診や行動変容のためには、訪問指導による直接的支援が効果的であるため、引き続き取り組んでいく。	健康増進課
71	オンライン保健指導	【目的】 特定保健指導の利用率が特に低い働き盛り世代の保健指導の利用率向上を図る。 【内容・対象】 特定保健指導対象者のうち希望者にオンラインで保健指導を実施する。 【実施期間】 通年	・特定保健指導事業	令和７年度実績 ・オンライン特定保健指導実施人数：13名	働き盛り世代の参加につながった。一方で、利用者数はまだ少なく、事業の認知不足や利用手続きのハードルが課題である。	オンライン保健指導の周知強化と申込時の煩わしさを軽減し利用促進を図る。 働き盛り世代が参加しやすい環境を整備する。	健康増進課
72	糖尿病を知るつどい	長岡市及び周辺地域の糖尿病患者やその家族、また一般市民も対象に糖尿病についての教育・啓蒙を行い、よりよい療養生活を送れるよう援助することを目的に講演会を実施する。 例年、講演、運動指導、食品見本展示等を行い、健康に関する知識の向上を図り、また、血糖測定やセルフケア指導（血圧測定、体脂肪測定等）、栄養相談、歯科指導等を行い、自己の健康管理の醸成を図っている。 年１回実施	事業概要同様	実施日：令和７年７月５日（土） 場所：長岡リリックホール　シアター テーマ：「血糖値を良くして10年後の医療費を節約する」 内容：講演、座談会、ストレッチ体操 来場者数：260人 ※同様の事業として「アオーレで知ろーれ糖尿病」（世界糖尿病デーin長岡2025）あり 実施日：令和７年11月８日（土） 場所：アオーレ長岡 テーマ：「合併症を予防して健康寿命を延ばそう」 内容：講演、行政が行う健康に関する事業紹介 来場者数：162人	評価：例年、糖尿病を中心とした内容にしているが、毎年テーマを変え、近年の状況を踏まえながら新たな取り組みを取り入れ、糖尿病患者の増加や状態を悪化させないための予防対策も考えながら、多くの方々に興味を示してもらえるような内容で開催していきたい。 各関係機関が連携することで、各専門分野での問題点や患者等の関心のある分野の把握、今後の対応等がスムーズに行われ、改めての糖尿病に関する知識の向上等を関係機関との協力のもと図れたことは有意義だったと考える。 課題：若い世代から糖尿病を予防するための運動や食生活等普段の生活習慣を意識づける必要がある。	実施日：令和８年11月14日（土） 場所：長岡リリックホール テーマ：心臓と糖尿病（仮題） 内容：講演、座談会、ストレッチ体操、長岡市が行う健康情報 来場者数：300人（見込み） ※「アオーレで知ろーれ糖尿病」（世界糖尿病デーin長岡2026）は「糖尿病を知るつどい」に統合	長岡市医師会
73	糖尿病献立集による情報提供	終了					栄養士会長岡支部
74	生活習慣病予防のための食に関する情報提供	【在宅医療（栄養）推進事業】 「同職種連携強化による栄養情報の円滑な共有」をテーマに、保健（在宅）・医療・福祉間の栄養に関する情報共有が円滑に進むための体制整備を目指し、関係者とともに対策を検討する。	【在宅医療（栄養）推進事業】 新潟県基金事業の取組。医療・福祉間の栄養情報が円滑に共有することで、より多くの市民（対象者）への安全で安心した食事提供につながる。	【在宅医療（栄養）推進事業】 ・医療、介護、在宅間においての円滑な栄養情報の共有と、連携ツールの充実を図る為の手段を検討する研修会の開催。 ・食形態一覧の形態周知と理解を促す研修会の開催。	【在宅医療（栄養）推進事業】 高齢者の食事提供に関わる職種を対象とした研修会により、食形態の理解と工夫、情報共有を促すことができた。	【在宅医療（栄養）推進事業】 ・連携ツールの充実に向けて、より実践的な研修を組み込んだ研修会を計画している。	栄養士会長岡支部
75	地域職域連携推進協議会	働く世代からの生活習慣病予防対策を進めるため、その重要性について事業者等へ普及啓発するとともに、中小規模事業所において取り組みやすい環境整備を進める。	働く世代を中心とした生活習慣病の発症予防・重症化予防に向け、働く世代の健康づくりを担う関係者と目的の共有と取組の推進を目指す。	１ 地域・職域連携推進協議会の開催（3/2） ２ 健康課題の多い運輸交通業を対象とした健康づくりの実施（※長岡市と連携して実施） ①モデル事業所（三越タクシー）での取組 ・「事業所カルテ」を活用した事業所の健康目標の確認 ・健康課題を踏まえた従業員の実態調査（50人） ・健康教育の実施　３回（延べ50人） ②モデル事業所所属団体（中越地区ハイヤー協会）労務指導会での経営者との意見交換会：１回（13社） ③運輸業界（陸上貨物運送事業労働災害防止協会）夏期定例研修会での経営者への情報提供：１回（32社）	・モデル事業所への支援をとおし、事業所カルテ等、実態の見える化された資料は経営者の関心が高く健康経営の目的が共有され継続につながりやすいことが確認できた。 ・運輸業のネットワークを活用し、経営者に対する健康づくりに関する情報提供や意見交換の場を広げることができた。 ・次年度は関係機関の保健サービスを活用しながらの事業展開をすることを具体的に検討することができた。 ・引き続き小規模事業所が主体的に健康づくりに取り組むための体制等について関係者と検討が必要。	①（継続）関係機関等と連携した、モデル事業所での健康教育等の実施 ②（継続）中越ハイヤー協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会との情報交換等の実施 ③（新規）長岡商工会議所運輸・交通部会での情報提供の実施 ④地域・職域連携推進協議会の開催	長岡地域振興局健康福祉環境部

2　主体的な多世代健康づくりの広がりを推進する取組

（1）社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
就労・就学、ボランティア、社会活動を行っている人の増加	ニート等の若者の就労支援事業利用者数	3,441人	3,071人	2,992人	悪化	↑	長岡若者サポートステーション
	老人クラブ数	178団体	155団体	146団体	悪化	↑	わくわく連合会
	シルバー人材センターの会員数	3,002人	2,903人	2,828人	悪化	↑	シルバー人材センター
市民団体数の増加	長岡市「通いの場」団体数	335団体	332団体	326団体	悪化	↑	健康増進課
	NPO法人数	71団体	69団体	69団体	変化なし	↑	市民協働課
	市民協働センター登録団体数	432団体	384団体	411団体	改善	↑	市民協働センター
地域で共食している人の増加	食事サービス実施数	41地区	41地区	41地区	変化なし	→	長岡市社会福祉協議会
	子ども食堂の数	21か所	26か所	30か所	改善	↑	子ども政策課
メンタルヘルスに取り組む職場の増加	働き方プラス応援プロジェクト賛同企業数	221企業	313企業	327企業	改善	↑	人材・働き方政策課
ゲートキーパー数の増加	ゲートキーパー養成研修会実施回数	12回	17回	23回	改善	↑	健康増進課
	ゲートキーパー受講者延べ人数	2,448人	3,445人	3,857人	改善	↑	
心のサポーター数の増加	心のサポーター数	―	―	―	―	―	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【こころ元気アップ講座】 ・地域健康づくり講座 ・コミュニティセンター単位で地区別に実施 ・心地良い生活を送るために、ストレスとうまく付き合い、こころがホッとするコツを学ぶ。簡単なストレッチやリラックス体操なども組み合わせることができる。	【こころ元気アップ講座】 実施回数：12回 参加延人数：178人	・こころの健康づくりに関する講座の実施について、内容が難しいと感じている住民もおり、こころの健康づくり講座を実施している地区が限られている。	・各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、住民やコミュニティセンター担当者と協力しながら講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。 ・こころの健康づくりに関する講座の内容を増やし、住民がこころの健康づくりに関心を持てるようにする。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	ゲートキーパー養成	うつをテーマに産後うつなど女性特有の健康問題への理解を深め気づき、つなげるための研修会（新潟県薬剤師会主催）に参加	助産師による産後ケア事業の紹介やパンフレットを、健康イベントにて配布・啓発。 若年者のオーバードーズをテーマとし、薬剤の乱用や規制の問題だけでなく、精神的な苦痛の現れであることに着目し、自殺予防の視点からODを理解すること、ODによる自殺を未然に防ぐために薬剤師が身につけておくべき知識や対応スキルについて学ぶ研修会（新潟県薬剤師会主催）に参加。	薬剤師が自殺ゲートキーパーとしての役割を担い、つなぐことの大切さを学ぶ活動はしたが、実際に市民に対してアクションできたかは把握できていない。	5/16 市民公開講座（ﾃｰﾏ：自殺予防）を開催し35名の参加があった。	長岡市薬剤師会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【地域介護予防活動支援事業】 ・介護予防を目的とした自主活動グループへ補助金の交付や講師派遣、活動の相談、交流会開催等の支援を行う。また、介護予防サポーターの育成・支援も行う。	【地域介護予防活動支援事業】 ・はつらつサークル支援事業 団体数：292団体 登録人数：4,281人 支援回数：2,321回 参加延人数：26,545人 ・はつらつ広場支援事業 団体数：34団体 登録人数：706人 支援回数：1,556回 参加延人：22,188人 ・介護予防ボランティア養成支援 実施回数：４回 参加延人：65人 ・従事者研修会 実施回数：４回 参加延人：144人 ・介護予防講演会 実施回数：１回 参加延人：403人	・高齢者の社会参加と生きがいづくりの支援を行い、社会的孤立感の解消及び介護予防につながっている。 ・参加者の高齢化などにより活動継続が困難となる団体が増えてきているため、活動状況に合わせて必要な支援を行う。 また、はつらつ広場支援事業については、参加者の固定化、補助金に関する事務の負担感、当初の事業目的からのずれなど課題が多く、事業の見直しが必要である。現在の登録団体が活動を継続できるような見直し方法を検討していく。 介護予防ボランティア養成・支援事業では、介護予防事業サポーター（転ばん隊）の高齢化も課題ではあるが「従事することで交流が広がって楽しい」「自分の介護予防にもつながっている」との声があがっているため、引き続き養成やフォローアップ研修を行う。 市主催事業の単なるお手伝いではなく、主体的に体操指導やサークル立ち上げを行えるリーダー人材を育成し、介護予防の裾野拡大や継続支援を図る。	引き続き、通いの場や介護予防サポーターの養成・活動支援を行うことで、住民が主体となった介護予防活動を支援していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 ③筋力向上トレーニング事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	生活機能改善を目的としたサービスを実施。 高齢者自身が、役割や生きがいを持って生活できると思えるように支援し、仲間づくりや生きがいの場への参加を通じて、生活の意欲を高める働きかけを実施。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95 ③　36	（評価） 多様な担い手による活動や運動など生活機能改善を目的とした事業を実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷。 セルフケアの定着。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146 ③　86	長寿はつらつ課
18	食生活の普及	家族や自分自身の健康を維持する為や正しい食習慣を身につける機会、情報交換の場とする。 【リーダー研修会】 ながおか地域女性部にて実施。栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問より講師をいただき、旬の地場産野菜を使った料理や米粉を使った料理をテーマに実施。各地区から選出されたリーダーより研修会の参加、その後自地区にて健康料理教室の伝達講習会を実施いただく。（６月10月年２回実施） 【食育の日料理教室】 地域住民・市民の交流の場として、なじら～て東店併設「市民交流施設イーネ」で、食農・食育に沿った料理教室を開催。月１回「食育の日料理教室」を開催。	事業概要同様 【リーダー研修会】 リーダー研修会後、自地区にて女性部員へ正しい食習慣や新しい情報を伝えることにより、その家族や知人など幅広く地域住民へ食に関する知識を与える。 【食育の日料理教室】 誰でも参加できるため、年齢・性別を問わず交流ができる。	【食生活リーダー研修会】 食生活リーダー研修会：２回開催（６月・10月） 各地区伝達講習会実績：18会場182名 【食育の日料理教室】 実績：12回129名	【リーダー研修会】 （評価） 栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問を講師に迎え、参加者の興味を引く企画を行うことにより、参加者および支部から好評をいただいている。 （課題） 女性部の高齢化により講習会を実施しない地区が増えている。 【食育の日料理教室】 旬の食材を使い、手軽に家庭でできる料理を提案することから、主婦層より人気となった。リピーターも多く、地域住民同士が「食」を通して関りを持つことを実現した。 （課題） メンバーが固定化してきているので、新しい方が参加しやすいきっかけ作りや広報活動に取り組んでいきたい。	継続	JAえちご中越組織福祉課
20	乳幼児健診	４か月児健診、10か月児健診、１歳６か月児健診、３歳児健診を実施。乳幼児の健全な発育と保護者への育児相談等を目的に行っている。	乳幼児の発育の確認と保護者への相談支援を行い、健診後も必要時継続して支援を行っている。	４か月児健診受診者数(率)： 1,264人（99.6%） 10か月児健診受診者数(率)： 1,210人（97.0%） １歳６か月児健診受診者数(率)： 1,305人(96.7%) ３歳児健診受診者数(率)： 1,553人(97.9%)	健診で乳幼児の健康状態を確認し、保護者に健康管理の大切さを伝えることができている	今年度同様に実施予定。	こども家庭センター
22	地域活動事業	・子どもから高齢者まで、からだを動かすことの楽しさ、体力の向上を目指しながら、仲間を作りあげていくことにより、日常のストレスに対処し、健やかな生活習慣を身につけていく。	各種健康講座	こころ元気アップ講座、睡眠講座、自律神経を整える講座	ストレスとうまく付き合っていくコツなどを学び、こころの健康維持につながっている。若い世代の参加を促す周知方法が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
26	心身障害者スポーツ教室	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的にスポーツ教室を開催する。 【内容】 テニススクール 【対象者】 障害児・者とその家族 【実施回数】 ５回	心身障害児・者の身体機能の維持・向上や社会参加を図るため、障害児・者とその家族を対象にテニス教室を開催。	長岡市テニス協会に指導員を依頼。全５回実施した。	テニス活動を通じて、参加者同士の交流が深まり、コミュニケーション機会の拡大につながった。	R8年度も全５回実施予定。	福祉課
31	各種大会開催事業	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	【市民スポーツ祭】 27種6,980人参加 【まつりスポーツ大会】 ７種2,108人参加	市民スポーツ祭は参加条件を再度確認し、市民が広く参加できるよう工夫した。 まつりスポーツ大会は、会場の都合で実施できない種目もあったが、おおむね例年通りの参加があった。	市が実施する地域交流大会との関係を整理しながらより市民が参加しやすい大会となるよう要項の見直しを行いながら実施する。	（公財）長岡市スポーツ協会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
32	スポーツ教室・クラブ運営事業	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	【主要体育施設】大人向け17教室1,142人参加、小学生向け３教室91人参加、親子向け５教室491人参加、コオーディネーション５教室114人参加 【コミセン等】大人向け６教室192人参加、親子向け１教室13人参加	主要体育館での大人向け教室は定着しているが、新規参加者が増加していない。 親子での運動遊びやより身近なコミセンを会場としたスポーツ教室は参加者が増加している。	コミセンや支所地域など身近な場所でのスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、新規教室、新規会場の開催を含めて検討・実施する。 既存の教室においては新規参加者を増やすよう広報方法など検討する。	（公財）長岡市スポーツ協会
35	健康増進活動	運動を通じてコミュニケーションを図る。 【運動会・スポーツ大会】 JA支店と地域が連携して、健康づくりのスポーツの取り組みを実施。健康づくりと仲間づくりをすすめる。 【健康教室】 少人数・グループでの開催を可能にし、手軽に参加できる健康講話や軽運動を実施し、健康についての関心を深める。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JA組合員・役職員をはじめとする、地域住民の健康づくりに対する関心を高め健康の源となる「食」において新潟の農畜産物の豊かさをPRし、「すべての人に健康と福祉を」（SDGsゴール３）に貢献するため取組みを実施。12月～１月（冬季）を実施期間とし、継続30日間の健康チャレンジに挑戦。	事業概要同様	【運動会・スポーツ大会】 ながおか地域実績：22会場650名 【健康教室】 ながおか地域実績：３会場55名 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JAえちご中越管内実績（参加者）：ハガキ45枚	【運動会・スポーツ大会】 スポーツを通じ地域住民との結びつきの維持・強化を図ることができた。 （課題） 新規の取組みもなく、開催地区の固定化や参加住民の高齢化により取組自体の終了など今後参加者の大幅な減少が予想される。 【健康教室】 コミュニティセンターを通じ、高齢者を中心に長岡中央綜合病院の理学療法士が健康管理について講話や軽運動を行った。コミュニティセンター・JA・病院の連携により、高齢者の健康意識をより高めることができた。 （課題） 毎年同じようなテーマとなり、目新しさがない。 参加後の満足感を上げるようなテーマをご提案したい。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 令和６～７年度は女性部を中心に地域住民への呼びかけを行った。各自で決めた健康テーマを連続30日間チャレンジすることで、健康に対する意識づけをすることができた。 （課題） 女性部を中心に参加を呼びかけたので、参加者のほとんどが60代～70代の女性となってしまった。性別世代関係なく地域住民へ幅広く参加していただくためにもJA広報誌の活用など検討が必要。	継続	JAえちご中越組織福祉課
36	単位クラブ活動	定期的な会合や各種行事・スポーツを実施し、楽しみながら会員同士の繋がりを持ち、地域との繋がり、こころの健康を維持する。同時に会員の入会活動を行い独り暮らしの老人等への声掛けを行い、地域の「互助」に貢献する。	「お茶飲み会」「町内の清掃活動」「スポーツ大会参加」「各種大会参加のための練習」会員の勧誘活動。「友愛訪問」として施設に入居している人に会報誌を届ける活動を実施	例年同様各単位クラブで定期的に「お茶飲み会」「輪投げ・ペタンク・グラウンドゴルフ」等スポーツを実施している。各種活動で会員相互の心の繋がりと孤独防止、安否確認を地域単位で実施。会員・会長の高齢化で活動が衰退気味であるが地域によっては会員を増やす努力も行っており、長岡支部は令和７年度の活動の結果、令和８年４月１日の会員数は前年度より22年ぶりに増加した。	各単位クラブのメンバーの高齢化が進み、新規会員の入会も進まない状況である。 単位クラブの会長も高齢になり活動が消極手になりがちであるが、高齢者の「認知症予防」「孤独・孤立の防止」として集まって会話をすることの重要性は全員が認識している。老人会活性化の為、町内会との連携が重要と考え、長岡市内の各支部会長、各支部の単位クラブ会長に取り組みをお願いしている。	昨年と活動内容は同じ。老人クラブ設立時の趣旨は老人が主体的に集まり自主的に活動することであった。長岡市は人口の１/３を65歳以上の高齢者が占めるにも関わらず老人クラブへの参加は７%程度である。地域の高齢者の「孤独・孤立」は増えており、老人クラブはその目的を再考し、「互助」の精神による高齢者の見守りのネットワークとして地域と一体となって活動する方向を探る。	長岡市わくわく連合会
37	ユニバーサルスポーツ推進事業	わくわく連合会10支部の交流を図る目的でユニバーサルスポーツの輪投げ大会を支部対抗で実施している 長岡支部は２月にスポーツ大会を実施することで、冬期間寒いので自宅に籠り、孤立しがちな高齢者の社会との繋がり、こころの健康を保つ。	支部対抗輪投げ大会は11月７日 市民体育館で10支部が参加。 ユニバーサルスポーツ大会は令和８年２月17日市民体育館でペタンク・スカットボール・輪投げを予定。	支部対抗輪投げ大会は11月７日10支部から予選会を経て選ばれた150名の選手と役員33名の参加。今年度優勝は与板支部。昨年度は川口支部 長岡支部のユニバーサル大会は令和８年２月17日選手・役員含め約180人参加。真冬の大会としては盛況だった。各地区で冬季にもかかわらず定期的に大会に備え練習していた。	ユニバーサルスポーツを通じて人との会話が生まれ、「認知症予防」「孤独・孤立の防止」につながっており良かった。参加した人は皆生き生きして笑顔だ。どの競技も参加すれば初心者でも楽しめるのだが、参加しない人、参加しない単位クラブをどうすれば参加するようなるかが課題である。	支部対抗輪投げ大会は11月20日実施予定。ユニバーサルスポーツ大会は令和９年２月26日実施予定。 支部対抗輪投げ大会は、マンネリ化しないよう内容を工夫したい.ユニバーサルスポーツ大会は冬季により多くの会員が参加できるよう工夫したい。	長岡市わくわく連合会
38	パラスポーツ体験会	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的に、障害の有無に関わらず楽しめるパラスポーツの体験会を開催する。 【内容】 ボッチャ体験会 【対象者】 制限なし 【実施回数】 ３回	心身障害児・者の身体機能の維持・向上や社会参加を図るため、パラスポーツの体験会及びボッチャの体験会を開催。	公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託。年２回実施した。	年齢や障害の有無にかかわらず参加できるスポーツとして、多様な参加者が一緒に楽しみながら交流を図ることができた。	R8年度も公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託。年２回実施する。	福祉課
39	こころの健康づくり講演会	ストレス、うつ病に関する正しい知識の普及啓発を図るために講演会を開催する。	こころの健康づくり講演会	11月11日（火）開催 ※自殺対策連携会議と合同開催 講演会テーマ「自死で家族を亡くした経験から伝えたいこと」 シンポジウムテーマ「こころのSOSを見つける～働く人のメンタルヘルス～」 参加者：200人（市民129人・会議出席者71人）	男性の職域層の自殺が多い背景から、職域層を重点とした、いのち支える長岡市自殺対策連携会議と合同開催とした。 参加者より、自死遺族の講演は多くの参加者に響く内容であり、今後も自殺予防の大切さを伝えてほしいとの声があった。こころの健康に関する正しい知識の普及啓発、こころの不調や自殺への理解促進を図るため、今後も市民に対し広く啓発する。	事業継続 R7年度に引き続き、職域層をターゲットとした内容とする。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
40	こころの健康相談会	こころの悩みやアルコール問題を抱えた人、自死などの遺族を対象に相談会を開催する。＊臨床心理士、精神保健福祉士の専門相談会	こころの相談会 アルコール相談会 こころのとまり木相談会	こころの相談会 実施回数　17回　利用者数　22人 こころのとまり木相談会 実施回数　12回　利用者数　21人 アルコール相談会 実施回数　３回　利用者数　７人	相談会のみで終わらず、地区担当保健師や関係機関へつなぐなど、関係が切れないような支援を行うことができた。 働いている方でも参加しやすいよう、土曜・平日夜間の開催を継続して行っていく。	こころの相談会 実施予定　32回（土曜３回・夜間３回） こころのとまり木相談会 実施予定　12回（土曜３回・夜間３回） アルコール相談会 実施予定　６回	健康増進課
41	精神保健福祉相談	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 　困難事例等の相談に精神科医師が対応 ２随時相談 　精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 　困難事例等の相談に精神科医が対応 ２随時相談 　精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	１定例相談会 　実績/計画　３回６件/３回 ２随時相談 　来所または電話による相談に随時対応した。 ３こころの相談ダイヤル 　平日昼間316件 ４訪問指導 　市町及び病院等関係機関と連携しながら実施。	市町及び病院等関係機関と連携しながら、当事者や家族の相談に応じ支援した。今後も継続する。	１定例相談会 　年３回 ２随時相談 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	長岡地域振興局健康福祉環境部
68	あなたの健康相談	【目的】 　市民の生活習慣の改善等の健康に関する相談に応じ、保健指導を実施することで、個人・家族の健康増進を図る。 【内容】 　個別に心身の健康及び栄養や食事に関する相談に応じ、必要な指導助言を行う。 【対象者】 　一般市民 【実施期間】 　通年	あなたの健康相談会	令和7年度実績 ・実施回数：105回 ・相談延人数：475人 ・39歳以下：202人 ・40-64歳：42人 ・65歳以上：231人 ・75歳以上(再掲)：125人	・健康に関する助言・指導を行うことで、参会者の健康に関する悩みや不安の軽減、健康意識の向上につながった。 ・高齢者の参加者数が増加していることから、生活習慣病に加えてフレイル予防等、高齢者の特性に合わせた助言・指導を行っていく。	・健診日程により参加者に偏りがあるため、健診結果通知後など、参加者が増えると見込まれる月の相談会日数や定員について検討が必要。 ・市民に広く周知し参加につなげるため、今後も広報媒体等を活用し、継続的な周知に取り組む。	健康増進課
76	家庭教育活動事業	子どもたちが、いきいきと力強く育つよう、社会や家族の変化、価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く状況を知り、それらに対応する家庭教育のあり方を学ぶ学習の機会を提供し、家庭の教育力を高めることを目的に、「親も育つ子育てセミナー」を開催する。	左記のとおり	①講演会（２回） 　参加者数　210人 ②ＷＥＢ配信（２回） 　視聴総数　321回	家庭教育の教育力向上や家庭教育支援に取り組めた。	R7と同様	子ども政策課
77	ブックスタート	・赤ちゃんと周りのみんなが絵本を通して楽しい時間を分かちあうことを応援する事業 ・平成15年から開始 ・５～７か月の赤ちゃん相談の際に同時実施 ・読み聞かせボランティア及び図書館司書が読み聞かせの実演を行い絵本１冊とアドバイス集を手渡し、「地域みんなで子育てを応援していますよ」などのメッセージを伝える ・赤ちゃんと絵本の楽しさを分かち合うことの大切さや喜びを伝えるとともに、ブックスタートをきっかけに父親が積極的に子育てに関わる環境づくりを進めることも狙いとしている ・平成30年より、まちなか絵本館で月２回（原則第２土曜日・第３日曜日）実施	５～７か月赤ちゃん相談の際に実施し、ボランティアや図書館司書による読み聞かせを行う。赤ちゃんの反応を見ながら、絵本を１冊選んでもらいプレゼントする。	対象者数：1,254名 実施者数：1,184名	対象者のほとんどに絵本を配布することはできた。父親が相談に来所する場合も年々増加しており、父親への働きかけにもなっている。	今年度も同様に実施する。	こども家庭センター
78	長岡市ファミリー・サポート・センター会員養成講習会	ファミリー・サポート・センターの新規会員の確保と資質向上を図るため、会員養成講習会を開催する。 内容 ・センター事業のあらまし ・心の発達とその課題 ・保育の心 ・子どもの身体の発育と病気 ・子どもの栄養と食生活 ・子どもの事故と防止策 ・乳幼児の生活へのケアと援助 ※ファミリーサポートセンター・・・ 家庭や働く親の育児負担の軽減と仕事との両立を支援するため、専任の職員を配置し、相互援助活動(会員の紹介)及び会員相互の交流会等の事業を行う。	左記のとおり	○７講座を１シリーズとして年３回開催　参加者数：延べ46人 ○会員入会状況：合計　1,259人 　（提供会員：290人、依頼会員：924人、両方会員：45人） 　市内の看護学校講師や栄養士、保育士、臨床心理士などに講師を依頼し、提供会員としての資質向上を図っている。支所地域への事業周知・活動展開と新規会員確保が課題であるため、引き続き事業の周知に努めていく。	提供会員の資質向上を図り、会員養成講習会を実施した。今後も新規会員の確保に努め、周知力向上を図る。	R7と同様	子ども政策課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
79	子育ての駅運営事業	雨や雪の日でも遊べる屋根付き広場と子育て支援機能が一緒になった「子育ての駅」では、子育て世代はもちろん、子育ての先輩や次代の親となる若者などが集い、世代を越えた交流や子育て支援の輪を広げる場として、子育て支援関係団体等と協働・連携しながら事業運営を行う。 平成21年５月に「子育ての駅千秋（てくてく）」を開設するとともに、平成22年４月には「子育ての駅ながおか市民防災センター（ぐんぐん）」を開設。同年８月には「ちびっこ広場」が新たに絵本機能を有した施設として移転オープン。その後、平成24年７月には「子育ての駅とちお（すくすく）」を開設した。 また、平成27年度に、長岡市全支所地域に子育ての駅の整備を進め、平成27年12月に子育ての駅みしま、平成28年１月に子育ての駅なかのしま、こしじ、やまこし、おぐに、てらどまりを開設した。平成28年４月に子育ての駅わしま、よいた、かわぐちを開設。 各施設ともに立地条件や周辺環境を生かしながら特色ある事業展開を行っている。	各子育ての駅で年間事業計画により、子育て講座や各種イベント、子育て相談会などを実施する。	P32　別表１参照	子育てしやすい環境づくりとして、子育て支援の輪が広がるように多世代が交流する場を提供するとともに、いつでも気軽に相談できるような運営を行った。	R7と同様	子ども政策課
80	保育付き事業の実施	各種講習会及び諸会議の開催に際して、子育て中の保護者でも参加できるよう、関係機関・団体等に対し保育付き事業の実施を促す。	左記のとおり	・庁内各課または関係機関・団体の判断で保育付会議及び事業（講演会等）に取り組んでいる。 ・講座や会議に保育をつけることで、子どもと離れることにより集中することができる。また、保護者のストレス解消にもつながっている。 ・今後も長岡市こども計画の推進にあわせて、関係機関・団体等に対し保育付事業の実施を促す。 <ファミリー・サポート・センター> 〇保育付き講習会の開催回数 延べ７回 〇お預かりした子どもの人数 延べ30人 <子育ての駅ちびっこ広場> 〇保育付き講座の開催回数 延べ１回 〇お預かりした子どもの人数 延べ８人	保育付きの各種講習会や会議を実施し、子育て中の保護者が参加しやすい環境整備を行った。	R7と同様	子ども政策課
81	パパママサークル	妊婦とパートナーを対象に、父親と母親で子どもを産み育てようという意識を育て、父親の積極的な育児参加を促すために、沐浴の体験を実施する。妊娠中の不安やストレスを軽減し、困った時に相談できるように情報提供をする。令和４年より、体験型講座の回数を増やして実施している。	赤ちゃんのお世話の仕方、お風呂の入れ方を助産師・保健師が指導し、体験してもらう。父親の妊婦疑似体験の実施。保健師から産後についての情報提供。	実施回数：18回 参加者：606人（妊婦 303人、夫300人、その他３人）	参加者からは育児のイメージができたという声が多く聞かれた。しかし参加していない妊婦もいるため、そのような妊婦に対する情報提供も検討していく必要がある。	今年度も同様に実施する。	こども家庭センター
82	延長保育、一時保育、休日保育、病児・病後児保育	子育てと仕事・家庭の両立を支援するために、一時的に子供を受け入れる。	多様化する保育ニーズに対応するため、通常保育とは別に保育サービスを行う。	延長保育事業は、公立保育園29か所・私立保育園等64か所で実施し、うち補助対象施設59か所で延べ56,077人が利用した。 一時保育は、市内23か所で実施し、延べ3,001人が利用した。 休日保育は、市内4か所で実施し、延べ374人が利用した。 病児・病後児保育事業は、市内８か所で実施し、延べ829人が利用した。	概ね例年どおり事業を実施することができた。延長保育など、多様な保育サービスを計画どおり実施し、利用者ニーズに応じた受け入れ体制を確保することができた。 病児・病後児保育事業については、継続的な運営が課題である。	子育てと就労の両立、多様化する就労形態及びニーズに対応するため、継続して受入れ体制を整えられるよう、施設に対して働きかける。	保育課
83	保育園地域子育て支援センター	就労形態の多様化や核家族化により、子育てに対する負担や悩みを抱えている人が少なくないことから、子育てに悩んでいる人や交流する機会を望んでいる人に保育園を開放し、相談指導、子育てに関する情報、各種講習を提供していく。 また、地域全体で子育て親子の育ちを支援するため、関係機関や子育て支援活動を実施する団体等と連携の構築を図る。	保育士が育児相談や育児情報の提供を行うことで子育て中の孤独感を解消する。	公立保育園３か所・私立保育園等20か所で実施し、延べ36,862人が利用した。	市内全体の利用者及び相談件数は前年度と比較して同水準を保ち、子育て中の親子が気軽に集う場を提供し、きめ細やかな子育て相談や援助、情報の提供を行うことができた。一方で、利用者が極端に少ない施設があり、周知強化が課題である。	利用希望者や支援を必要とする人の利用に繋がるよう継続して積極的な周知を行うとともに、充実した講習・相談体制の構築を図る。	保育課
84	ゲートキーパー研修	悩みを抱え自殺を考えている人に気づき、声をかけ、必要な支援や相談につなぎ、見守る役割を担うゲートキーパーを養成するもの。市民・関係者・支援者の各対象に応じた研修を実施する。	ゲートキーパー研修	市民向け(民生委員、学びコーディネーター、職域）７回 関係者向け(コミセン主事等)３回 支援者向け(講師：ルーテル学院大学）１回	職域層で行う市民向けの研修会の開催が少ない。こころの講座や自殺対策は敬遠されることも多いので、関係者等から理解を得ていくことや、少しずつでも、市民に理解してもらえるよう、今後も普及啓発が必要。	新採用職員、窓口対応職員や教職員を対象に引き続き基本研修を実施する。その他に、職域層を対象に、企業等でのゲートキーパー研修の実施を強化する。 また、支援者への研修会も実施する。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
85	窓口・電話による健康相談	【目的】 健康の保持増進を図るため、市民のこころや身体に関する悩みや不安に対して、保健師及び看護師、管理栄養士等が健康相談に応じる。 【対象者】 市民 【実施期間】 通年	(1) 窓口相談 (2) 電話相談 (3) AI相談パートナー 令和５年度から、AI相談パートナーを活用し（音声のテキスト化・ガイダンスによるサポート）、相談対応の平準化及び質の向上、事務処理の効率化を図っている。	(1)(2)健康相談来庁電話 1,587人 (3)AI相談パートナーを使用した相談者数 183人	市民の相談にタイムリーに対応し、悩みや不安を軽減することができた。	・AI相談パートナーの活用を推進し、電話相談における相談内容の要約や記録作成による事務の効率化、より質の高い相談対応を目指す。 ・引き続き市民の相談に応じ、個人・家族の不安や悩みの軽減を図る。	健康増進課
86	健康づくりの周知	市政だより等で長岡市が実施している各種健（検）診、各講座、健康相談会等を市民に周知する。	こころの相談会、各講座、健康相談会等、気軽に参加や相談できる場の周知を行う。	・市政だよりやチラシ、公式LINE、健康アプリなどを活用し、健康講座、健康相談会の周知や、健康づくりについての情報を発信。 ・健診受診者に対し、健診結果通知に健康相談会の案内を同封。	・市政だよりや各講座やイベントのチラシを見ての申込みが多い。特に市政だよりは全戸配布であることに加え、健康意識の有無に関わらず自然と情報に触れやすい媒体であることから、周知に有効だったと考えられる。	引き続き、さまざまな媒体を活用した情報発信を行うことで、誰もが気軽に参加・相談できる環境づくりに努めていく。	健康増進課
87	総合相談援助事業	日常生活上生ずる心配ごとや福祉に関する幅広い相談に適切な助言を行い、他の専門機関と連携して総合相談援助活動を実施する。	生活の不安や精神的な負担軽減につながるような相談支援を行う。	相談所開設日数 242日 相談者数 466件	直接の問題解決に至らなくても、相談者が抱えている課題を一緒に整理し、相談者に寄り添う支援ができた。	引き続き、相談者が不安や悩みを安心して語れる場を提供し、心の負担やストレスの軽減を図る。	長岡市社会福祉協議会
88	社会福祉協力校指定事業	市内小・中学校、特別支援学校、高等学校及び高等専門学校を対象に福祉教育の充実を図るため、助成金を交付する。 福祉協力校だより、活動実践集録を発行する。 会議、研修会を実施する。	福祉についての学び、人や地域とのつながりの大切さを学ぶ機会とする。	市内98校を社会福祉協力校として指定し、各校が取り組む福祉活動の支援を行った。	・学校現場の実践状況や課題を把握し、関係機関と情報共有を行ったことで、今後の福祉教育の方向性を検討する基盤が整備された。 ・事業の財源となる赤い羽根共同募金実績の低迷により、助成金交付基準の見直しを検討予定。	・引き続き、指定事業を実施し各校の福祉活動の推進を図る。 ・助成金交付にあたっては活動内容に応じた助成基準の見直しを進め、実情に即した支援体制の整備に努める。 ・壁新聞や実践収録集については紙媒体以外のツールも活用し、市民への広報・啓発を行うとともに、作製方法の見直しと経費削減に取り組む。	長岡市社会福祉協議会
89	子育て支援地区活動	母子保健推進員が中心となって、妊婦や赤ちゃん、母親（父親や家族を含む）の交流の場づくりなどを、地区の状況に応じて企画・実施。	親子ふれあい体操やおやつ作り等の内容を通して、親子が交流できる場を母子保健推進員が企画・実施している。	実施回数：147回 参加者：1,152人	参加者同士の交流や情報交換の場になっている。一方、少子化により活動の継続が難しい地域もあり、開催方法等の検討が必要。	今年度も同様に実施する。	母子保健推進員協議会（こども家庭センター）
90	PTA 活動	児童生徒の健全な成長を図ることを目的とし、親と教師が協力して、学校及び家庭における教育に関し理解を深め、その教育の振興に努め、児童生徒の校外における生活の指導、地域における教育環境の充実の改善、充実を図るため、会員相互の学習その他必要な活動を行っている。	左記のとおり	市Ｐ連だよりの発行 市Ｐ連ルールの啓発活動 加盟校 小学校52校、中学校27校 小中合同２校 計81校	市Ｐ連ルール（スマートデバイスルールの使い方）について、意識啓発を図った。	R7と同様	長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会（子ども政策課）
91	子どもの虐待防止ネット・にいがた学習会・講座	しつけの方法を学んだり、親同士が話し合い自分にあった子育て方法を学んでいくことを支援する。	子どもへの具体的な声掛等を学べる子どもとの上手なコミュニケーション講座やNPプログラムを実施している。	実施回数：24回 参加者延べ：262人	引き続き講座のターゲット層への周知が必要である。	今年度同様に実施予定。	こども家庭センター
92	無料育児相談	毎月第３木曜日に助産師を子育ての駅「てくてく」に派遣し、来所している方の相談に対応する	来所された方たちの育児全般に関する相談を聞き、不安の解消の一助にする。相談者の子どもの月齢や年齢は様々なため、相談内容には、母乳のこと、離乳食、家族のことなど多岐にわたっている	９月12月除いた10回実施 参加者60組	無料育児相談の実施日に合わせて来所してくれる方もいられるので、開催している意義があると評価できる	要望が高いので今後も続行する。 ままのまカフェへの助産師派遣事業とダブらない範囲で、年９回程度実施予定	長岡助産師会
93	相談事業	市民活動団体の立ち上げ相談 市民団体の法人化の相談 各団体の運営相談 ボランティア活動に関する相談	市民活動関連講座の開催 専門家の派遣 資金調達の相談 市民活動に関する情報誌の発行	○一般向け講座 参加者75名 ○組織運営講座（３回） 参加者計124名 ○出前相談（専門家派遣） ４件 ○情報誌「らこって」毎月発行 ○市民活動を紹介するラジオ番組「つながるラジオ（FMながおか）」放送 48回 ○Facebook,X,Instagramでの情報発信 ○相談件数 817件	【評価：社会的つながりと受け皿の拡充】 ○デリケートな課題（不登校親の会、LGBTQ、がん患者会など）を抱える市民の受け皿となる団体の立ち上げや運営を伴走支援し、孤立防止とこころの健康維持に寄与した。 ○登録団体数が増加し、市民が主体的に社会参加できるインフラが強化された。 ○相談窓口を起点に学生ボランティアと団体をつなぎ、地域活動へ若い力を注入した。 【課題：担い手不足、情報格差】 ○福祉・傾聴系ボランティア等の高齢化と事業継承が深刻化しており、若者とのマッチングをさらに仕組み化する必要がある。 ○情報誌「らこって」紙版廃止に伴い、高齢層などが情報から取り残されないようなアナログでの情報補完が課題。	○講座の開催 ○専門家派遣 ○WEBサイト、SNS、FMラジオでの情報発信 ○市民活動に関する相談対応 ○映像やテキストなどWEBコンテンツの制作・発信 ○LINE公式（情報発信、チャット相談窓口）の運用	市民協働センター

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
94	ままのまカフェへの助産師派遣事業	長岡市で実施している双子のままのまカフェ（子育ての駅「ぐんぐん」）に助産師を派遣し、来所している方の相談に対応する	双子の子どもの親たちの育児の相談に乗る。母子保健推進員の方たちと一緒に子守や見守りをすることもある	双子のままのまカフェ開催日　年４回実施　参加者14組	双子の会に助産師が相談員として加わることで専門的なアドバイスが実施できる。	４回/年長岡市で実施している双子のままのまカフェに助産師派遣	長岡助産師会
95	ウィルながおか相談事業	・一般相談 月曜日から土曜日（ウィルながおか開館時間）　相談員３名 ・出前相談 旧長岡市地域、各支所地域に出向き、相談を受け付ける。相談員１名（NPO法人に委託） ・専門相談 仕事・職場の悩み相談　月２回　相談員１名	「事業概要」に同じ。	１　ウィルながおか相談室 相談件数：（R7）1,197件 30代、40代、50代の女性が多く、全体の半数近くを占めている。内容は夫婦・家族関係が38%を占めている。また、配偶者暴力相談支援センター等に寄せられたＤＶ相談は801件と前年度から14件減少した。 ２　ウィルながおか出前相談室 令和７年度相談件数：36件	ウィルながおか相談室を土曜日も含めて継続的に開設するとともに、支所地域への出前講座を実施し、安心して相談しやすい体制の整備と維持を図ることができた。また、相談内容の多様化・複雑化に対応するため、関係機関と連携し、相談体制の充実に取り組んだ。さらに、夫婦間や家族間の悩みなど相談につながりにくいケースについても、相談者に寄り添ったきめ細かな対応を行い、継続的な支援につなげることができたため。	・一般相談 月曜日から土曜日、※12月以降は第１、第３土曜日のみ開設　相談員３名 ・出前相談 旧長岡市地域、各支所地域に出向き、相談を受け付ける。相談員１名（NPO法人に委託） ・専門相談 仕事・職場の悩み相談 月１回　相談員１名	人権・男女共同参画課（男女平等推進センター）
96	生涯学習推進・相談事業	長岡市人材登録バンク「まちの先生」により、学んだことを生かす環境づくりを行う。 市民の生涯学習活動の推進をめざして、団体・サークル情報を広く募集し、紹介している。 市民への生涯学習の情報提供及び相談については、中央公民館、まちなかキャンパス長岡及び社会教育関係施設において行う。	市民が、生涯を通じて参加し学び続けることのできる場を提供する。	登録件数は以下のとおり。 ・まちの先生：142人・団体（令和８年６月１日時点） ・生涯学習ガイドブック：602団体（令和８年６月１日時点） 市民に対してホームページにより情報提供を行った。 「まちの先生」が提供する学びを体験できるイベントを開催。10種類の体験ブースを設置、延べ250人の参加があった。	・壮年期において、余暇を有効に生かすことや、趣味の世界を広げることは、ストレスの解消において有効であったと考えられる。 ・今後、「まちの先生」「生涯学習ガイドブック」の認知度を高めるため、一層の周知を図っていきたい。	・中央公民館で活動している団体の活動を体験できる「体験月間」を開催（※実施済。26団体が参加） ・継続して、ホームページに登録団体を掲載し、市民に周知を図る。	文化振興課
97	民生委員活動	民生委員・児童委員は、関係町内会等からの推薦のもと、市推薦会、県を通じて厚生労働大臣から委嘱され、民生委員法その他の関係法令により、地区民生委員児童委員協議会（民生委員法により一定の区域ごとに組織する）を母体にその職務に当たっている。特に地域社会から孤立しがちな高齢者に対しては、民生委員という存在のPRや相談できる場の確保が重要となっている。各地区とも、高齢者が明るく前向きに暮らしていけるよう、地域コミュニティ組織等とも連携のうえ様々な取り組みを行っているが、地区間同士の連携も含め、拡充に向けて必要な支援を行う。	・各地区の民生委員児童委員協議会と地区福祉会、地域包括支援センター等は密接に連携して見回り活動等の地域福祉活動に取り組んでいる。 ・避難行動要支援者名簿の郵送調査のための高齢者世帯の訪問活動や要援護世帯除雪費助成事業の申請受理等の活動により担当地域の支援を必要とする世帯の状況把握を行っている。 ・全国的な取り組みにあわせ、各地区民生委員児童委員協議会ごとにチラシやPRカードを活用しながら、地域住民に対して活動のPRを行い、相談しやすい関係作りに努めている。	民生委員の相談支援活動件数（令和７年度） 計14,208件 （内訳） 高齢者に関する相談支援 7,640件 障害者に関する相談支援 690件 子どもに関する相談支援 2,850件 その他 3,028件	地域における民生委員活動においては町内会等の地域関係者の理解と協力が重要となる。その中で地域コミュニティについては民生委員活動に対する住民意識にばらつきがあることから、地域一体となった福祉活動を実施するために今後も地域内外における連携を深めていく必要がある。	民生委員が円滑に活動できるように地区内外における情報共有・連携を促進する。 また、各委員が福祉のつなぎ役としての重要性を認識し、制度理解を深められるようサポートし、「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会づくり」の実現を目指す。	福祉総務課
98	ニート等の若者の就労支援事業	働くことや、社会活動に参加すること、人とのコミュニケーションが苦手などの若者に対して、相談や職業訓練などを行うことにより、最終的には就労へ結びつけることを目的に支援事業を実施する。	相談対応のほか、就職に向けた就活セミナーやビジネスマナー、ジョブトレーニング等の各種プログラムの実施や、軽スポーツ、コミュニケーショントレーニングなど、体力増進や対人面の不安を取り除くプログラムを実施。	相談延べ数は2,992件、プログラム参加者数は延べ1,705人、ジョブトレーニング参加者数は延べ198人。就職者等数150人。	・新規登録者数および就職者数はいずれもやや減少したため、短時間で実施可能な支援を検討し、参加しやすい機会を増やしたい。 ・短期間、短時間のアルバイト就労は大幅に増加している一方で、雇用保険の対象となる就労は減少した。 ・R7年度のプログラム参加者数が大幅に減少したため、プログラム検討委員会を中心に内容の見直しを行う。	未定	人材・働き方政策課
99	教育支援教室・支援スペース	不登校の状態にある児童生徒の将来的な社会的自立に向けて、また家庭以外の居場所として安心して過ごせる居場所を提供し、相談者のニーズに応じた相談支援を行う。	教育支援教室フレンドリールーム４教室（今朝白、小国、寺泊、栃尾）、自立支援スペースほっとルームの運営	【教育支援教室】 延べ利用人数 2,213人 【支援スペース】 延べ利用人数 2,394人	不登校児童生徒の相談について、相談窓口を一本化したことで、児童生徒の状態に応じて場につなぎ、ニーズに応じた相談支援を行うことができた。	継続実施	学校教育課
100	教育相談・訪問相談	子ども・青少年相談センター相談員、子どもサポートカウンセラーが、子ども、保護者、教職員を対象に教育相談・カウンセリングを行う。また、家庭に引きこもりがち、教育支援教室に通級することができない児童生徒を対象に訪問支援員が訪問支援を行う。	教育相談：面接・オンライン、電話・メールによる相談、カウンセリング 訪問支援：家庭、学校や近隣の公共施設を利用した相談支援	面接相談 4,095回 電話相談 1,783回 家庭・訪問相談　797回	相談者の悩みや不安に寄り添い、一緒に解決の方向を考える相談活動を行うことができた。	継続実施	学校教育課
101	子ども・青少年相談活動（子ども・青少年相談センター）	不登校、ひきこもり、行動や学習、発達面の問題、就学・就労など、小学生から20歳未満の子ども・青少年に関する悩みごとの相談に応じる。必要に応じて、学校、他機関と連携を図り、子ども・青少年の自立に向けた支援を行う。	面接・オンライン、電話・メールによる相談、カウンセリング 学校訪問支援および関係機関との支援会議	新規受理件数 217件 相談件数　552件 終結件数　208件 家庭・学校等訪問支援 797回	寄せられる相談は年々増加し、相談者の抱える課題や背景が複雑化・深刻化している。受理した相談のうち208件（38%）が主訴の解消、改善、又は他機関へ移管をし終結した。	継続実施	学校教育課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
102	児童虐待防止ネットワークの構築 （要保護児童対策地域協議会）	虐待や虐待のおそれがある児童に迅速な支援を行うため、地域での子育てに関係する様々な機関による支援体制を整備する。	定期的な連絡会議等により、適切な保護・支援のための情報共有や支援内容に関する協議を行う。	（１）構成機関との連絡会議 ・代表者会議　１回（令和７年８月） ・実務者会議　６回（令和７年５月～８年３月） ・個別ケース検討会議 34回（令和７年４月～令和８年３月） （２）構成機関の研修会 ・課題検討会　１回（令和８年２月） （３）地域の機関への啓発・協力依頼 オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン（11月）において関係機関へポスター・リーフレットの掲出依頼	児童虐待など要保護児童及びその保護者や要支援児童の適切な保護を図るために必要な情報を共有し、関係機関との連携により必要な支援を行うことができた。	今年度も同様に実施予定	こども家庭センター
103	サマーキャンプ	「子ども会等リーダー養成・地域活動推進事業」の中の「小学生リーダー養成事業」のひとつとして、サマーキャンプを実施する。子ども会など地域での活躍が期待される子どもたちのリーダーを養成する。（対象：小学５～６年生）	左記のとおり	サマーキャンプには、83名が参加。 サマーキャンプ再会のつどい（全２回）には、計82名が参加。	地域間交流を通じて、小学生のリーダーを養成した。	R7と同様	子ども政策課
104	母子保健推進員の家庭訪問	生後４か月の赤ちゃんのいるご家庭に母子保健推進員が訪問し、地域の支援情報や子育てに関する資料を届けている。	母子保健推進員が訪問し、保護者の話を聞いて保健師へ繋ぐ等の、市民と行政とのパイプ役を担っている。	訪問件数：1,223件	訪問することで子育て支援の情報を伝えたり、家庭の様子を聞くことができている。	今年度も同様に実施する。	こども家庭センター
105	子育てガイドの配布	妊娠から主に小学生までに関する制度、事業、相談窓口等をまとめ、子育てに関する情報提供のための総合的なガイドブックを作成・配布している。	主に母子健康手帳交付時に配布し、妊娠期から小学生までの子育てに関する制度や事業、相談窓口等を紹介している。 また、子育て世代が多く集まる子育ての駅や保育施設等にも設置し、配布している。	母子手帳交付時に全妊婦へ配布しており、面談にて制度や事業、相談窓口等を紹介している。	母子手帳交付時に妊婦へ配布できており、面談にて制度や事業、相談窓口等を紹介することができている。	R7年度同様に実施予定	こども家庭センター
106	幼稚園子育て支援事業	長岡市立幼稚園、認定こども園で実施 １、ファミリーデーを設け集団における子どもの活動を見たり育児についての講演を聞き交流を深める。 2、園の行事に参加し親睦や交流を深めている	交流を深めることでお互いに楽しく関わることができる。	園の行事への参加を呼びかけ、保育参観・保育参加など楽しく気軽に一緒に参加していただけるようにした。	安全に安心して様々な活動、行事等が実施できたので今後も取り組んでいきたい。	今後も家庭や園などでたくさんの人たちと繋がりが深まっていくように計画、工夫をしていきたい。	長岡市私立幼稚園・認定こども園協会
107	高年齢者就業機会確保事業	・高年齢者の就業に関する情報の収集及び提供 ・高年齢者の就業に関する調査研究 ・高年齢者の就業に関する相談 ・臨時的かつ短期的な就業（雇用を除く）又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保及び提供 ・臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用による）の職業紹介又は労働者派遣事業 就業に必要な知識・技能の付与を目的とした講習会の実施 ・高年齢者の能力を活用し、多様な就業及び社会参加活動を行う機会を確保するために必要な事業 ・高齢者世帯や要援護世帯及び子育て世代に対する生活支援事業 ・市民を対象とした講習会及び地域の伝統工芸継承に関する教室の開催 ・関係団体と連携し、説明会の実施や相談窓口の設置	・高年齢者の就業に関する相談 ・就業に必要な知識・技能の付与を目的とした講習会の実施 ・高年齢者の能力を活用し、多様な就業及び社会参加活動を行う機会を確保するために必要な事業	会員数　2,828人 入会者数　324人 就業率　79.6% 講習会　30回　306人参加	・人手不足や雇用延長、会員ニーズと就業依頼ニーズがミスマッチの状況が続いており、会員数の減少となった。そのため会員数の増加のため広く市民に周知されるように、HP（ホームページ）等のメディアの活用、新聞折り込みなど工夫する。 ・イベント等への積極的な参加やボランティア活動で会員の社会参加意識の向上を図る。また、ハローワークと連携した就職・就業相談会の出張開催により、地域の働きたい高年齢者のフォローに取り組んでいる。 ・高年齢者が元気で住み良い環境づくりとして、センター活動に触れることで、健康、生きがい、仲間づくりといった充実したライフスタイル（フレイル予防を含めた）を送れるように取り組んでいく。	・初年度会費無料キャンペーンを実施。 ・人手不足やニーズをとらえるため就業開拓員による仕事の開拓を行っている。 ・健康講座の実施 ・高齢者向けの地域貢献・社会参加のための新しい事業を計画、実施。交流の場の提供や従来通りの仕事が難しくなった方への就業機会を創出する事業。	（公社）長岡市シルバー人材センター

別表１

施設名	来場者（人）	相談活動（回）	講座開催（回）	行事開催（回）
子育ての駅ちびっこ広場	32,811	20	22	282
子育ての駅千秋「てくてく」	98,569	35	28	148
子育ての駅ながおか市民防災センター「ぐんぐん」	39,956	8	8	571
子育ての駅なかのしま「なかのんひろば」	2,143	0	13	52
子育ての駅こしじ「のびのび」	2,311	0	22	82
子育ての駅みしま「もりもり」	2,930	0	14	104
子育ての駅やまこし「やまっこ」	391	1	4	13
子育ての駅おぐに「たんぽぽ」	782	6	9	27
子育ての駅わしま「わくわく」	1,434	5	12	64
子育ての駅てらどまり「にこにこ」	1,156	0	10	65
子育ての駅とちお「すくすく」	4,306	23	16	18
子育ての駅よいた「にじの子広場」	1,831	21	3	47
子育ての駅かわぐち「すこやか」	1,352	0	0	62

(2) 誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備

【目標・指標】

目標	指標	策定時（R4実績）	実績値（R6）	実績値（R7）	前年度比較	市目標値（R14）	担当部署
健康づくりに取り組む市民の増加	地域コミュニティ健康づくり事業　実施回数	227回	147回	218回	改善	↑	健康増進課
	地域コミュニティ健康づくり事業　参加者延人数	5,312人	2,673人	2,861人	改善	↑	
多世代健康づくりの推進	若者・企業への健康づくり講座実施回数	8回	16回	16回	変化なし	↑	健康増進課
	若者・企業への健康づくり講座参加延人数	352人	387人	657人	改善	↑	
	食育推進料理教室　受講者数	769人	766人	622人	悪化	↑	
	通学路歩道消雪パイプ設置校	29校	30校	31校	改善	↑	道路管理課
	ノンステップバス導入数	75%	86.9%	94.1%	改善	↑	交通政策室（都市政策課）
	歩道除雪実施延長	225.2km	225.7km	225.9km	改善	↑	道路管理課
	通学路歩道等消雪整備実施校数	29校	30校	31校	改善	↑	
DX社会推進	長岡市LINE登録者数	82,891人	92,557人	96,148人	改善	↑	広報・魅力発信課
	特定保健指導オンライン指導数	令和5年度から開始	9人	13人	改善	↑	健康増進課
	AI相談者数（電話・訪問）	令和5年度から開始	323人	183人	悪化	↑	
	健康アプリの登録者数	令和6年度から開始	1,824人	2,569人	改善	↑	

【関連事業の取組】

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
1	地域コミュニティ健康づくり事業	【目的】 地区担当保健師が地区の実情を把握し、健康課題に即した健康づくりを展開し、住民主体の健康づくりを支援する。 【内容】 保健師の地区担当制の推進により、高齢者の地域包括支援センターの圏域に地区担当保健師を配置し、コミュニティセンター単位で事業を実施。 ・地域保健活動研修会 ・地域健康づくり講座 ・コミセンと各地区の健康課題の共有・対策の検討（地域健康カルテを活用） 【対象者】 地区住民 【実施期間】 通年	【地域健康づくり講座】 ・地区担当保健師がコミュニティセンター担当者とともに、地区のニーズに応じた健康教育を立案・実施。 ・各地区の健康課題に合わせた内容で、医師、栄養士、歯科衛生士、運動指導員、保健師等による講座を実施。 【地域健康カルテの作成】 ・コミュニティセンター・支所地域単位の地域健康カルテを作成し、健康課題の分析を行い、健康課題に即した健康づくりを展開する。	【地域健康づくり講座】 実施回数：218回 参加延人数：2,861人	・地域健康カルテを活用し、地区の健康課題について、コミュニティセンター職員と共有し、地域の実情に合わせた講座を実施できた。住民にとって身近な地域での健康講座の開催を通して、健康に関心をもつきっかけづくりや、生活習慣の見直しにつなげることができた。年代や性別、ニーズを考慮し、仲間意識を高められるよう支援することで、定期的なサークル活動につなげられた地区もある。 ・地域健康づくり講座の件数について、令和７年度から、地域事務所で実施している健康相談等（まちの保健室）の実施も計上したため、開催回数と延べ参加人数が増加した。 ・地区での健康講座について、参加者のリピーター率が高く、健康づくりに関心の高い人と低い人に差があると考えられる。	・今後も各地区の健康課題に合わせた内容で実施できるように、地域健康カルテを活用しながら、住民やコミュニティセンター担当者と協力して講座を実施する。 ・今後も対象者の年代や性別に応じて、講座の内容や周知の方法を工夫しながら実施し、参加者を増やしていく。 ・地域の健康課題に即した健康づくりが推進できるよう、引き続き地域健康カルテを作成し、地域健康づくり関係者と共有していく。	健康増進課
2	薬剤師による健康サポート事業	・多世代健康作りの支援 ・健康サポート薬局・地域連携薬局の周囲 ・妊娠と授乳とくすりの相談対応薬局の整備と市民への周知	・くすりと健康のイベント ・各薬局における市民講座 ・妊娠と授乳とくすりの相談対応薬局リストの公開・長岡市の母子手帳発行部署への周知	・くすりと健康のイベント ・各薬局における市民講座 ・妊娠と授乳とくすりの相談対応薬局リストの公開・長岡市の母子手帳発行部署への周知	くすりと健康のイベントを花火館のイベントルームで実施してきたが、イベント開催の周知が足りていない。長岡市民にもっと参加してもらえる方法の検討が必要。 妊娠と授乳とくすりの相談対応薬局が、長岡市内６店舗あるが、周知が足りていない。	くすりと健康のイベントはR8年度は、いこいねよいたを会場に実施予定。より長岡市民に参加していただけるイベントにする予定。 各薬局における健康増進支援の取組みを充実させる。	長岡市薬剤師会
3	介護予防・日常生活支援総合事業	【目的】 高齢者がいつまでも元気に過ごすための介護予防教室の開催や、住民主体の通いの場の充実、介護予防活動の担い手の育成を推進し、介護が必要な状態となっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指すことを目的とする。 【内容】 ・介護予防普及啓発事業では介護予防に関する基本的な知識の普及・啓発や取組みのきっかけを作り、地域介護予防活動支援事業では地域における住民の主体的な介護予防活動の育成・支援を行う。 ・心身機能の維持・向上だけでなく、生活機能全般の維持・向上を目指すために、複合的な教室や講座を開催し、地域でも介護予防活動を継続できるように支援する。 【対象者】 65歳以上すべての高齢者 【実施期間】 通年	【普及啓発事業】 ・高齢者の運動習慣の定着や認知症予防、栄養改善、うつ予防、口腔機能の向上などに関する講話や実技指導を実施し、具体的な介護予防方法の普及啓発を行う。	【普及啓発事業】 ・運動機能向上事業 実施回数429回 参加延人数4,600人 ・認知症予防事業 実施回数71回 参加延人数1,494人 ・栄養改善・うつ予防・口腔機能向上等事業 実施回数34回 参加延人数617人	・講座や教室終了後も取り組みを継続できるよう、家庭でも行える運動指導や内容の充実が必要であるとともに、既存のはつらつサークル・はつらつ広場等へつなげることも必要である。また、参加者が伸び悩む事業や、参加者が固定されつつある事業もあるため、周知方法や内容など事業全体の見直しが必要である。 ・単発的に実施している講座では、習慣化に結びついているのか効果判定が困難。引き続きツールを活用し、具体的な実技指導と事後の調査が必要である。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、新しく介護予防に取り組むきっかけとなるよう、多様な場やツールを提供していく。	健康増進課
		・サービス・活動事業 （旧名称：介護予防・生活支援サービス事業） 【内容】 生活機能改善を目的としたサービスを実施。 ①くらし元気アップ事業 ②短期集中レベルアップ事業 ③筋力向上トレーニング事業 【対象者】 ・要支援１・２、事業対象者（基本チェックリスト該当者）で介護予防ケアマネジメントにより各サービスが必要とされた人	介護予防のための複合プログラムや、専門職による短期間の集団プログラム等を実施。	利用件数 ①　5,439 利用実人数 ②　95 ③　36	（評価） 事業所がないなど、サービスが利用できない地域でサービスを実施することができた。 （課題） 利用者数の低迷、サービスを利用できない地域がある。	利用件数 ①　6,461 利用実人数 ②　146 ③　86	長寿はつらつ課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
4	各地域のコミュニティ事業	子どもを持つ若い母親を対象とした講座を開催し、子育てやしつけ、生活習慣などを学習すると共に、子育てからのストレスを解消し、地域の中に溶け込んでいけるようサポートしていく。	親子相談会	カフェ形式で参加しやすい相談会を実施。	親同士の交流やストレス解消につながった。 参加者増加のための周知方法が課題。	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部
5	骨粗しょう症予防事業	骨粗しょう症予防に関する動機付けを行い、市民自ら健康管理を実践できるよう支援する。また、骨粗しょう症による骨折を予防し、健康寿命の延伸を図るもの	・骨粗しょう症予防講座 ・簡易骨密度測定コーナー ・地区フレイル予防講座、相談等での簡易骨密度測定	令和７年度参加者数：2,447人 (1)骨粗しょう症予防講座 ・実施回数27回、参加者数383人 (2)簡易骨密度測定コーナー ・測定者数2,064人	測定結果と併せ指導を受けることで、健康意識を高め、行動変容への動機づけに効果がある。アンケートにより、骨密度を数値化して見た後、栄養・運動指導講座を受けることで、生活習慣改善の動機づけに繋がっている。	これまで取り組みに参加したことのない人や、子育て・働き盛り世代に参加してもらえるよう、コミセンや各種イベント、子育ての駅等、地域に出向いて積極的に実施していく。	健康増進課
6	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	重症化予防等の後期高齢者に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）を両輪として保健事業を実施し、健康の保持増進とQOLの向上を図る。	通いの場等に出向き、フレイルや重症化予防の取組の重要性の普及啓発、健康教育・健康相談を実施する。	○健康状態不明者訪問 対象者：604人 訪問数：594人 ○健診異常値放置者受診勧奨訪問 対象者：48人 訪問数：48人 ○フレイル予防・相談事業 講座回数：162回 参加者数：2,276人	ハイリスクアプローチは、95%以上の介入支援ができた。ポピュレーションアプローチは、圏域毎に地区の特性に合わせてフレイル予防の講座・健康相談を行うことができた。「質問票」を活用し、９割方の健康状態を把握できた。健康リスクが高い方については地域包括支援センターなど必要な支援機関につなげることができた。	引き続き、ハイリスク者へのアウトリーチ支援と、フレイルや重症化予防の取組の重要性の普及啓発、健康教育・健康相談を実施する。事業実施５年目となるため、事業の評価・見直しを行う。	健康増進課
9	学校給食推進活動 （給食だよりの発行や栄養指導を含む）	学校給食を管理運営し、健康教育（給食だよりの発行や栄養指導含む）を家庭や地域と連携を図りながら実施する。	市政だより給食レシピ紹介	・保育課とひと月交代で実施した。 R7年度学務課掲載回数；６回	子どもたちに人気で栄養バランスのとれた給食レシピを家庭や地域に紹介することができた。	保育課とひと月交代で実施する。 R8年度学務課掲載予定回数：６回	学務課
10	食生活改善推進委員養成教室	住民の健康づくりを推進するため、食生活改善推進委員を養成するもの。受講生に対して、食生活や運動実技、生活習慣病、市の保健活動についてなど、健康づくりに関する幅広い分野の講座を行う。	【講座内容】 ・栄養の基礎知識 ・調理の基本 ・食育推進と食生活改善推進委員について ・生活習慣病と健康管理 ・口腔衛生等 講義や実習をとおして食に関する知識を習得する。	開催時期：９月～12月の　計４回 受講者数：19人 修了者数：17人	若い世代の参加者も一定数確保できた。電子申込方法の利用率が上がり、申請手続きの利便性の向上が図られた。 参加者からは、「自分も役に立ちたい」との前向きな声が多く寄せられた。また、食生活改善推進委員が市の事業と連携して活動するボランティアであることを知り、学びが多く有意義だったとの感想もあった。 今後も若い世代や会員数が減少している地域への周知を積極的に行うことや、活動地区数を維持していくことが課題である。	開催時期、開催回数ともにR7年度どおり実施予定 周知方法は、SNSの活用を通じて若者世代、働き世代の参加を促進する。	健康増進課
11	食生活改善推進委員研修会	地域での地区活動の円滑な実施と活動強化のため、また、地域住民の健康づくり及び食育を推進するために研修会の充実を図る。	研修を通じて食文化等と地域のつながりを理解し、地域での健康づくりに生かす。	・会員数　412人 ・全体研修会：２回　329人 ・各地域研修会：27回	計画した回数を例年どおり実施することができ、委員の知識向上や活動に必要な情報提供の機会を確保することができた。 一方で、参加者数は減少傾向にあり、今後も活動に活かせる研修内容の検討や楽しく継続できる支援が必要である。	R8年度も全体研修２回を予定しており、各地域での研修も例年どおり実施する予定。	健康増進課
12	食育総合講座～みんなの食育塾～	市民が食への興味関心を深め、健全な食生活を実践するため、食に関わる団体や個人と連携して市民向け講座を開催する。	テーマに沿って講座開催（親子、伝承料理、生活習慣病予防、男性、高校生、動画配信） 講話及び調理実習等の体験を行う。	・親子（５コース）：50組（大人57人、子供56人） ・伝承料理（２コース）：33名 ・生活習慣病予防（２コース）：24名 ・認知症予防（１コース）：18名 ・動画配信（１講座）：申込者468人（拝聴717回） ・高校・大学生向け（１講座）：113人	リピーターも多いが、青壮年期の新たな層の参加もみられた。動画配信講座は幅広い市民の皆様から視聴いただくことができた。 一方で、疾病予防講座は参加希望者が伸び悩み、広報活動を工夫することが課題である。	働き世代や青壮年期が多く参加できる講座を計画したり、高校生向けを充実させるなどし、新たな層を多く取り込めるよう計画していく。	健康増進課
13	食育講演会	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及を図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施するもの	食を通して生涯にわたり健康な心身を培い、健全な食生活の普及を図り、食の大切さの理解につなげるため、広く市民にむけた講演会を実施	食生活改善推進委員協議会第２回全体研修会に併せて開催 日時：11月20日（木） 会場：リリックホールシアター 参加者：180人 講師：土屋　智帆氏（お米ライター） 「お米をもっと食べよう！」	アンケートでは、男性参加率が昨年度の１%から今年度は約10%へと大きく増加した。講演テーマが日常に身近な「お米」であったことが関心を集め、吸水方法や炊き方など実生活で役立つ内容が評価された。	R8年度も食生活改善推進員協議会の第２回研修会と併せた形で実施予定 予定日時：11月13日（金） 講師：武蔵大学　種村菜奈枝教授 テーマ：（仮）食品のリスクを正しく理解し、健康被害を防ぐ	健康増進課
14	学校給食献立商品化	市民へ減塩と野菜摂取を啓発するため、学校給食献立「ながおか減塩うまみランチ」を商品化し、市内スーパーマーケット等と連携し、販売するもの	スーパーマーケットと協働した惣菜販売 スーパーマルイ：６月１カ月間 割烹たいしん：通年	販売店舗 ①スーパーマルイ（市内７店舗） ＜６月販売個数＞ ・鶏肉の香味焼き：2,216個 ・ひじきとコーンのサラダ：419個 ・かみかみみそ汁：193個 （長岡市内の販売実績） ②割烹たいしん ・庁舎販売 さいわいプラザ　780食 アオーレ　137食 ・弁当　436食 ・社員食堂　554食	協働により減塩体験の場を創出し、市民の関心の高さを確認できた。 一方、参画企業の拡大や継続的検証、広報強化が課題である。	若い世代への周知方法として、乳幼児健診や学校等の給食だよりを活用する。 また、商工会等と連携し、企業への事業PRを行う。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
15	保育（こども）園食育普及講座	園児や保護者を対象に、食に関する講話や運動、簡単な調理体験等を行う (1)保護者向け食育講座 (2)親子食育体験講座 (3)３回講座	【講座内容】 （1）保護者を対象に、乳幼児期の食事やおやつの取り方、共食等についての講話 （2）朝ごはんの大切さや食事のマナー、おやつの講話と簡単な調理体験を親子一緒に行う （3）園児に対し、食事のバランスや朝ごはんについての講話	(1)保護者向け食育講座 ・２園実施　36人（保護者31人、職員５人） ・内容：幼児期の食事で大切なこと (2)親子食育体験講座 ・５園実施　193人（児童91人、保護者80人、職員22人） ・内容：朝ごはんの大切さ、食事のマナー、おやつ等の講話と簡単な調理体験（シャカシャカおにぎりづくり、出汁試飲など） (3)３回講座 ・10園実施　延べ1,559人 ・内容 ①まごわやさしい ②き・あか・みどりの食べ物　元気なうんち・うんちおたすけ運動 ③早寝早起き朝ごはん　元気いっぱい全身運動	事後アンケート結果より、受講後の家庭での変化として「食べ物や食べることについての会話が増えた」「食事のバランスを気をつけるようになった」「野菜を食べる量・頻度が増えた」の回答が多く、講座による具体的な成果を把握することができた。 課題としては、アンケートの回答率が低いことが挙げられる。回答すると追加情報が得られるなど、インセンティブを考慮した方法を検討していきたい。 また、パクパクノートのやり取りが負担、または使い方が不明確だった保護者が少数見られたため、記載内容や説明方法について改善を検討したい。	R7年度と同等の内容で実施。 親子講座、保護者向け講座では引き続き、保護者の食の悩みに寄り添ったテーマになるよう、計画していく。	健康増進課
16	児童クラブ等食育プログラム事業	子ども自身が「食」に関心を持ち、「食」を正しく選択できるようにすることを目的に、児童館（児童クラブ）に来ている子どもたちを対象に、「食」にかかわる講話および調理実習を行う。	・講話のみか講話と体験で、食を学び、子ども自身の健康づくりにつながるような講座の実施	・実施児童館数：12か所 〈内訳〉 ・講話と実習：2か所 ・講話のみ：10か所 ・参加児童数：370人 ・実施内容　黄赤緑のバランス、マナー、朝食、野菜、みそ玉作り、おにぎりづくりなど	R7年度から児童クラブ運営の民営化により、職員の入れ替わりがあったため、周知が行き渡らず、申込が減少した。 一方で、実施した施設では、講話やワーク、クイズを組み合わせ、子どもたちの食への関心を深めることができた。	委託企業と連携し、各児童クラブへ事業説明の機会を設けて周知する。 実施の際は、子どもの現状を把握し、施設ごとに内容を検討する。	健康増進課
17	食育推進料理教室	調理実習や講習を通し、食生活面からの健康づくりを推進するため、市から事業委託を受け、市内全域で実施。全市共通するテーマに基づき、地域の実情にあった食生活の相談・助言を行い、健康づくりに関する知識の普及を図る。	食推を対象とした研修の実施 テーマに沿った講話と調理実習	実施地区数：49地区 参加者数：622人 テーマ「ナトカリバランスで高血圧予防」 ～ちょいしお、もりもりやさいで健康になろう～	市内全地区で実施することができ、地域において「減塩の工夫」を推進する機会を確保することができた。参加者からは、「塩分不使用の出汁パックがあり、減塩でも手軽に出汁が取れることを知れてよかった」「日ごろの味付けが濃かったことに気付いた」「薄味にすることで出汁の旨味や野菜そのものの味を感じることができた」などの好意的な意見が寄せられ、事業に対する満足度も高く、食に関する知識の普及や健康意識の向上につながった。 一方で、実施する食推委員からは、参加者の確保に苦慮しているとの声が聞かれており、広報手段の工夫や新たな参加者層の開拓が課題となっている。	＜R8年度予定＞ テーマ「減塩、思ったよりも簡単だった！塩クイズ＆体験で学ぶ減塩のコツ」 内容 ・塩に関するクイズ ・ソルセイブで塩味チェック体験 ・調理実習 　献立：焼き稲荷・野菜たっぷりみそ汁・蒸し器のいらない茶碗蒸し 実施地区数：48地区	長岡市食生活改善推進委員協議会（健康増進課）
18	食生活の普及	家族や自分自身の健康を維持する為や正しい食習慣を身につける機会、情報交換の場とする。 【リーダー研修会】 ながおか地域女性部にて実施。栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問より講師をいただき、旬の地場産野菜を使った料理や米粉を使った料理をテーマに実施。各地区から選出されたリーダーより研修会の参加、その後自地区にて健康料理教室の伝達講習会を実施いただく。（６月10月年２回実施） 【食育の日料理教室】 地域住民・市民の交流の場として、なじら～て東店併設「市民交流施設イーネ」で、食農・食育に沿った料理教室を開催。月１回「食育の日料理教室」を開催。	事業概要同様 【リーダー研修会】 リーダー研修会後、自地区にて女性部員へ正しい食習慣や新しい情報を伝えることにより、その家族や知人など幅広く地域住民へ食に関する知識を与える。 【食育の日料理教室】 誰でも参加できるため、年齢・性別を問わず交流ができる。	【食生活リーダー研修会】 食生活リーダー研修会：２回開催（６月・10月） 各地区伝達講習会実績：18会場182名 【食育の日料理教室】 実績：12回129名	【リーダー研修会】 （評価） 栄養士やホテルニューオータニ長岡の調理顧問を講師に迎え、参加者の興味を引く企画を行うことにより、参加者および支部から好評をいただいている。 （課題） 女性部の高齢化により講習会を実施しない地区が増えている。 【食育の日料理教室】 旬の食材を使い、手軽に家庭でできる料理を提案することから、主婦層より人気となった。リピーターも多く、地域住民同士が「食」を通して関りを持つことを実現した。 （課題） メンバーが固定化してきているので、新しい方が参加しやすいきっかけ作りや広報活動に取り組んでいきたい。	継続	JAえちご中越組織福祉課
21	自然に健康な食事ができる環境づくり事業	健康への関心度に関わらず、誰もが健康になれることを目指し、中食を軸に食環境づくりを推進する。県が登録したスーパーマーケット等と協働し、健康に配慮した中食の提供や啓発活動を実施する。 （１）「けんこうtime推進店」、「からだがよろこぶデリ」の普及啓発 （２）「けんこうtime推進店」の登録促進	「栄養バランスがとれている」、「野菜が多く含まれてる」、「適塩」等の健康に配慮した中食をいつでも身近な店舗で購入できるよう、スーパーマーケット等と連携し、自然に健康な食事ができる環境づくりを推進する。また、望ましい食生活を無理なく手軽に実践できるよう、惣菜等を利用したバランスのよい食事の組み合わせなどについて普及啓発を図る。	・９～11月の「からだがよろこぶデリ」キャンペーン期間を中心に、特に子育て世帯に向けた取組周知を強化し、子育て支援センターでのチラシ配布（計360枚）や各種イベント等を活用して取組の普及啓発を図った。	・「からだがよろこぶデリ」のメインターゲットである子育て世帯に向けて、対面で周知できる機会が少ない。	・９～11月の「からだがよろこぶデリ」キャンペーンに合わせて取組の周知を図る。 ・他事業と連携を図り、子育て世帯への普及啓発を図る。	長岡地域振興局健康福祉環境部
22	地域活動事業	・子どもから高齢者まで、からだを動かすことの楽しさ、体力の向上を目指しながら、仲間を作りあげていくことにより、日常のストレスに対処し、健やかな生活習慣を身につけていく。	①多世代料理教室 ②各種スポーツ大会	子どもから高齢者まで、多世代の交流や健康づくりに取り組んだ。	多世代交流のきっかけづくりにつながっている。若い世代の参加を促す周知方法が課題	引き続き、周知に工夫しながら参加者増に取り組む。	地域政策部

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
26	心身障害者スポーツ教室	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的にスポーツ教室を開催する。 【内容】 テニススクール 【対象者】 障害児・者とその家族 【実施回数】 ５回	心身障害児・者の健康増進を図るため、障害児・者とその家族を対象にテニス教室を開催。	長岡市テニス協会に指導員を依頼し、全５回実施した。	障害のある方のスポーツ活動の場として定着してきており、誰もが参加しやすい健康づくりの環境整備につながった。	R8年度も全５回実施予定。	福祉課
31	各種大会開催事業	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	広く市民にスポーツを普及し、スポーツ愛好者を増やすため、日ごろの練習の成果発表と相互の交流を深め、誰でも参加できる種目別スポーツ祭、まつりスポーツ大会を実施する。	【市民スポーツ祭】 27種6,980人参加 【まつりスポーツ大会】 ７種2,108人参加	市民スポーツ祭は参加条件を再度確認し、市民が広く参加できるよう工夫した。 まつりスポーツ大会は、会場の都合で実施できない種目もあったが、おおむね例年通りの参加があった。	市が実施する地域交流大会との関係を整理しながらより市民が参加しやすい大会となるよう要項の見直しを行いながら実施する。	（公財）長岡市スポーツ協会
32	スポーツ教室・クラブ運営事業	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	こどもから高齢者までの市民が生涯を通してスポーツ・レクリエーション活動や運動に親しみ、健康・体力づくりの日常化と仲間づくりを推進するため、身近な場所での親子運動遊び教室、様々な種目のスポーツを楽しむ教室などを実施する。	【主要体育施設】 大人向け17教室1,142人参加、小学生向け３教室91人参加、親子向け５教室491人参加、コオーディネーション５教室114人参加 【コミセン等】 大人向け６教室192人参加、親子向け１教室13人参加	主要体育館での大人向け教室は定着しているが、新規参加者が増加していない。 親子での運動遊びやより身近なコミセンを会場としたスポーツ教室は参加者が増加している。	コミセンや支所地域など身近な場所でのスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、新規教室、新規会場の開催を含めて検討・実施する。 既存の教室においては新規参加者を増やすよう広報方法など検討する。	（公財）長岡市スポーツ協会
33	指導者・団体育成事業	ジュニアスポーツ活動を支える指導者の養成並びに資質向上を図るため、指導者向け講習会を実施する。	ジュニアスポーツ活動を支える指導者の養成並びに資質向上を図るため、指導者向け講習会を実施する。	【指導者講習会】 ４回214人参加 【種目別クリニック】 ３回65人参加	参加者からは非常に好評だが、新たに受講する指導者が少ない傾向になる。 特にハラスメント関係の講習については粘り強く実施する必要があるが、参加者を増やすための工夫が必要である。	定住自立圏スポーツ振興事業でありながら、圏域内で同様の講習がみられる。調整をしながら、また内容を見直しながら開催する。	（公財）長岡市スポーツ協会
34	専門指導者派遣事業	運動・スポーツの普及と浸透を図るため、学校、地域、職域が行う運動・スポーツ活動や行事等に指導者を派遣する。	運動・スポーツの普及と浸透を図るため、学校、地域、職域が行う運動・スポーツ活動や行事等に指導者を派遣する。	指導者派遣　83回	学校でのPTA活動や子ども会活動での派遣は定着してきている。職域を対象とした教室開催型の派遣は非常に好評である。 また、職場内においての健康増進事業としての派遣が微増している。	子ども向け、親子向けの指導者派遣だけでなく、働き盛り世代に向けた企業向け派遣も継続して力を入れ、運動・スポーツの普及、浸透を図る。	（公財）長岡市スポーツ協会
35	健康増進活動	運動を通じてコミュニケーションを図る。 【運動会・スポーツ大会】 JA支店と地域が連携して、健康づくりのスポーツの取り組みを実施。健康づくりと仲間づくりをすすめる。 【健康教室】 少人数・グループでの開催を可能にし、手軽に参加できる健康講話や軽運動を実施し、健康についての関心を深める。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JA組合員・役職員をはじめとする、地域住民の健康づくりに対する関心を高め健康の源となる「食」において新潟の農畜産物の豊かさをPRし、「すべての人に健康と福祉を」（SDGsゴール３）に貢献するため取組みを実施。12月～１月（冬季）を実施期間とし、継続30日間の健康チャレンジに挑戦。	事業概要同様	【運動会・スポーツ大会】 ながおか地域実績：22会場650名 【健康教室】 ながおか地域実績：３会場55名 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 JAえちご中越管内実績（参加者）：ハガキ45枚	【運動会・スポーツ大会】 スポーツを通じ地域住民との結びつきの維持・強化を図ることができた。 （課題） 新規の取組みもなく、開催地区の固定化や参加住民の高齢化により取組自体の終了など今後参加者の大幅な減少が予想される。 【健康教室】 コミュニティセンターを通じ、高齢者を中心に長岡中央綜合病院の理学療法士が健康管理について講話や軽運動を行った。コミュニティセンター・JA・病院の連携により、高齢者の健康意識をより高めることができた。 （課題） 毎年同じようなテーマとなり、目新しさがない。 参加後の満足感を上げるようなテーマをご提案したい。 【JA健康寿命100歳プロジェクト】 令和６～７年度は女性部を中心に地域住民への呼びかけを行った。各自で決めた健康テーマを連続30日間チャレンジすることで、健康に対する意識づけをすることができた。 （課題） 女性部を中心に参加を呼びかけたので、参加者のほとんどが60代～70代の女性となってしまった。性別世代関係なく地域住民へ幅広く参加していただくためにもJA広報誌の活用など検討が必要。	継続	JAえちご中越組織福祉課
38	パラスポーツ体験会	【目的】 心身障害児・者の身体機能の向上や社会参加を目的に、障害の有無に関わらず楽しめるパラスポーツの体験会を開催する。 【内容】 ボッチャ体験会 【対象者】 制限なし 【実施回数】 ３回	心身障害児・者の運動の機会の提供を図るため、パラスポーツの体験会及びボッチャの体験会を開催。	公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託し、年２回実施した。	障害の有無にかかわらず参加できるスポーツの機会を通じて、身体活動の促進や障害者スポーツへの理解・促進につなげることができた。	R8年度も公益財団法人長岡市スポーツ協会へ委託。年２回実施予定。	福祉課
39	こころの健康づくり講演会	ストレス、うつ病に関する正しい知識の普及啓発を図るために講演会を開催する。	こころの健康づくり講演会	11月11日（火）開催 ※自殺対策連携会議と合同開催 講演会テーマ「自死で家族を亡くした経験から伝えたいこと」 シンポジウムテーマ「こころのSOSを見つける～働く人のメンタルヘルス～」 参加者：200人（市民129人・会議出席者71人）	男性の職域層の自殺が多い背景から、職域層を重点とした、いのち支える長岡市自殺対策連携会議と合同開催とした。 参加者より、自死遺族の講演は多くの参加者に響く内容であり、今後も自殺予防の大切さを伝えてほしいとの声があった。こころの健康に関する正しい知識の普及啓発、こころの不調や自殺への理解促進を図るため、今後も市民に対し広く啓発する。	事業継続 R7年度に引き続き、職域層をターゲットとした内容とする。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
40	こころの健康相談会	こころの悩みやアルコール問題を抱えた人、自死などの遺族を対象に相談会を開催する。＊臨床心理士、精神保健福祉士の専門相談会	こころの相談会 アルコール相談会 こころのとまり木相談会	こころの相談会 実施回数　17回　利用者数　22人 こころのとまり木相談会 実施回数　12回　利用者数　21人 アルコール相談会 実施回数　３回　利用者数　７人	相談会のみで終わらず、地区担当保健師や関係機関へつなぐなど、関係が切れないような支援を行うことができた。 働いている方でも参加しやすいよう、土曜・平日夜間の開催を継続して行っていく。	こころの相談会 実施予定　32回（土曜３回・夜間３回） こころのとまり木相談会 実施予定　12回（土曜３回・夜間３回） アルコール相談会 実施予定　６回	健康増進課
41	精神保健福祉相談	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 　困難事例等の相談に精神科医師が対応 ２随時相談 　精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	心の健康や精神疾患に関する相談に応じる。 １定例相談会 　困難事例等の相談に精神科医が対応 ２随時相談 　精神保健福祉相談員が対応 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	１定例相談会 　実績/計画　３回６件/３回 ２随時相談 　来所または電話による相談に随時対応した。 ３こころの相談ダイヤル 　平日昼間316件 ４訪問指導 　市町及び病院等関係機関と連携しながら実施。	市町及び病院等関係機関と連携しながら、当事者や家族の相談に応じ支援した。今後も継続する。	１定例相談会 　年３回 ２随時相談 ３こころの相談ダイヤル ４訪問指導	長岡地域振興局健康福祉環境部
42	受動喫煙防止対策	【目的】 　市政だより、ポスター掲示、健康教育等により、受動喫煙の害について住民へ啓発していくもの。 　望まない受動喫煙の防止を図るため平成30年７月25日に「健康増進法の一部を改正する法律」が交付された。改正法の周知を図るとともに、法律を尊守した対策を講じる。 【内容】 １　禁煙週間の啓発 ２　市有施設における受動喫煙防止対策 ３　受動喫煙防止対策講座 ４　禁煙外来の周知	【禁煙週間の啓発】 ・世界禁煙デー(5/31)に始まる１週間を「禁煙週間」として定め啓発を行う 【禁煙外来の周知】 ・市ホームページでの禁煙外来案内の掲載	【禁煙週間の啓発】 ・アオーレビジョンでの禁煙週間啓発動画の放映 ・長岡市公式LINEでのお知らせ配信 ・市政だよりへのお知らせ記事掲載 【禁煙外来の周知】 ・禁煙外来開設状況について日本禁煙学会のリンクを掲載	行動変容や意識変化等、禁煙週間の啓発による効果を評価できないことが課題である。	・引き続き、各種媒体を介して禁煙週間の周知啓発を行っていく。 ・問い合わせに対し、禁煙外来開設状況を活用しながら対応していく。	健康増進課
43	たばこ対策推進事業	喫煙・受動喫煙の健康への影響について普及啓発を行う。また、望まない受動喫煙の防止を図るため、改正健康増進法の周知や適切な対応を行う。	受動喫煙による健康影響の予防のため、必要な知識および改正健康増進法の内容などの普及啓発等に取組み、喫煙による健康被害のない環境づくりを推進する。	①既存特定飲食施設からの喫煙可能室（店）に関する届出（新規・変更・廃止）を受け付ける。 ・新規：１件 ②たばこ対策に関する相談・通報、指導・助言対応等を実施 ・相談：12件 ・通報：４件 ③改正健康増進法等の周知（新規営業許可取得者・継続者への法内容説明リーフレット配布、世界禁煙デー、禁煙週間等の周知・普及啓発等を当部ホームページ、当部X等により実施） ④「飲食店における受動喫煙対策キャンペーン」に係る調査の実施 ・改正健康増進法の施行後５年を経過したことを契機に、飲食店における改正健康増進法の施行状況を把握するため、状況調査を世界禁煙デーに合わせて実施した。	①②は申請や問い合わせについて適切な対応ができた。 ③は世界禁煙デー、禁煙週間に合わせた当部ホームページ及び当部Xによる普及啓発を計画に沿って実施した。 ④は管内の喫煙可能室を設置する飲食店10施設に対して調査を行い、うち７施設の状況を把握することができた。 課題： 第二種施設の屋外における受動喫煙に関する相談が寄せられる場合があるが、健康増進法の規制対象外であることから、法令に基づく対応が困難な事例がある。	・喫煙可能室（店）届出および相談・通報対応は改正健康増進法に基づき随時対応する。 ・引き続きホームページ等を活用した改正健康増進法の周知を継続する。	長岡地域振興局健康福祉環境部
49	保護者への啓発	保護者の歯科保健についての意識を高める。 保護者に配布するおたより等を利用し、保護者にむし歯予防に関する知識を提供する。	ほけんだよりの発行	「歯の健康習慣」に合わせ、６月に発行している。 例年発行しているが、作成時の状況や周知したい情報を適宜変更して発行した。	歯の健康に関する基本的な知識や乳幼児に欠かせない仕上げ磨きの注意事項などを明るい色使いやイラストを用いて掲載し、より保護者の方にわかりやすく伝えることができた。	R8年度は全国的に乳幼児の事故発生件数が多い「歯磨き中の事故」や保護者の注目するポイントである「虫歯ができるメカニズムと予防策」を中心にほけんだよりを作成することで、継続して保護者に周知を行い、家庭内でのむし歯予防の意識を高める。	保育課
60	ながおかウェルネス事業	【目的】 　市民の健康づくりを支援するため、民間のノウハウを取り入れた健康づくりの取組を行うとともに、取組が継続出来る仕組みをソフト・ハード両面から構築するもの 【内容】 １　健康アプリを活用した健康ポイント（インセンティブ）事業 ２ 青壮年期向け健康増進推進事業 　・健康づくりイベント（歯科保健に関する講演会、薬と健康のイベント） 　・青壮年期向け健康づくり啓発 　・まちなか健康講座 ３ 健康づくりの啓発と基盤整備 　・高齢者eスポーツ体験事業	【ながおかウェルネスチャレンジ】 ・健康アプリを活用した健康ポイント事業 【青壮年期向け健康増進推進事業】 １ながおか若者健康づくり講座 ２働く世代の健康講座 ３まちなか健康講座 【高齢者ｅスポーツ体験事業】 １週イチｅ活 ２ちょこっとｅ活 ３地域交流イベント	【ながおかウェルネスチャレンジ】 登録者数：2,569人 【青壮年期向け健康増進推進事業】 １ながおか若者健康づくり講座 　実施回数：５回 　参加延人数：217人 ２働く世代の健康講座 　実施回数：11回 　参加延人数：440人 ３まちなか健康講座 　実施回数：30回 　参加延人数：659人 【高齢者ｅスポーツ体験事業】 １週イチｅ活 　実施回数：25回 　参加延人数：255人 ２ちょこっとｅ活 　実施回数：28回 　参加延人数：130人 ３地域交流イベント 　実施回数：２回 　参加延人数：35人	【ながおかウェルネスチャレンジ】 　アンケート結果では、約８割の参加者がアプリの活用により生活習慣の維持・改善につながったと回答している。運動だけでなく、食事や睡眠・休養への意識向上も見られ、約７割が健康状態に良い影響を実感している。 　一方で、参加者数の伸び悩みや、特に職域層の参加促進が課題となっている。また、参加者においてはアプリの継続利用や積極的な活用を示すアクティブ率の向上も課題である。 【青壮年期向け健康増進推進事業】 　１、２について、参加者からは、自身の生活習慣を見直し、改善する機会となった、との声が多く聞かれ、健康意識の向上につながっていた。新規団体からの申込を増加させることが課題。 　３については、まちなか会場の３か所に加え、特別講座なども行うことで、講座それぞれで参加者が変わり、より多くの市民が参加することができた。 【高齢者ｅスポーツ体験事業】 　参加者からは「楽しみが増えた」「ゲームに興味を持った」などの声が聞かれ、高齢者のデジタル機器への苦手意識克服や社会交流、生きがいや楽しみの創出につながった。 　一方で、新規参加者の確保が困難であることが課題。	【ながおかウェルネスチャレンジ】 ・本事業を引き続き継続して実施する。 ・事業対象者について、在学者へ拡大する。 ・参加者増加に向け、健診会場におけるアプリPRブースの設置など、周知・啓発活動を強化する。 ・健康週間や健康月間にあわせ、関連事業の紹介をアプリのお知らせ機能で配信するとともに、アプリを活用した講座を実施し、参加者のアクティブ率向上を図る。 【青壮年期向け健康増進推進事業】 ・事業の周知方法や会場、実施時間を見直し、引き続き事業を実施する。 【高齢者ｅスポーツ体験事業】 ・コミュニティセンター会場で教室を実施し、地域への普及拡大を図る。	健康増進課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
65	CKD・糖尿病性腎症重症化予防対策事業	ＣＫＤ・糖尿病性腎症の重症化予防が必要な者が、疾患について正しく理解し、疾病管理のための食事や生活習慣等についての理解を深め、自己管理の質を高めるための集団指導、個別保健指導を行う	【ＣＫＤ・糖尿病性腎症健康セミナー】 糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者への３回コースの集団指導 【糖尿病予防教室】 特定健診受診者で糖尿病型の者への３回コースの集団指導	【ＣＫＤ・糖尿病性腎症健康セミナー】 対象者数829人、参加実人数36人 【糖尿病予防教室】 対象者数710人、参加実人数47人	・参加者の行動目標の継続率は、83%と目標の80%を達成した。 ・集団指導の各回定員に対し、参加が少ない状況。指導内容、実施回数等を見直し、参加しやすい体制に改善していく。 ・主治医から、事業参加について勧めていただくよう、引き続き協力依頼を行う必要がある。 ・医師会等関係機関との協議を経て、「長岡市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」をR8年３月に改定。	「長岡市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」改定に基づき事業対象者を抽出し、保健指導参加勧奨を行い医療専門職による健康教育（集団指導）を行うほか、主治医による指示書に基づき個別保健指導を行う。	健康増進課
67	生活習慣病予防事業	生活習慣病のリスクの高い人に対し、かかりつけ医がイエローカードを発行し、市の指導会につなげ、生活改善を図る。	生活改善プログラム ・栄養士や保健師による栄養指導、運動指導員による運動指導 ・１か月間で計２回（初回、１か月後）の面接を実施	生活習慣病予防指導会 ・実施回数：75回 ・参加者 実 90人、延べ 148人 ・27医療機関から紹介あり	・対象者に応じた個別指導と行動計画により、生活習慣の改善や受診行動の促進につながっている。 ・継続率(指導会３回目まで参加)が約３割と低く、回数見直し等による改善が必要である。 ・訪問による周知により事業は定着しつつあるが、健診結果前の書類送付を求める声もあり、訪問以外の周知方法の検討が必要である。	引き続き、医療機関と連携し指導会参加者を増やすことで、生活習慣病予防及び重症化予防を図る。	健康増進課
68	あなたの健康相談	【目的】 市民の生活習慣の改善等の健康に関する相談に応じ、保健指導を実施することで、個人・家族の健康増進を図る。 【内容】 個別に心身の健康及び栄養や食事に関する相談に応じ、必要な指導助言を行う。 【対象者】 一般市民 【実施期間】 通年	あなたの健康相談会	令和７年度実績 ・実施回数：105回 ・相談延人数：475人 ・39歳以下：202人 ・40-64歳：42人 ・65歳以上：231人 ・75歳以上(再掲)：125人	・健康に関する助言・指導を行うことで、参会者の健康に関する悩みや不安の軽減、健康意識の向上につながった。 ・高齢者の参加者数が増加していることから、生活習慣病に加えてフレイル予防等、高齢者の特性に合わせた助言・指導を行っていく。	・健診日程により参加者に偏りがあるため、健診結果通知後など、参加者が増えると見込まれる月の相談会日数や定員について検討が必要。 ・市民に広く周知し参加につなげるため、今後も広報媒体等を活用し、継続的な周知に取り組む。	健康増進課
71	オンライン保健指導	【目的】 特定保健指導の利用率が特に低い働き盛り世代の保健指導の利用率向上を図る。 【内容・対象】 特定保健指導対象者のうち希望者にオンラインで保健指導を実施する。 【実施期間】 通年	・特定保健指導事業	令和７年度実績 ・オンライン特定保健指導実施人数：13名	働き盛り世代の参加につながった。一方で、利用者数はまだ少なく、事業の認知不足や利用手続きのハードルが課題である。	オンライン保健指導の周知強化と申込時の煩わしさを軽減し利用促進を図る。 働き盛り世代が参加しやすい環境を整備する。	健康増進課
75	地域職域連携推進協議会	働く世代からの生活習慣病予防対策を進めるため、その重要性について事業者等へ普及啓発するとともに、中小規模事業所において取り組みやすい環境整備を進める。	働く世代を中心とした生活習慣病の発症予防・重症化予防に向け、働く世代の健康づくりを担う関係者と目的の共有と取組の推進を目指す。	１ 地域・職域連携推進協議会の開催（3/2） ２ 健康課題の多い運輸交通業を対象とした健康づくりの実施（※長岡市と連携して実施） ①モデル事業所（三越タクシー）での取組 ・「事業所カルテ」を活用した事業所の健康目標の確認 ・健康課題を踏まえた従業員の実態調査（50人） ・健康教育の実施　３回（延べ50人） ②モデル事業所所属団体（中越地区ハイヤー協会）労務指導会での経営者との意見交換会：１回（13社） ③運輸業界（陸上貨物運送事業労働災害防止協会）夏期定例研修会での経営者への情報提供：１回（32社）	・モデル事業所への支援をとおし、事業所カルテ等、実態の見える化された資料は経営者の関心が高く健康経営の目的が共有され継続につながりやすいことが確認できた。 ・運輸業のネットワークを活用し、経営者に対する健康づくりに関する情報提供や意見交換の場を広げることができた。 ・次年度は関係機関の保健サービスを活用しながらの事業展開をすることを具体的に検討することができた。 ・引き続き小規模事業所が主体的に健康づくりに取り組むための体制等について関係者と検討が必要。	①（継続）関係機関等と連携した、モデル事業所での健康教育等の実施 ②（継続）中越ハイヤー協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会との情報交換等の実施 ③（新規）長岡商工会議所運輸・交通部会での情報提供の実施 ④地域・職域連携推進協議会の開催	長岡地域振興局健康福祉環境部
76	家庭教育活動事業	子どもたちが、いきいきと力強く育つよう、社会や家族の変化、価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く状況を知り、それらに対応する家庭教育のあり方を学ぶ学習の機会を提供し、家庭の教育力を高めることを目的に、「親も育つ子育てセミナー」を開催する。	左記のとおり	①講演会（２回） 参加者数　210人 ②ＷＥＢ配信（２回） 視聴総数　321回	家庭教育の教育力向上や家庭教育支援に取り組めた。	R7と同様	子ども政策課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
77	ブックスタート	・赤ちゃんと周りのみんなが絵本を通して楽しい時間を分かちあうことを応援する事業 ・平成15年から開始 ・５～７か月の赤ちゃん相談の際に同時実施 ・読み聞かせボランティア及び図書館司書が読み聞かせの実演を行い絵本１冊とアドバイス集を手渡し、「地域みんなで子育てを応援していますよ」などのメッセージを伝える ・赤ちゃんと絵本の楽しさを分かち合うことの大切さや喜びを伝えるとともに、ブックスタートをきっかけに父親が積極的に子育てに関わる環境づくりを進めることも狙いとしている ・平成30年より、まちなか絵本館で月２回（原則第２土曜日・第３日曜日）実施	５～７か月赤ちゃん相談の際に実施し、ボランティアや図書館司書による読み聞かせを行う。赤ちゃんの反応を見ながら、絵本を１冊選んでもらいプレゼントする。	対象者数：1,254名 実施者数：1,184名	対象者のほとんどに絵本を配布することはできた。父親が相談に来所する場合も年々増加しており、父親への働きかけにもなっている。	今年度も同様に実施する。	こども家庭センター
78	長岡市ファミリー・サポート・センター会員養成講習会	ファミリー・サポート・センターの新規会員の確保と資質向上を図るため、会員養成講習会を開催する。 内容 ・センター事業のあらまし ・心の発達とその課題 ・保育の心 ・子どもの身体の発育と病気 ・子どもの栄養と食生活 ・子どもの事故と防止策 ・乳幼児の生活へのケアと援助 ※ファミリーサポートセンター・・・ 家庭や働く親の育児負担の軽減と仕事との両立を支援するため、専任の職員を配置し、相互援助活動(会員の紹介)及び会員相互の交流会等の事業を行う。	左記のとおり	○７講座を１シリーズとして年３回開催　参加者数：延べ46人 ○会員入会状況：合計　1,259人 （提供会員：290人、依頼会員：924人、両方会員：45人）	市内の看護学校講師や栄養士、保育士、臨床心理士などに講師を依頼し、提供会員としての資質向上を図ることができた。支所地域への事業周知・活動展開と新規会員確保が課題であるため、引き続き事業の周知に努めていく。	R7と同様	子ども政策課
79	子育ての駅運営事業	雨や雪の日でも遊べる屋根付き広場と子育て支援機能が一緒になった「子育ての駅」では、子育て世代はもちろん、子育ての先輩や次代の親となる若者などが集い、世代を越えた交流や子育て支援の輪を広げる場として、子育て支援関係団体等と協働・連携しながら事業運営を行う。平成21年５月に「子育ての駅千秋（てくてく）」を開設するとともに、平成22年４月には「子育ての駅ながおか市民防災センター（ぐんぐん）」を開設。同年８月には「ちびっこ広場」が新たに絵本機能を有した施設として移転オープン。その後、平成24年７月には「子育ての駅とちお（すくすく）」を開設した。また、平成27年度に、長岡市全支所地域に子育ての駅の整備を進め、平成27年12月に子育ての駅みしま、平成28年１月に子育ての駅なかのしま、こしじ、やまこし、おぐに、てらどまりを開設した。平成28年４月に子育ての駅わしま、よいた、かわぐちを開設。 各施設ともに立地条件や周辺環境を生かしながら特色ある事業展開を行っている。	各子育ての駅で年間事業計画により、子育て講座や各種イベント、子育て相談会などを実施する。	P32　別表１参照	子育てしやすい環境づくりとして、子育て支援の輪が広がるように多世代が交流する場を提供するとともに、いつでも気軽に相談できるような運営を行った。	R7と同様	子ども政策課
80	保育付き事業の実施	各種講習会及び諸会議の開催に際して、子育て中の保護者でも参加できるよう、関係機関・団体等に対し保育付き事業の実施を促す。	左記のとおり	・庁内各課または関係機関・団体の判断で保育付会議及び事業（講演会等）に取り組んでいる。 ・講座や会議に保育をつけることで、子どもと離れることにより集中することができる。また、保護者のストレス解消にもつながっている。 ・今後も長岡市こども計画の推進にあわせて、関係機関・団体等に対し保育付事業の実施を促す。 ＜ファミリー・サポート・センター＞ ○保育付き講習会の開催回数 延べ７回 ○お預かりした子どもの人数 延べ30人 ＜子育ての駅ちびっこ広場＞ ○保育付き講座の開催回数 延べ１回 ○お預かりした子どもの人数 延べ８人 ＜長岡市子ども・子育て会議＞ ○保育付き会議の開催回数 延べ１回 ○お預かりした子どもの人数 延べ１人	保育付きの各種講習会や会議を実施し、子育て中の保護者が参加しやすい環境整備を行った。	R7と同様	子ども政策課

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
81	パパママサークル	妊婦とパートナーを対象に、父親と母親で子どもを産み育てようという意識を育て、父親の積極的な育児参加を促すために、沐浴の体験を実施する。妊娠中の不安やストレスを軽減し、困った時に相談できるように情報提供をする。申込者数の減少により、令和８年より、募集人人数を減らして実施している。	赤ちゃんのお世話の仕方、お風呂の入れ方を助産師・保健師が指導し、体験してもらう。父親の妊婦疑似体験の実施。保健師から産後についての情報提供。	実施回数：18回 参加者：606人（妊婦 303人、夫300人、その他３人）	参加者からは育児の具体的イメージができたという感想が多くみられた。体調不良や都合、抽選で落ちてしまい、参加していない妊婦・パートナーへの対応も検討していく必要がある。	今年度も同様に実施する。	こども家庭センター
82	延長保育、一時保育、休日保育、病児・病後児保育	子育てと仕事・家庭の両立を支援するために、一時的に子供を受け入れる。	多様化する保育ニーズに対応するため、通常保育とは別に保育サービスを行う。	延長保育事業は、公立保育園29か所・私立保育園等64か所で実施し、うち補助対象施設59か所で延べ56,077人が利用した。 一時保育は、市内23か所で実施し、延べ3,001人が利用した。 休日保育は、市内４か所で実施し、延べ374人が利用した。 病児・病後児保育事業は、市内８か所で実施し、延べ829人が利用した。	概ね例年どおり実施することができた。	継続して受入れ体制を整えるよう、施設に対して働きかける。	保育課
83	保育園地域子育て支援センター	就労形態の多様化や核家族化により、子育てに対する負担や悩みを抱えている人が少なくないことから、子育てに悩んでいる人や交流する機会を望んでいる人に保育園を開放し、相談指導、子育てに関する情報、各種講習を提供していく。 また、地域全体で子育て親子の育ちを支援するため、関係機関や子育て支援活動を実施する団体等と連携の構築を図る。	各施設にて、発達相談や食事指導等、健康増進につながる講習を気軽に参加できる形式で開催している。	公立保育園３か所・私立保育園等20か所で実施し、延べ36,862人が利用した。	市内全体の利用者は前年度と比較して同水準ではあるが、利用者が極端に少ない施設があった。	継続して積極的な周知と充実した講習・相談体制の構築を図る。	保育課
84	ゲートキーパー研修	悩みを抱え自殺を考えている人に気づき、声をかけ、必要な支援や相談につなぎ、見守る役割を担うゲートキーパーを養成するもの。市民・関係者・支援者の各対象に応じた研修を実施する。	ゲートキーパー研修	市民向け(民生委員、学びコーディネーター、職域）　７回 関係者向け(コミセン主事等)３回 支援者向け(講師：ルーテル学院大学）１回	職域層で行う市民向けの研修会の開催が少ない。こころの講座や自殺対策は敬遠されることも多いので、関係者等から理解を得ていくことや、少しずつでも、市民に理解してもらえるよう、今後も普及啓発が必要。	新採用職員、窓口対応職員や教職員を対象に引き続き基本研修を実施する。その他に、職域層を対象に、企業等でのゲートキーパー研修の実施を強化する。 また、支援者への研修会も実施する。	健康増進課
85	窓口・電話による健康相談	【目的】 　健康の保持増進を図るため、市民のこころや身体に関する悩みや不安に対して、保健師及び看護師、管理栄養士等が健康相談に応じる。 【対象者】 　市民 【実施期間】 　通年	(1)　窓口相談 (2)　電話相談 (3)　AI相談パートナー 　令和５年度から、AI相談パートナーを活用し（音声のテキスト化・ガイダンスによるサポート）、相談対応の平準化及び質の向上、事務処理の効率化を図っている。	(1)(2)健康相談来庁電話 1,587人 (3)AI相談パートナーを使用した相談者数　183人	市民の相談にタイムリーに対応し、悩みや不安を軽減することができた。	・AI相談パートナーの活用を推進し、電話相談における相談内容の要約や記録作成による事務の効率化、より質の高い相談対応を目指す。 ・引き続き市民の相談に応じ、個人・家族の不安や悩みの軽減を図る。	健康増進課
86	健康づくりの周知	市政だより等で長岡市が実施している各種健（検）診、各講座、健康相談会等を市民に周知する。	こころの相談会、各講座、健康相談会等、気軽に参加や相談できる場の周知を行う。	・市政だよりやチラシ、公式LINE、健康アプリなどを活用し、健康講座、健康相談会の周知や、健康づくりについての情報を発信。 ・健診受診者に対し、健診結果通知に健康相談会の案内を同封。	・市政だよりや各講座やイベントのチラシを見ての申込みが多い。特に市政だよりは全戸配布であることに加え、健康意識の有無に関わらず自然と情報に触れやすい媒体であることから、周知に有効だったと考えられる。	引き続き、さまざまな媒体を活用した情報発信を行うことで、誰もが気軽に参加・相談できる環境づくりに努めていく。	健康増進課
87	総合相談援助事業	日常生活上生ずる心配ごとや福祉に関する幅広い相談に適切な助言を行い、他の専門機関と連携して総合相談援助活動を実施する。	対象を限定せず、誰もが相談できる窓口として、市民の多様な相談に応じる。	相談所開設日数　242日 　　相談者数　466件	直接の問題解決に至らなくても、相談者が抱えている課題を一緒に整理し、相談者に寄り添う支援ができた。	引き続き、相談者が不安や悩みを安心して語れる場を提供し、心の負担やストレスの軽減を図る。	長岡市社会福祉協議会
89	子育て支援地区活動	母子保健推進員が中心となって、妊婦や赤ちゃん、母親（父親や家族を含む）の交流の場づくりなどを、地区の状況に応じて企画・実施。	親子ふれあい体操やおやつ作り等の内容を通して、親子が交流できる場を母子保健推進員が企画・実施している。	実施回数：147回 参加者：1,152人	参加者同士の交流や情報交換の場になっている。一方、少子化により活動の継続が難しい地域もあり、開催方法等の検討が必要。	今年度も同様に実施する。	母子保健推進員協議会（こども家庭センター）
90	PTA 活動	児童生徒の健全な成長を図ることを目的とし、親と教師が協力して、学校及び家庭における教育に関し理解を深め、その教育の振興に努め、児童生徒の校外における生活の指導、地域における教育環境の充実の改善、充実を図るため、会員相互の学習その他必要な活動を行っている。	左記のとおり	市Ｐ連だよりの発行 市Ｐ連ルールの啓発活動 加盟校 　小学校52校、中学校27校 　小中合同２校　計81校	市Ｐ連ルール（スマートデバイスルールの使い方）について、意識啓発を図った。	R7と同様	長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会 (子ども政策課)
91	子どもの虐待防止ネット・にいがた学習会・講座	しつけの方法を学んだり、親同士が話し合い自分にあった子育て方法を学んでいくことを支援する。	子どもへの具体的な声掛等を学べる子どもとの上手なコミュニケーション講座やNPプログラムを実施している。	実施回数：24回 参加者延べ：262人	引き続き講座のターゲット層への周知が必要である。	今年度同様に実施予定。	こども家庭センター
92	無料育児相談	毎月第３木曜日に助産師を子育ての駅「てくてく」に派遣し、来所している方の相談に対応する	来所された方たちの育児全般に関する相談を聞き、不安の解消の一助にする。相談者の子どもの月齢や年齢は様々なため、相談内容には、母乳のこと、離乳食、家族のことなど多岐にわたっている	９月12月除いた10回実施　参加者60組	無料育児相談の実施日に合わせて来所してくれる方もいられるので、開催している意義があると評価できる	要望が高いので今後も続行する.ままのまカフェへの助産師派遣事業とダブらない範囲で、年９回程度実施予定	長岡助産師会

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
93	相談事業	市民活動団体の立ち上げ相談 市民団体の法人化の相談 各団体の運営相談 ボランティア活動に関する相談	市民活動関連講座の開催 専門家の派遣 資金調達の相談 市民活動に関する情報誌の発行	○一般向け講座 参加者75名 ○組織運営講座（３回） 参加者計124名 ○出前相談（専門家派遣）４件 ○情報誌「らこって」毎月発行 ○市民活動を紹介するラジオ番組「つながるラジオ（FMながおか）」放送 48回 ○Facebook,X,Instagramでの情報発信 ○相談件数 817件	【評価：社会的つながりと受け皿の拡充】 ○デリケートな課題（不登校親の会、LGBTQ、がん患者会など）を抱える市民の受け皿となる団体の立ち上げや運営を伴走支援し、孤立防止とこころの健康維持に寄与した。 ○登録団体数が増加し、市民が主体的に社会参加できるインフラが強化された。 ○相談窓口を起点に学生ボランティアと団体をつなぎ、地域活動へ若い力を注入した。 【課題：担い手不足、情報格差】 ○福祉・傾聴系ボランティア等の高齢化と事業継承が深刻化しており、若者とのマッチングをさらに仕組み化する必要がある。 ○情報誌「らこって」紙版廃止に伴い、高齢層などが情報から取り残されないようなアナログでの情報補完が課題。	○講座の開催 ○専門家派遣 ○WEBサイト、SNS、FMラジオでの情報発信 ○市民活動に関する相談対応 ○映像やテキストなどWEBコンテンツの制作・発信 ○LINE公式（情報発信、チャット相談窓口）の運用	市民協働センター
94	ままのまカフェへの助産師派遣事業	長岡市で実施している双子のままのまカフェ（子育ての駅「ぐんぐん」）に助産師を派遣し、来所している方の相談に対応する	双子の子どもの親たちの育児の相談に乗る。母子保健推進員の方たちと一緒に子守や見守りをすることもある	双子のままのまカフェ開催日　年４回実施　参加者14組	双子の会に助産師が相談員として加わることで専門的なアドバイスが実施できる。	４回/年長岡市で実施している双子のままのまカフェに助産師派遣	長岡助産師会
108	バリアフリーのまちづくり（新潟県福祉のまちづくり条例）	■条例の目的：すべての県民の自由な活動と社会参加を促進するために、県民の理解のもとに、高齢者、障害者等が安全かつ快適に地域で生活できるような生活環境を図る施策を推進する。 ■条例の内容：多数の人が利用する建物、施設等の整備について一定の基準を設ける。（便所、廊下、エレベーター、駐車場、歩道等）事業者は建築確認申請時に事前協議を行ったうえで整備を進め、市が事業者に助言、指導を行う。	県から市への事務委任：次の業務について、住民に最も身近で地域行政を担う市の役割が重要であることから県条例により市町村事務（県条例による事務処理特例制度）とする。 ①事前協議の受理及び指導・助言 ②工事完了届けの受理及び完了検査 ③整備基準適合証の交付 ④既存施設の状況把握及び指導・助言 ⑤公共的施設所有者への勧告及び公表	協議件数８件、うち適合件数０件	新潟県福祉のまちづくり条例に基づいて事前協議の受理を行っている。	引き続き条例に基づき事業者へバリアフリー整備の助言、指導を行うことで、誰もが安心して暮らせる環境の実現を目指す。	福祉総務課
109	基本計画の推進	平成30年度から令和９年度までの新たな一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づき、3R（発生抑制・再使用・再生利用）の推進、市民・事業者・行政の役割分担の明確化、適正な処理・処分を推進し、環境にやさしい循環型のまちづくりを実現する。	平成26年度から、市が実施主体となり資源物拠点回収事業を本格実施している。	・常設型８か所、サテライト型３か所７回 ・合計実施日数100日（土日の9:00～12:00、一部会場は決められた期日） ・受付件数47,410件、回収量611,892kg	ごみとして排出され焼却・埋立処分してきたものを、「リユース」「リサイクル」できた。	継続実施	環境事業課
110	ごみの有料化によるごみ改革事業	平成20年４月から「家庭ごみの一部有料化」を全市域に適用して、ごみの減量とリサイクルを推進してきたが、平成25年からは新たに「生ごみ」を分別収集して生ごみバイオガス発電を開始し、環境への負荷を低減するとともに、健康的で快適な生活環境を確保する。	ごみの有料化によるごみの減量とリサイクルの推進を図る。	令和６年度と同様の分別で、ごみと資源物を収集した。	今後も環境負荷の低減に向けて、ごみの減量に取り組んでいく必要がある。	継続実施	環境事業課
111	リサイクル協力店の市民への紹介	市、市民及び事業者が一体となってごみの減量とリサイクル運動を推進し、資源循環型社会を構築するため、ごみの減量化又は資源化に積極的に取り組む市内の事業者を長岡市ごみ減量・リサイクル協力店として認定し、市民に推奨する。	長岡市ごみ減量・リサイクル協力店の認定し、市民へ推奨する。	・認定数:令和７年度末時点42店舗 ・市民からの問い合わせに対し、長岡市ごみ減量・リサイクル協力店を案内して利用の働きかけを行った。	今後もパンフレットを利用しながら、市民や企業へ制度内容を周知するとともに、その活用を促進していく必要がある。	継続実施	環境事業課
112	市政だより・環境情報誌による啓発	ごみ減量とリサイクルを推進し、市民意識のさらなる高揚を図るため、ごみ減量とリサイクルの推進に向けた情報を、市政だよりや環境情報誌を活用して、細やかに発信する。	市政だよりや環境情報誌を活用した、正しいごみの分別方法やごみに関するきめ細やかな情報発信を行う。	廃棄物の削減、循環型社会の実現及び廃棄物処理体制の安定的確保を図るため、ごみと資源物の排出量をわかりやすい形で紹介し、市民に更なる減量を呼びかけるとともに、リチウムイオン電池の取扱い等について周知を図った（環境情報誌を１回発行）	今後も市政だよりや環境情報誌を通じて、ごみ処理の現状や市のごみの減量・リサイクルの取り組み、ごみ出しルール等の周知啓発を図る必要がある。	継続実施（環境情報誌の発行は１回）	環境事業課、環境政策課
113	堆肥化容器購入への助成	家庭から排出される生ごみを減らし、堆肥として資源化を図るため、生ごみ処理器を設置する市民に対し、補助金を交付する。	生ごみ処理器設置補助金を交付する。	補助実績:69台（累計13,355台）	ごみを自家処理しごみの減量に取り組む市民を支援することができた。	継続実施	環境事業課
114	ながおか地消地産推進店「ばくばくさんのお店」の展開	安全安心な地場産農産物を積極的に使用するながおか地消地産推進店「ばくばくさんの店」に対して、マルシェ等の開催やイベントへの出店支援をする。	マルシェやイベント出店を通じて、消費者が地場産農産物を購入し、食べる機会を創出する。	「みんなのやさいマルシェ」の開催支援や「えだまめマルシェ」を開催し、市内農業者や飲食店が地場産食材を消費者に提供する機会を設けた。	旬の食材を活用した地消地産のPRやまちなかの賑わい創出等、行政としての目的は達成したと考えられる。	引き続き、農業者と消費者が交流できる機会や農業者と飲食店等の実需者が連携できるよう支援する。	農水産政策課
115	長岡市交通バリアフリー基本構想推進事業	移動円滑化が図られるよう公共交通のバリアフリー化の推進を図る。 【令和６年度事業内容】 ・ノンステップバスの導入補助	バス事業者へ、ノンステップバス導入にあたり車両購入費の一部について補助を行う。	車輌購入費補助は実施しなかったものの、市内バス事業者が旧型車両のノンステップバスを優先的に購入できるようノンステップバス導入要請の通知文を作成し、導入を促進した。	長岡駅乗り入れのノンステップバスの割合が増加した。	引き続き、バス事業者へノンステップバスの導入支援を行う。	交通政策室（都市政策課）

No.	事業名	事業概要	分野に関する事業内容	R7年度実施状況	評価及び課題	R8年度の実施計画	実施主体
116	雪道計画推進事業	「雪みち計画」設定エリア内の幹線道路等について、関係機関や地元関係者からなる「雪道みち計画推進協議会」に諮ったうえで、歩道除雪等の実施路線を決定し、冬期間の安全・安心な歩行者空間確保を推進する。	歩道除雪の実施	225.9km（前年比+0.2km）	適切なタイミングで除雪を実施し、歩行者空間の確保に努めた。	225.9km（未定）	道路管理課
117	通学路歩道等消雪施設整備事業	小学校周辺の通学路となっている歩道に消雪パイプを設置し、冬期間における児童の安全な通学路を確保する。令和元年度から、新たに支所地域や中学校にも対象を拡大し、通学路に歩道消雪パイプを整備する。	通学路歩道消雪パイプの設置	31校（前年比+１校(江陽中学校)） 江陽中学校(さく井のみ 新規)	消雪パイプの新設により、歩行者空間の確保に努めた。	１校（江陽中学校） L=537m(新規)	道路管理課
118	（小学校における）環境教育	小学校において、社会科や総合的な学習の時間を活用し、環境問題に関する学習を行うことで、環境教育の充実を図る。	・生ごみのバイオガス化など、廃棄物の減量化に関する学習活動 ・ごみの分別の意義や方法を学ぶ授業の実施	社会科や総合的な学習の時間を活用し、環境問題に関する学習を行った。	学校での環境学習や環境衛生センター見学等により、分別やリサイクルなど、ごみ減量化への意識が高まっている。	継続実施	学校教育課
119	環境学習・啓発推進事業	小・中学校において、総合的な学習の時間や特別活動の時間を活用し、環境問題に関する学習を行うことで、児童・生徒の環境意識を高め、啓発推進を図る。	・生ごみのバイオガス化など、廃棄物の減量化に関する学習活動 ・ごみの分別の意義や方法を学ぶ授業の実施	総合的な学習の時間や特別活動の時間を活用し、環境問題に関する学習を行った。	学校への働きかけにより、各学校が全校体制で環境問題に取り組んだ結果、分別やリサイクルなどごみ減量化への意識が高まり、クリーン作戦や町をきれいにしよう等の具体的な行動を続けている。	継続実施	学校教育課
120	熱中！感動！夢づくり教育推進	【事業概要（令和７年度）】全67事業実施 夢を描き志を立てて生き抜く力を育むことを目的に、オール長岡で実施する、子どものやる気や学ぶ意欲を引き出す４つの方策を展開する。	方策Ⅰ「確かな学びを実現する学校・園づくり」 ・教育環境を充実し確かな学力の育成を図る事業（４事業） ・教職員・保育士の資質・指導力の向上を図る事業（８事業） 方策Ⅱ「子どもの個性・可能性を伸ばす学びの場づくり」（９事業） 方策Ⅲ「子どもが熱中・感動する豊かで多様な体験づくり」 ・自然・科学体験（８事業） ・スポーツ体験（５事業） ・芸術・文化体験（10事業） ・地域体験（４事業） ・社会体験（９事業） 方策Ⅳ「子どもの育ちをしっかり支える土台づくり」 ・子育て・幼児教育を支援する事業（５事業）　・家庭教育を支援する事業（５事業）	関係課各団体と連携しながら67事業を実施した。	熱中・感動体験を通して、様々な人と触れ合い一緒に活動した結果、やる気や学ぶ意欲を引き出し、子どもの興味関心が幅広い分野に広がりを見せ始めている。 　また、学校と地域が連携する機会が増え、ALL長岡で子どもを育てることができてきている。	継続実施	学校教育課
121	学校保健推進活動	保健教育、保健管理活動を家庭や地域の関係機関等と連携を図りながら実施する。	各校において、学校保健計画を作成し、教育活動全体を通じて計画的、組織的に学校保健を推進する。	各校において実施	担当課において、学校を訪問を通し、計画と実施状況についての把握を行った。	各校の学校保健計画に基づき、教育活動全体を通じて計画的、組織的に学校保健を推進する。	学務課
122	地域の伝承料理や健康課題を取り上げた情報提供	長岡市の食材や伝承料理、健康課題に応じた食事の工夫等を知る事で、地域の食文化や地産地消を意識し、心身ともに豊かな食生活の推進を図る	長岡市の食材や伝承料理を活用した調理実習等を行ったり、健康課題を取り上げた情報提供等を行う。	・地域の食材や伝承料理を活用した調理実習や情報提供を講座の中で行う。 ・長岡市「すこやかともしびまつり2025」お仕事チャレンジブースにて「★困っている人の食事を改善してあげよう！」のテーマで参加。	・資料等を配布することで家庭への啓発にもつながったが、講師や調理実習等は依頼に応じた事業のため、継続的に行う事ができるかわからない。 ・体験を通して家庭での食事の振り返りを行うことができた。	「地域の伝承料理や健康課題を取り上げた情報提供の取組」を継続	栄養士会長岡支部